

平成 20 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2009

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目 次

I. 平成20年度事業概要	1
調査の理由と工程	2
平成20年度 調査遺跡位置図	4
II. 遺跡調査の概要	7
瀬戸市 桑下城跡	8
稲沢市 長野北浦遺跡	14
塔の越遺跡	18
東海市 松崎遺跡・上浜田遺跡	24
岡崎市 車塚遺跡	28
滝町古窯	30
西牧野遺跡	32
安城市 惣作遺跡	33
豊川市 羽根遺跡	37
豊橋市 東屋敷遺跡	41
新城市 柿下遺跡	43
吉竹遺跡	45
加原遺跡	47
石座神社遺跡	49
石岸遺跡	53
モリ下遺跡	57
蒲郡市 坂野古墳群	59
新城市 欠下城跡	60
設楽町 笹平遺跡・万瀬遺跡・大名倉遺跡	61
III. 刊行報告書抄録	63
第144集 下懸遺跡	64
第151集 万徳峠・川合D窯跡	66
第154集 朝日遺跡Ⅷ	68
第157集 大坪西遺跡	70
第158集 惣作遺跡	72
第159集 下津新町遺跡	74
第160集 西松山峠遺跡	76
第162集 今町遺跡Ⅱ	78
IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録	81
V. 発掘調査技術等研修会の記録	87
VI. 埋蔵文化財センターの活動	91
写真資料の貸出・提供	92
ホームページほか	94
現地・地元説明会等	100
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導	100
平成20年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧	101

I. 平成 20 年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査期間	調査担当者
国土交通省 中部地方 整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	大名倉遺跡始め 3 遺跡	200	平成20年10月 ～12月	宮腰・岡久
	名四国道 事務所	一般国道23号 蒲郡バイパス	坂野古墳群	100	平成20年5月～ 6月	石黒・蔭山
中日本 高速道路 株式会社	豊川工事 事務所	第二東海自動車道 横浜名古屋線	柿下遺跡	2400	平成20年12月 ～3月	酒井・永井邦
			吉竹遺跡	350	平成20年4月～ 6月	酒井・永井邦
			石座神社遺跡	5200	平成20年6月～ 平成21年3月	宮腰・早野
			加原遺跡	2000	平成20年4月～ 平成21年3月	酒井・永井邦
			石岸遺跡	800	平成20年4月～ 9月	樋上・岡久
			モリ下遺跡	3100	平成20年9月～ 平成21年3月	樋上・岡久
			欠下城跡	100	平成20年4月～ 5月	宮腰・早野
	豊田工事 事務所	第二東海自動車道 横浜名古屋線	西牧野遺跡	100	平成20年5月～ 6月	池本・松田・ 宇佐見
県建設部	都市整備課	都市再生推進事業 3・3・14号 稲沢西春線	長野北浦遺跡・ 塔の越遺跡	7650	平成20年4月～ 平成21年3月	石黒・鶴飼・ 蔭山
		連続交差立体事業	松崎遺跡・ 上浜田遺跡	6200	平成20年8月～ 平成21年3月	池本・松田・ 川添
	道路建設課	道路改良工事 国道363号	桑下城跡	3300	平成20年8月～ 平成21年3月	小澤・宇佐 見・武部
		道路改良工事 (主) 岡崎足助線	車塚遺跡	2000	平成20年5月～ 8月	池本・松田・ 宇佐見・武部
		道路改良工事 (主) 東三河環状線	東屋敷遺跡	1050	平成20年11月 ～平成21年3月	鈴木・成瀬
		道路改良工事 (臨交) 大代音羽線	羽根遺跡	4100	平成20年4月～ 9月	鈴木・成瀬・ 川添
	河川課	中小河川改良事業 (鹿乗川)	惣作遺跡	1200	平成20年8月～ 12月	鈴木・成瀬
	砂防課	急傾斜地崩壊対策 事業	滝町古窯	400	平成20年4月～ 9月	池本・武部

40250

2. 整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査期間
整理	県建設部	道路建設課	道路改良工事国道363号	桑下東窯跡	4726	平成17年度
整理・ 報告書 作成	国土交通省 中部地方整備局	愛知国道 事務所	名岐道路	朝日遺跡	2756	平成16～19年度
	中日本高速道路株式会社		近畿自動車道名古屋関線 清洲JCT		656	平成16～17年度
	名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線及び 県道高速名古屋朝日線		2195	平成16～19年度
	県建設部	道路建設課	緊急地方道路整備事業 (主) 豊田知立線	KG93号窯	750	平成18年度

3. 平成20年度刊行物

・埋蔵文化財報告書(計8冊)

第144集 下懸遺跡	第158集 惣作遺跡
第151集 万徳峠窯跡・川合D窯跡	第159集 下津新町遺跡
第154集 朝日遺跡Ⅷ	第160集 西松山峠窯跡
第157集 大坪西遺跡	第162集 今町遺跡Ⅱ

・平成20年度 愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要 第10号

平成20 年度 調査遺跡位置図

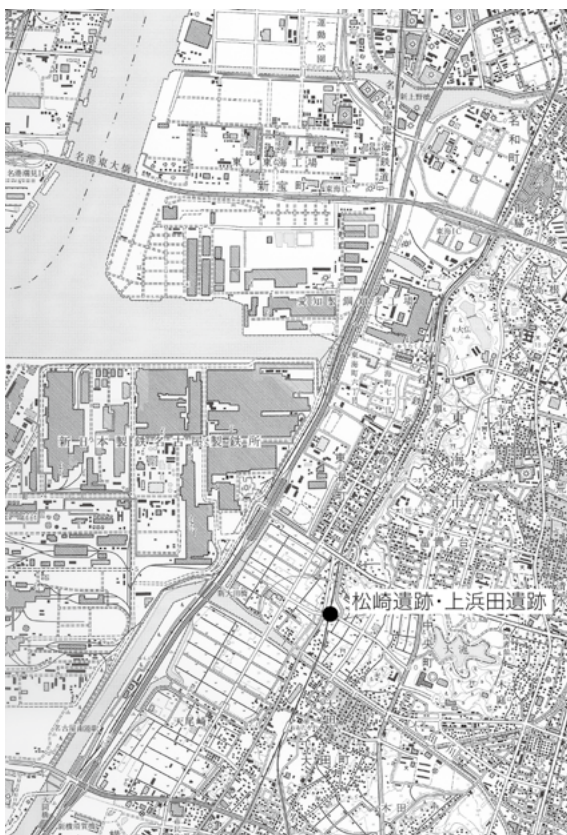
※ 地形図は 50%縮小されています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「多治見・猿投山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「鳴海」



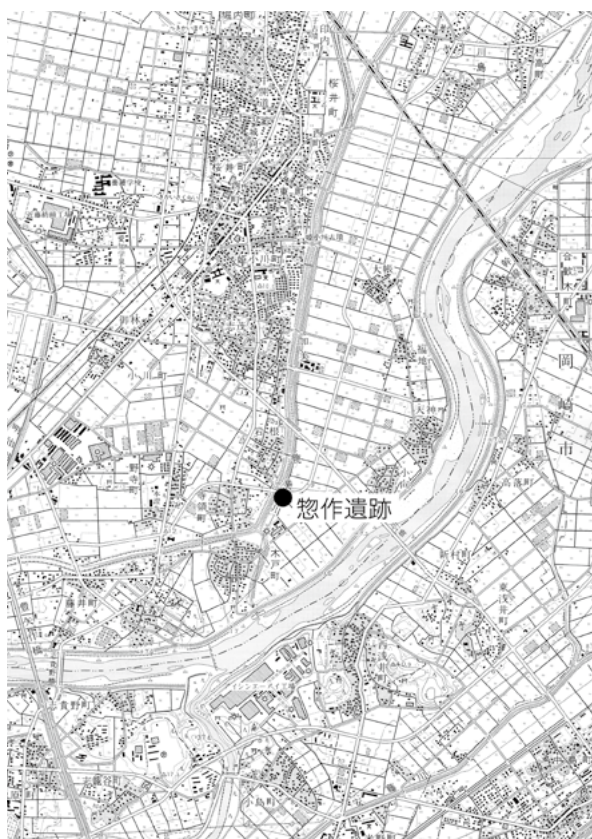
国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南部」



国土地理院 1/2.5 万地形図「岡崎」



国土地理院 1/2.5 万地形図「三河宮崎・御油」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「幸田東部」



国土地理院 1/2.5 万地形図「御油」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」



国土地理院 1/2.5 万地形図「三河大野・三河富岡」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口東部」

II. 遺跡調査の概要

くわしたじょうあと
桑下城跡

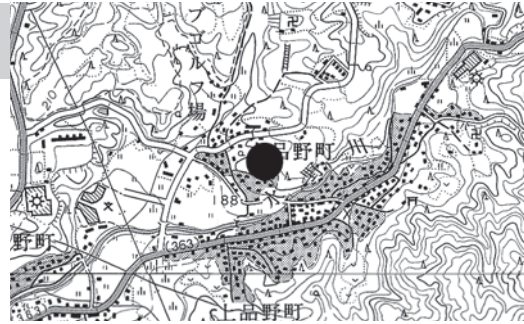
所在地 瀬戸市上品野町
(北緯35度15分24秒 東経137度08分19秒)

調査理由 国道363号改良工事

調査期間 平成20年8月～21年3月

調査面積 3,300㎡

担当者 小澤一弘・宇佐見守・武部真木



調査地点 (1/2.5万「多治見・猿投」)

調査の経過 国道363号道路改良工事伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け発掘調査を行った。調査面積は3,300㎡である。

立地と環境 桑下城跡は瀬戸市北東部にある品野盆地の北東、標高210m前後の丘陵上に立地する平山城であり、東西約220m、南北約100mの規模が推定されている。周辺には隣接して桑下東窯(戦国)や西金地遺跡(縄文～江戸)、遺跡西方の低地部には上品野蟹川遺跡(縄文～中世)などの調査地点が分布する。丘陵南側の集落のある谷筋を水野川が西流し、ここに信濃国へ続く中馬街道が通っていたとされる。一帯は尾張・三河の国境に近いことから、特に16世紀代には織田・松平(今川)の覇権争いの最前線となった。江戸時代の地誌類によれば、桑下城は松平内膳(信定)の家老である永井(長江)民部の居城とされている。なお、品野城跡は谷を挟んだ反対の標高330mの丘陵上に立地している。

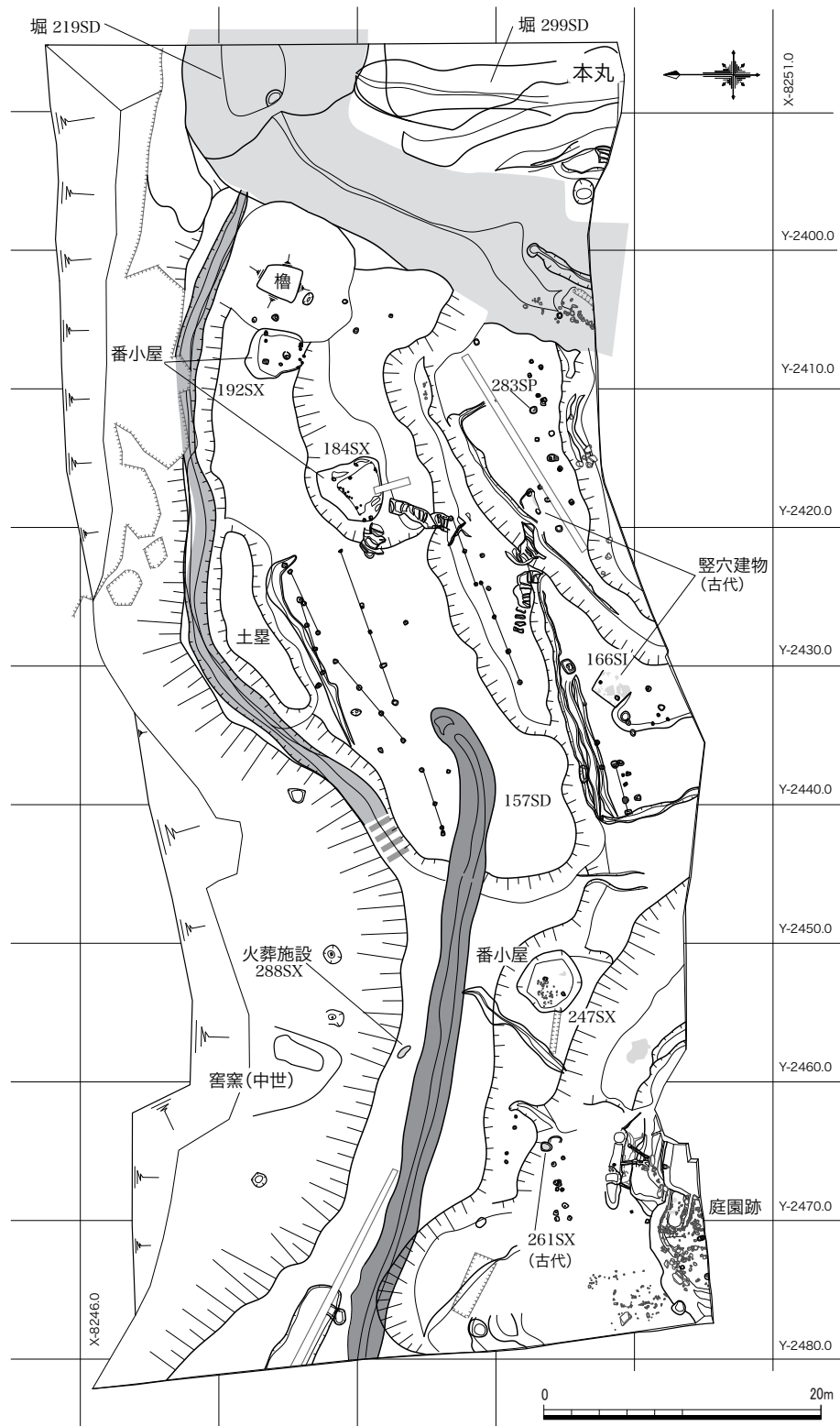
調査の概要 平成17、19年度に続き第3次調査となる今回の調査区は、平成19年度調査地点西側に隣接する範囲であり、このうち西半分をA区、東半分をB区として調査を行った。遺跡全体でみると、調査地点は中央付近でやや北寄りの位置に相当する。

主な遺構 城は東西にのびる丘陵地形を利用しており、北東部が最も高く南西部へ低くなっている。関連する遺構としては、南側斜面にかけて曲輪と想定される平場のほか、大規模な堀、溝、土塁、櫓跡、番小屋跡、柵列、庭園跡があり、本丸西部で堀、溝を確認した。桑下城成立以前の遺構では、陥し穴(3基)、窖窯(1基)、火葬施設(2基)などがみつかった。

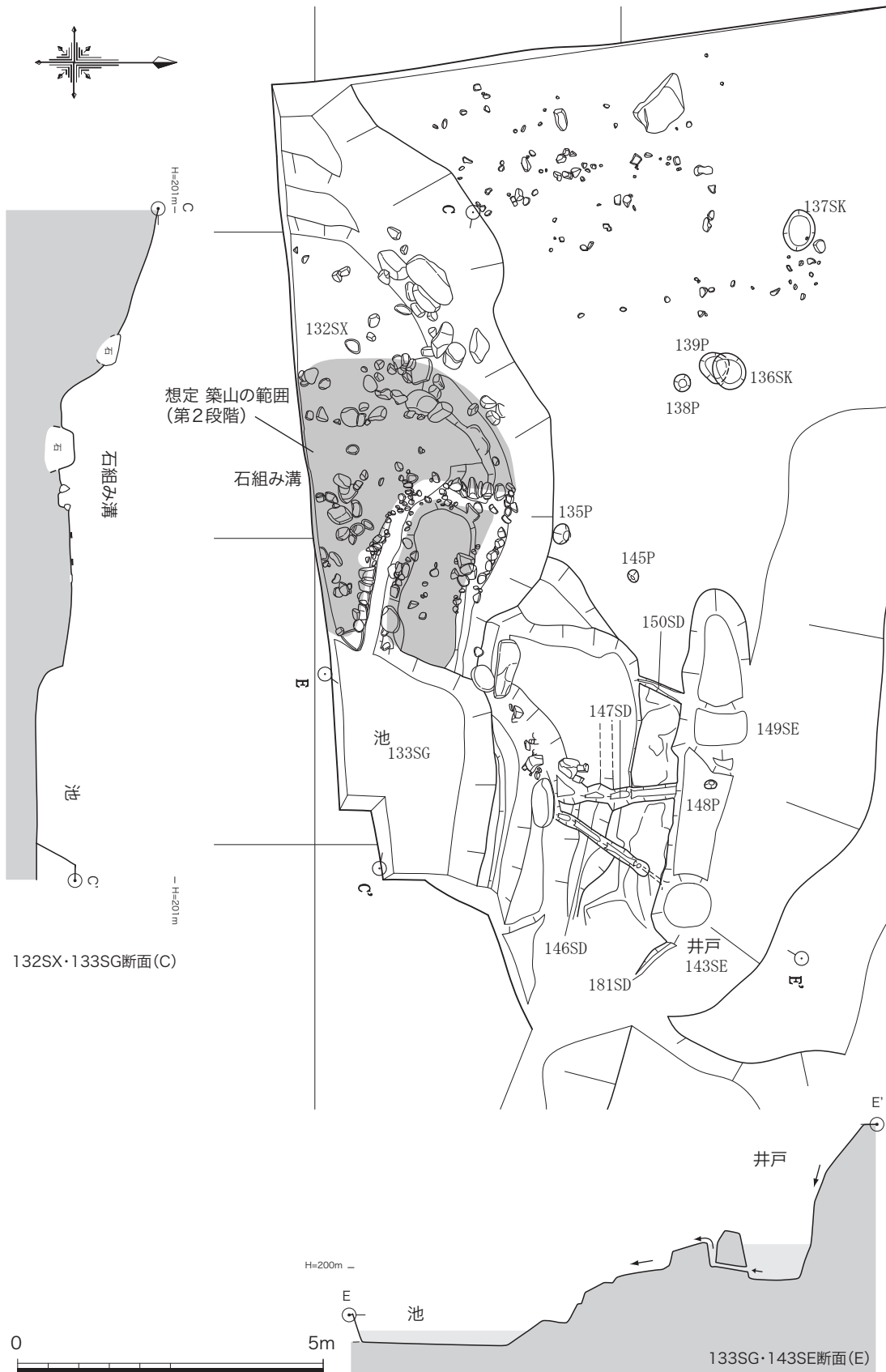
土 塁 土塁は北東部の曲輪の頂部北辺に沿って若干弧をえがくように配置されており、基底部の長さ15.5m、幅7～8m、残存している部分で平場からの高さは約70cmの規模を測る。

櫓 跡 と 番 小 屋 跡 櫓跡は最頂部の曲輪の北東端に位置し、周囲よりさらに一段高い。基底部は径7～8m、高さ約1.2mの土饅頭形を呈する。西側の斜面で数基の柱穴を確認した。番小屋跡は南向き斜面を掘り凹め堅穴状に床面を形成したもので、櫓跡の西側にかけて2基、離れた西方の曲輪で1基を確認した。184SXの床面は幅2.1～3.0m、奥行2.3mの台形状をなし、面積は6.4㎡、南西側を出入口としている。192SXの床面は幅1.6m～2.9m、奥行き3.2mの台形状をなし、面積は7.8㎡、南側が出入口と思われる。両者ともに床面あるいは周縁にピットが確認されており、簡易な覆屋をもつような構造が想定される。247SXは西側に出入口をもつ径約4.5mの不整円形を呈する。整地土に覆われており、床面直上で出土した遺物は古瀬戸後期段階を含むなど、やや古い様相がみられる。

堀 ・ 溝 断面V字状の薬研堀が本丸と西側の曲輪の間を完全に遮断している。堀(219SD)の規模は最も狭い櫓付近で幅約7m、堀底から櫓頂部までの比高差は7.6mを測る。城の内側へと続く部分では様相が異なり、底幅が拡張されて箱堀状となり、本丸側の突出部に沿って屈曲し調査区外南へと続く。堀底の最大幅は3.9mあり、比較的緩やかに南へ傾斜している。



主要遺構平面図(1:500)



北西部の曲輪頂部を東西に縦断する溝(157SD)があり、東端は土塁の南側で浅くなり途切れる。断面U字状を呈し、幅約2.6m、深さ約1.0mを測る。埋積の状況等から古い段階の遺構と思われる。土塁北側をめぐる溝は、幅1.2m、深さ60cmあり、位置・埋積状況等から土塁の構築工法に関連する遺構と想定される。なお、空測後に本丸西側整地層の下で断面逆三角形状を呈する南北方向の堀(新旧2条あり、299SD)を確認した。

庭園跡 丘陵を背にした曲輪の奥に設けられた庭園であり、井戸には特殊な構造が認められる。また、石組は作り替えが認められる一角があり、少なくとも2時期のあることが判明した。

井戸 井戸(143SE)は一段高い位置の曲輪に設けられている。周辺からの湧水を溜めるつくりで、構造物はなく素掘井戸と考えられる。規模は径1.1m、検出面からの深さ0.85mである。南西側面の下位に径10cm前後の横穴が穿たれており、水はトンネルから溝(146SD)を通り池の方向に流れる仕組みと考えられる。井戸は東西方向に長い長楕円形の凹みの東端にあり、同じ凹みから池方向へ導水する別の溝(147SD,150SD)が確認された。

石組 石組の溝は池の西側に接してコの字形に配置されており、池と同時期の施設と考えられる。範囲は東西3.0m、南北1.8m、溝の幅25cmを測る。20～40cm大の石材を用いており、組み方は不揃いで一定していない。被熱の痕跡のある石材が多く利用されている。

池 池(133SG)は調査区外へ続くため全体の形状は不明であるが、検出範囲で東西3.5m、南北2.5mを測り、北辺と西辺に直線的な部分がみられる。深さは約0.4mあり、地山を掘り下げた底面はほぼ平坦である。北縁に沿って溝が配されている。

その他 北西側の曲輪の北斜面で山茶碗(第8型式)を焼成した窖窯を検出した。そのほか同じ曲輪頂部および土塁の北西側で火葬施設と推定される土坑と焼土の範囲を確認した。288SXは長軸が北西―南東方向を向く長さ1.2m、短軸43cm、深さ約20cmの船底形の凹みで、内部の埋土には少量の炭化物と骨片を含む。土坑周囲は被熱による変色がみられ、特に側面の上位は部分的に硬く焼締まっている。ただし、炭化物は少量で土坑底面には被熱の痕跡は認められなかった。検出層位の検討から、時期は城の成立以前と考えられる。

出土遺物 中世遺物の分布は本丸の西斜面と堀付近に集中し、ほか番小屋(247SX)と庭園跡、柱穴(283SP)でみられる程度である。瀬戸・美濃産陶器擂鉢が最も多く、天目茶碗、灰釉・鉄釉皿類、花瓶や耳付鍋のほか匣鉢、挟み皿、焼台など窯道具、窯壁の一部があり、概ね瀬戸・美濃大窯編年の大窯1～2段階に属する。これらの大半は本丸部分改築以前に付近で操業した窯跡からの廃棄物と考えられる。ほかには常滑産甕、土師質の皿、鍋、青磁など輸入磁器の小片がある。城の成立以前の時期については、8世紀後半～9世紀初め頃の須恵質の瓦塔片(屋蓋部10点)、須恵器杯、蓋、山茶碗、小皿などがある。(武部真木)

まとめ 今回の調査では丘陵を切り込んで造成され、防衛を基本とする施設を配置した各曲輪部分で、城の形状が良好な状態で残っていた。場所は本丸の西側部分で、堀と各曲輪を調査した。本丸の西側には深い薬研堀と、曲輪が14カ所あり、曲輪からは番小屋跡、掘立柱建物、柵列、庭園跡等が見られた。本丸の西南端の精査により、本丸の造成に少なくとも3時期、地山直上の灰層と暗黄褐色層整地層、地山ブロックと黄褐色整地層、最終盛土整地層であることを確認した。また本丸西側から堀2条と径30～40cmの柱穴5基を検出した。

庭園跡は調査区南西部の曲輪で、井戸、溝、石組、池で構成されている。全体の規模は調査区外に展開するため不明であるが、石組みの組み替えが二度見られることから、少なくとも庭園は2時期があり、庭園が名立たる武将だけでなく在地領主クラスまでにも普及していたことが窺える。(小澤一弘)



桑下城跡全景（北西から）



番小屋跡(184SX,北西から)



番小屋跡(192SX,北から)



本丸と櫓の間の堀(219SD,北から)



番小屋跡(247SX,南東から)



作業風景(本丸側の東から)



曲輪頂部のピット列(東から)



庭園跡の井戸付近(北西から)



庭園跡の石組み溝(東から)



庭園跡の井戸より続く溝と池(南から)



竪穴建物166SI(北から)



283SP遺物出土状態(北西から)

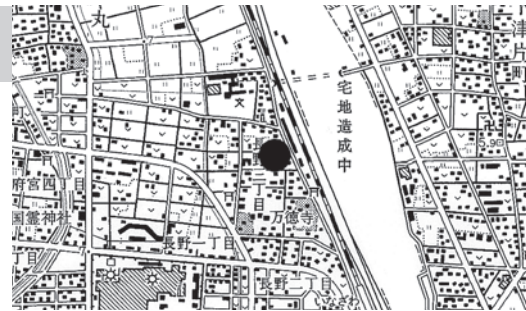


出土瓦塔片(裏)

ながの きたうら

長野北浦遺跡

所在地 稲沢市長野
(北緯35度15分25秒 東経136度49分04秒)
調査理由 都市計画道路稲沢西春線建設
調査期間 平成20年4月～平成20年10月
調査面積 1,500㎡
担当者 石黒立人・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「一宮」)

調査の経過 長野北浦遺跡の発掘調査は、都市計画道路稲沢西春線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部都市整備課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。
本遺跡は稲沢市東部、JR東海道本線稲沢駅より北北西約500mに位置する遺跡で、地形的には西の三宅川と東の青木川にはさまれた微高地の縁辺に立地する。同事業に伴って発掘調査を実施した塔の越遺跡は西に隣接する。

調査の概要 調査区は07A区と07Ba区の間にある未調査部分を、東から08A区～08D区とした。
遺構と遺物は古墳時代前期から古代、鎌倉時代から室町時代前半、江戸時代の大きく3時期に分かれる。古墳時代前期は竪穴住居3棟、方墳の周溝と土坑がある。竪穴住居は方墳の形成される以前のもので、一辺3～4m程の平面隅丸方形の小型住居であった。古墳の周溝は昨年度07Ba区にて検出された方墳の一部であり、方墳周溝の北東外側と北西外側に周溝掘削以前の落ち込み状土坑を確認した。この落ち込み状土坑には炭化物層と焼土層が伴う被熱痕が複数みられ、内部に炭化材を伴う柱穴が複数確認できた。古墳築造に伴う儀礼等の痕跡の可能性もある。また方墳周溝の上層には、基盤層である黄褐色粘土質シルトと黒褐色粘土質シルトが斑土となる人為的埋没痕跡を確認でき、9世紀に属する須恵器が少量出土したことから、方墳の周溝は9世紀頃までにはほぼ埋没していたものと考えられる。

中世の遺構では昨年確認された万徳寺の北に展開する正方位の区画溝の続きが確認できた。この区画溝は鎌倉時代のもので、断面逆台形の溝から断面「V」字形、断面「U」字形の溝へと変遷することが確認でき、区画溝と同時期に水田遺構と畑の畝状溝が存在する可能性が高い。この正方位の区画溝が掘削される以前には、12世紀にさかのぼる可能性のある北北西から南南東にのびる溝2条があり、正方位の区画溝以前に地形の傾斜に沿った区画が存在した状況がみられた。また正方位の区画溝が埋まった後である14世紀後半～15世紀には、区画溝の北に3基の井戸が確認でき、中世万徳寺に伴う居住域が拡大する状況を確認できた。

正方位の区画溝が埋まった後の遺構を主に戦国時代から江戸時代の遺構と考えた。江戸時代前半期以前には、水田遺構や畑の畝状溝、これらに伴う用水路が全面に展開し、続く江戸時代後半期には08A区の東端から08D区西側に屋敷地が展開する。特に江戸時代後半期には結桶を伴う井戸と柱材や礎板が残る柱穴、屋敷地を囲む区画溝が複数重複する状態が確認でき、複雑な遺構変遷が想定された。(蔭山誠一)



方墳の南東側周溝 (08C区167SD)



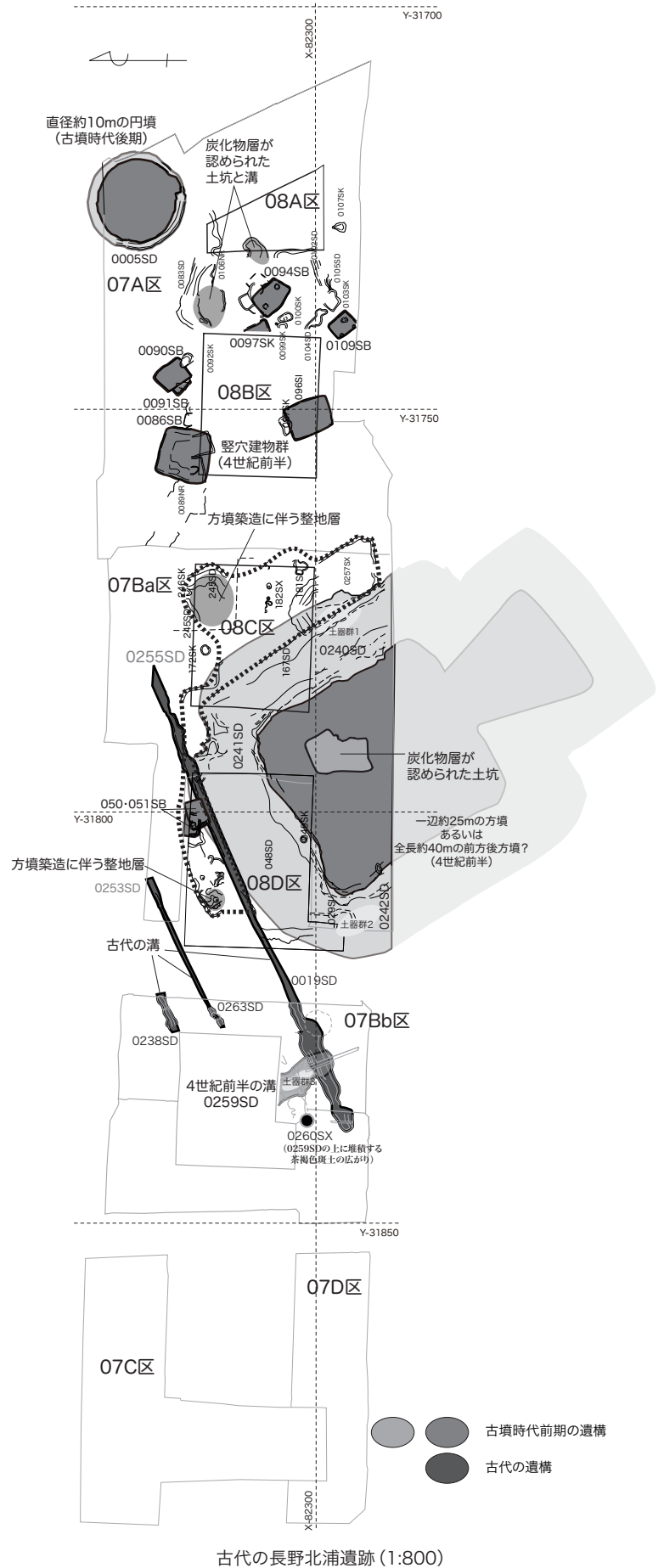
方墳の北西側周溝 (08D区048SD)

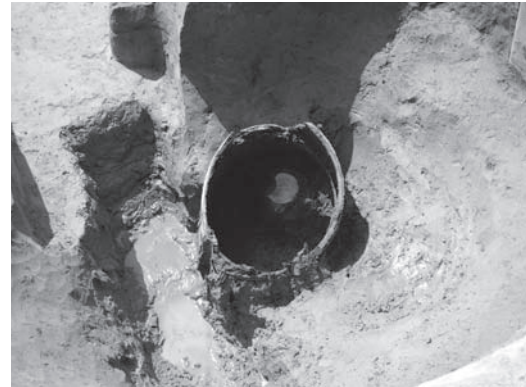
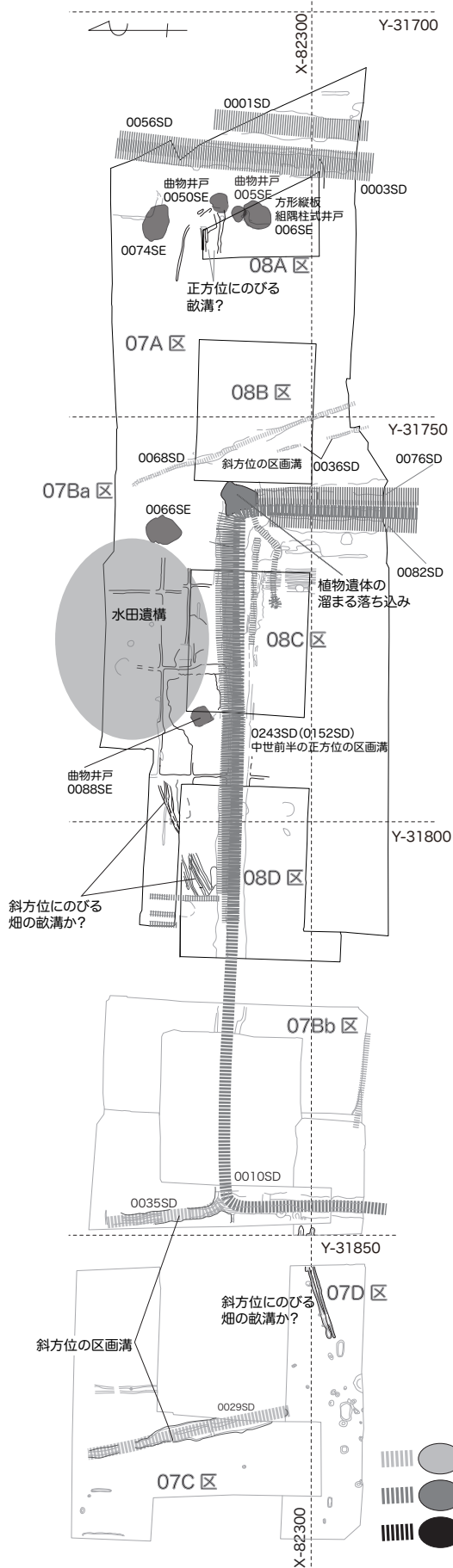


炭化物層の堆積がある土坑 (08A区031SK)



竪穴住居 (08D区050・051SB)

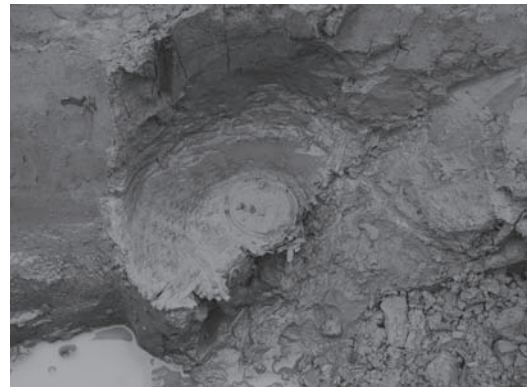




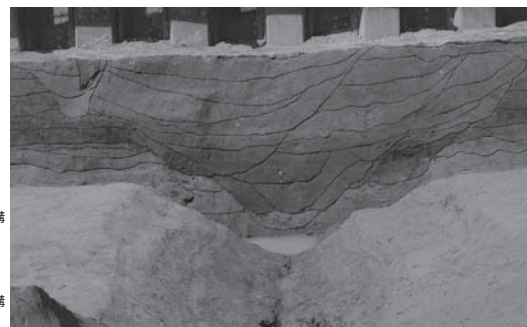
曲物を伴う井戸
(08C区088SE)



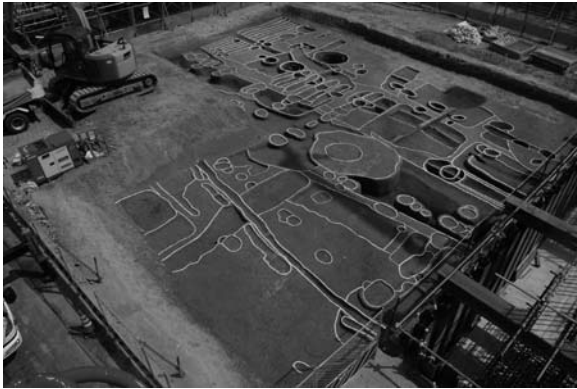
方形縦板組隅柱式井戸
(08A区0066SE)



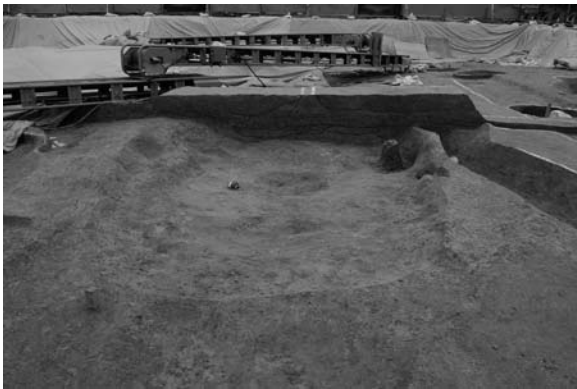
曲物を伴う井戸の下にあった
木製編み物 (08A区0055SE)



正方位の区画溝 (08C区西壁)



08C区1面全景(北西より)



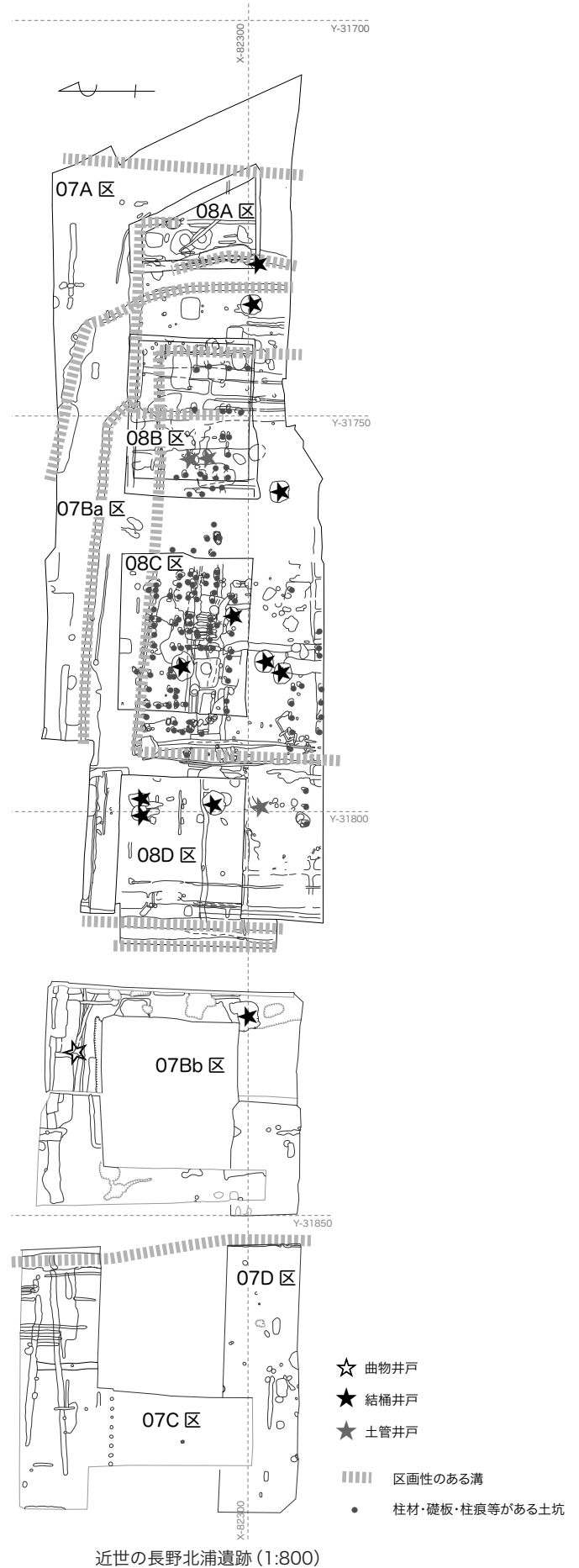
江戸時代の大型土坑(08B区026SX)



江戸時代後半の柱穴群(08B区東より)



江戸時代後半の柱材と礎板(08B区)



とう しの 塔の越遺跡

所在地 稲沢市長野町・治郎丸町
(北緯35度15分25秒 東経136度48分57秒)

調査理由 都市計画道路稲沢西春線建設

調査期間 平成20年4月～平成21年3月

調査面積 6,150㎡

担当者 石黒立人・鶴飼雅弘



調査地点 (1/2.5万「一宮東・清洲東」)

調査の経過 塔の越遺跡の発掘調査は、都市計画道路稲沢西春線にかかる事前調査として、愛知県建設部都市整備課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として調査した。2年目の調査となる本年は、大江川左岸までを調査区として設定した。

立地と環境 塔の越遺跡は、市域を蛇行しながら南流する三宅川左岸の自然堤防上に立地する。遺跡の東には長野北浦遺跡、西には尾張国府跡、北には清敷遺跡が隣接する。遺跡は、稲沢市教育委員会によって1979年に緊急調査、1985・86年に第1次・第2次の発掘調査が実施され、第1次・第2次調査においては、古墳時代前期の土器群、古墳時代中期の円墳が検出されている。昨年度の調査では、古墳時代の周溝や古代の掘立柱建物群、中世・近世の遺構群が検出されている。

調査の概要 今回の塔の越遺跡の発掘調査では、調査区を東から順にA区、西端をI区と呼んで実施した。その結果古墳時代、古代、中世の遺構が検出された。

古墳時代 遺構はA区を中心に分布する。このうち154SD、149SD、037SDは、直径20mを超える円墳の周溝と推測され、154SDは5世紀後半、149SDは6世紀後半の構築が考えられる。昨年度の調査でも古墳の周溝と推定される溝が検出されていることから、A区では中期から後期にかけて古墳が集中することが判明した。なお154SD、149SDは土層断面の観察から再掘削を受けていることが確認されており、154SD東部では大型の掘立柱柱穴2基の掘削が確認されている。このほか154SDの南東に位置する土器集積182SXからは松河戸式に相当する土師器が、175SKからは5世紀後半の有蓋高杯がそれぞれ出土した。

古代 A区・B区では多数の柱穴・溝とともに井戸状遺構などが分布し、C区からI区にかけては須恵器とともに灰釉陶器を伴う溝や土坑が分布する。

A区では北西方向の溝139SD、177SDや井戸状遺構257SXが構築され、その後北北東を軸線とする柱穴列が確認される。柱穴の中には柱痕が遺存するものも見られ、掘立柱建物2棟、柵列1列が想定される。その後Aa区では西北西に軸線を持つ柱穴列2列および溝が検出され、柱穴列では方形の平面プランから楕円形のプランへの変化が見られた。B区では井戸状遺構046SE、047SEが北北東方向に並んで検出されたが、047SEの底部から方形の底板が出土し、土層断面からも井戸の可能性が高い。

Fd区では北東方向の溝057SDを検出した。上層では8世紀頃の須恵器や灰釉陶器が出土しているが、下層では7世紀にさかのぼるものも一部見られる。Cd区で検出された北北西方向の溝007SDは逆台形の形状を持ち、Fd区東端で確認された落ち込み042SXと同一遺構となる可能性が高い。溝の下層では須恵器が、上層では灰釉陶器が出土する。その後溝の掘削方向が南北方向に変化することが、Fd区031SDなどで確認される。

Cc区では竪穴住居跡3棟を検出し、土層断面上確認されたものを含め4棟が切り合い

を持つことを確認した。このうち015SIでは竈の構築が認められ、長胴甕の埋納状況を確認した。また015SI・016SI床面で灰釉陶器・土錘が出土することから、9世紀頃の構築が考えられる。

中世以降 Ha区では井戸013SKが形成され、埋土から出土した碗・小碗は、初期山茶碗の様相を示す。その後、東西方向の溝がHa区011SKやFd区035SK、Eb区025SXで確認された。Ac区では炭化物の混じる埋土を持つ落ち込みの形成後、掘立柱建物1棟が構築されている。中世後期以後の遺構は、調査区全体を通じて希薄である。

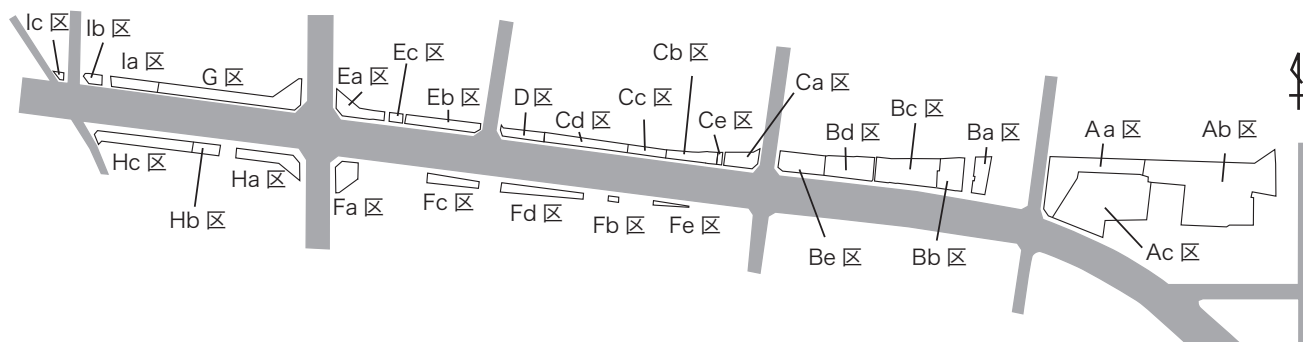
遺物 土師器はAa区・Ab区を除き、相対的に出土量が少ない。調査区全体で最も多く出土する遺物は須恵器であり、古墳周溝からは5世紀後半から6世紀後半の杯蓋・杯身が、その他の調査区では8世紀から9世紀にかけての杯、無台碗、甕などが多く出土した。またA区やD区では臚や円面硯の破片が、またEa区の包含層からは長頸壺がほぼ完形の状態で出土している。瓦については平瓦が数点出土するものの細片が多く、軒平瓦や丸瓦は見られない。

Ab区では瓦塔の破片が1点出土した。これで瓦塔の出土は、1979年調査で出土したものおよび、昨年度塔の越遺跡・長野北浦遺跡の調査で出土したものを合わせ4点となった。このほかCd区007SDでは鉄滓・ガラス滓が、D区で甕の羽口が出土した。なおBd区攪乱土中から尾張型埴輪（朝顔型・円筒型）の破片が出土し、出土地点付近の壁面で古墳の周溝と見られる埋土が確認された。

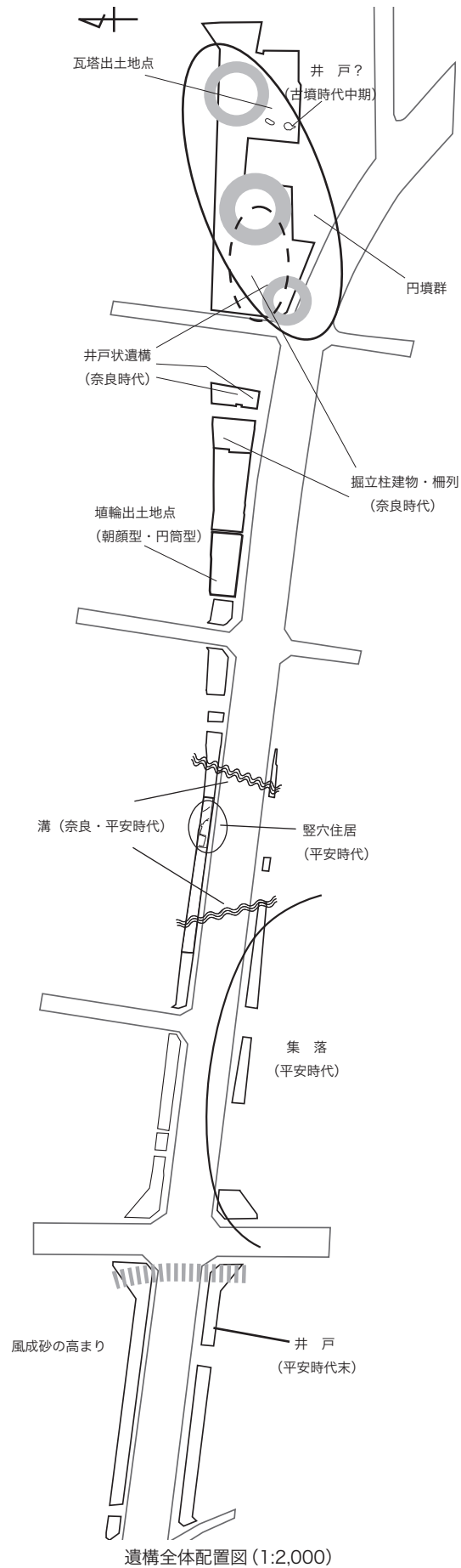
調査成果と今後の課題 今回の調査は東西約600mの範囲に及ぶ。調査の結果、以下の通り遺構の消長を確認することができた。

古墳時代中期から後期にかけ、調査区東部でA区を中心に、古墳と見られる周溝が掘削された。昨年度の調査成果とあわせ、古墳群とも呼ぶべき景観が復元できる可能性が高まった。ただしこれらの周溝から埴輪の出土が見られないこと、稲沢市教育委員会の調査で発見された古墳との相違点を含め、評価・検討する必要がある。

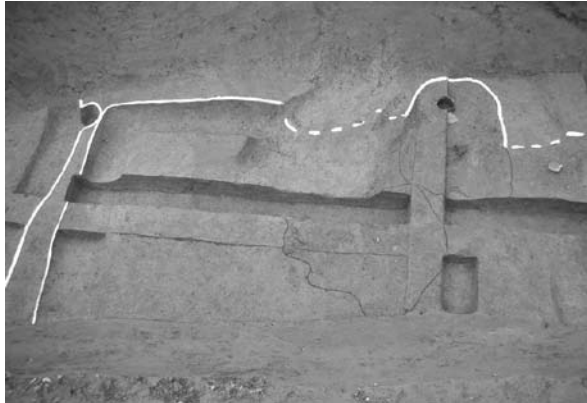
7・8世紀に入るとA区西側からB区にかけて、北北東を主軸とする掘立柱建物や柵列・井戸状遺構が認められ、尾張国府との関連が推測される。しかし古墳の周溝が再掘削されている点などを考慮すると、引き続き祭祀空間が展開したことも考えられる。また井戸状遺構の再検討が必要となったことも特筆される。9世紀以降、遺跡の中心は溝と竪穴住居の分布するC区やF区に移り、集落が調査区より南に広がる景観が予想される。その後中世初頭に井戸が構築されることから、集落の中心が移動した可能性がある。（鵜飼雅弘）



調査区位置図 (1:3,000)



Eb区遺構検出状況



Cc区015SI完掘状況



Cb区028SD完掘状況



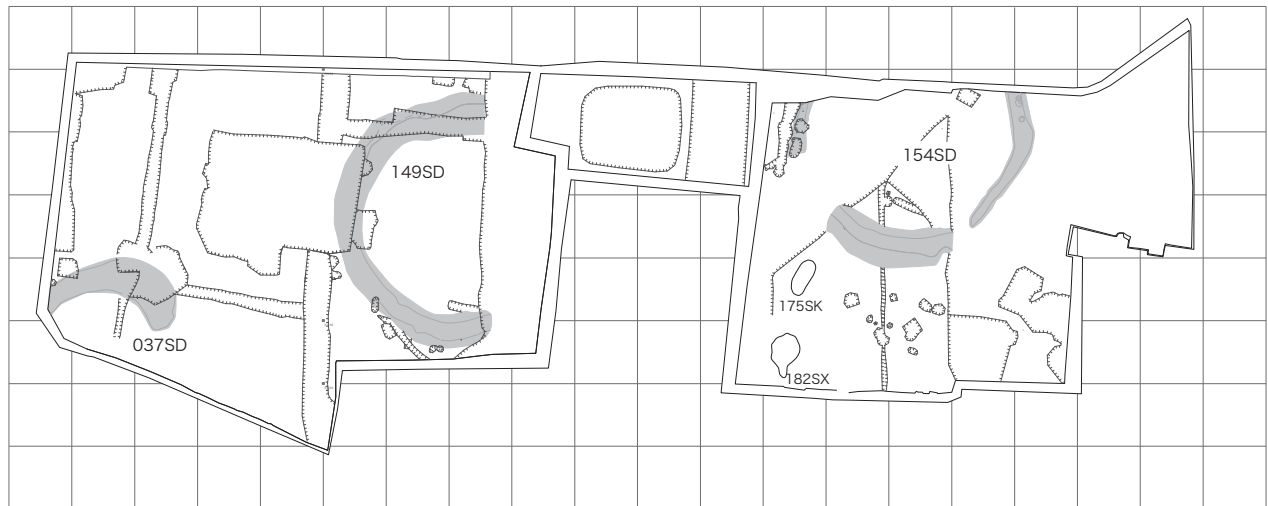
Ac区149SD完掘状況



Fd区025SK遺物出土状況



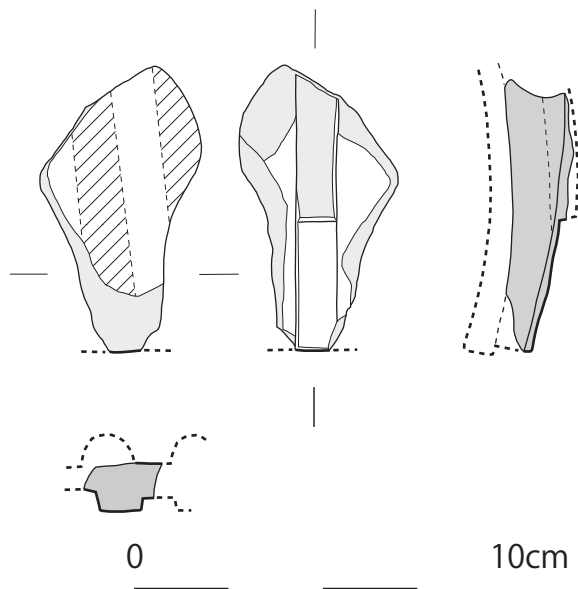
Bb区掘立柱建物



A区古墳時代遺構配置図 (1:600)



175SK有蓋高杯出土状態



Ab区出土瓦塔実測図 (1:2)



154SD内ピット検出状況



182SX土器出土状態



Fa区 1 面目遺構検出状況



Ha区 中世井戸



Eb区023SK 遺物出土状況



D区 円面硯出土状況



G区 甗出土状況



Ab区 037SD 古代柵列

まつぎ かみはま だ
松崎遺跡・上浜田遺跡

所在地 東海市大田町
(北緯35度1分38秒 東経136度53分45秒)

調査理由 名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業

調査期間 平成20年8月～平成21年3月

調査面積 6,200㎡

担当者 池本正明・松田訓・川添和暁



調査地点(1/2.5万「鳴海」)

調査の経過 名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて、発掘調査を実施した。調査は、松崎遺跡・上浜田遺跡を通して行っており、調査面積6,200㎡は2遺跡分の合計である。松崎遺跡は、古墳時代～古代にかけての製塩遺跡として、日本列島で初めて”藻塩焼く”という塩作りが実証的に証明された遺跡としても全国的に著名である。

立地と環境 松崎遺跡・上浜田遺跡は、東海市大田町の伊勢湾岸に面した、最も海側の浜堤上(砂堆)に位置している。遺跡は、現在の標高で2.2m～4mを測り、松崎遺跡では南北400m・東西100mにわたる細長い区域が遺跡範囲と考えられている。

調査区を横断する国道247号線を挟んで、北側にA区、南側にB区を設定し、さらにA区の北側をAa区・南側をAb区と設定した。人為的作用による遺跡の形成としては、土器製塩に関わる包含層が形成された古墳時代から古代と、中世から近世、1900年代初め以降の大きく3期に分けられる。1900年代初めは、当時の愛知鉄道が鉄道敷設時に土地改変した時期である。

調査の概要 今回の調査により、遺跡が立地する砂堆は大きな一つのものではなく、細長い小単位の砂堆が集まって、複雑な地形を形成していることが明らかとなった。形成は古墳時代以前と考えられるものの、明確な形成年代は不明である。今回の調査でAa区、Ab区からB区の北半分という二つの大きな高まりが確認できた。Aa区の砂堆は海岸線に併行して細長い砂堆が二条重なって形成されている。Ab区からB区の北半分では北東―南西方向に伸びるAa区とは別の砂堆であるが、B区調査区中央部付近で落ち込んでいるものと考えられる。B区は調査区中央部から南方向にかけては湿地状の地形を呈していたものと考えられる。

古墳時代 Aa区では、多量の製塩土器片を含む黒色砂層を、長さ90m、最大で厚さ1m程度確認した。製塩土器は知多式I類～III類を主体とし、わずかに須恵器片も含む。遺物包含層の堆積はしまりが強くなく、製塩土器片は脚部の出土が著しく、口縁部・胴部片の出土は希少であることが、この包含層の大きな特徴である。

Ab区では、調査区東側を中心に、黒色シルト質砂層を主体とする遺物包含層と堅穴建物跡などの遺構を検出した。黒色シルト質砂層は、調査区南東端で検出され、しまりが強く、炭化物・焼土・製塩土器細片を多量に含む遺物包含層である。製塩土器は知多式I類を主体としており現況では15m×2mの範囲で確認できた。その北側に、20m×10mの範囲にわたって粘土が斑土状・ブロック状などに展開する区域があり、一部はカマドになる可能性があり、それに伴う堅穴建物跡も検出された。付近からは土師器甕・須恵器が多く出土する。B区では調査区北半分の区域では、須恵器がまとまって出土する遺物包含層(灰褐色砂層)が確認されている。灰褐色砂層は複数存在し、ハマグリを主体とする貝層と互層状

を呈している。また竪穴建物埋土内および黒色シルト質砂層下では、古墳時代に属する貝層を検出した。

古 代

Aa区では、包含層を掘削すると、知多式I～III類に伴って、上層からIV類・V類が出土する。包含層堆積の様相には変化はなく、明瞭な間層も確認できなかった。Ab区では調査区西半分を中心に、土器製塩に伴う遺物包含層(黒色シルト質砂層)を確認した。包含層のしまりは固く、炭化物・焼土・製塩土器細片を多量に含む。製塩土器は知多式IV類が主体であり、若干の須恵器・灰釉陶器を含むことがある。黒色シルト質砂層は、55m×5mの範囲に多数の小単位の層が重なり合って形成されており、最大で厚さ50cmを測る。黒色シルト質砂層からは、立位状態を呈する製塩土器脚部が散発的に出土した。黒色シルト質砂層は調査区東半分にも広く展開していたものと考えられるが、以前の調査で掘削されたものと考えられる。黒色シルト質砂層内あるいは下には、ハマグリを主体とする貝層が確認されている。B区では竪穴建物跡1棟と溝1条を検出した。竪穴建物跡は長方形を呈し、掘り形底面で焼けた礫がまとまって検出された。溝の方向は竪穴建物跡の横軸と併行する。またB区では貝を含む黒褐色シルト質砂層の堆積が確認できており、古代においても貝層の形成が行われていたようである。

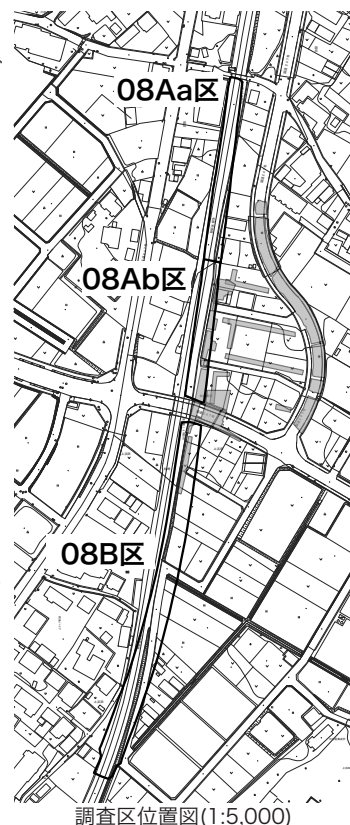
中世から近世

中世の遺構としては、Aa区において山茶碗を出土するピットが検出された。Ab区では、明確な年代は不明であるものの、埋葬人骨が残存する土坑墓が1基検出された。長方形を呈する土坑内に埋葬された成人男性の伸展葬である。解剖学的位置をほぼ留めているものの、第一頸椎付近および下顎骨付近のみが乱れており、上顎内および右肩甲骨付近には鉄器が出土しており、特に右肩甲骨付近の鉄器は複雑な構造を呈している。

近世末の新田開発に伴う土盛りなどの整地活動が確認できた。特に、Aa区では、古墳時代および古代の遺物包含層を用いて海側に張り出すように土盛りを行っており、部分的に土橋状の張り出し部が形成されている。また、Aa区では海側に向かって水田が広がっている様子も確認されている。B区では、砂堆が南側に落ち込む調査区南側において、水田畦畔が確認できており、畦畔を覆うように西側から須恵器・製塩土器・貝殻を含む砂層の堆積が確認できた。西側には上浜田遺跡が位置しており、畦畔を覆う遺物包含層は、本来上浜田遺跡の包含層であったものが二次堆積した可能性が考えられる。

出土遺物

遺物は人工遺物と動物遺存体に分けられる。人工遺物では、多量の製塩土器片と土師器・須恵器・灰釉陶器があり、若干山茶碗などの陶器片も出土した。また、漁網錘の出土も多く、土製紡錘車・土製支脚・砥石・鉄滓・鉄製釣針・銅製の帯金具・貝製刃器?も出土した。動物遺存体は、貝類ではハマグリ・マガキ・サルボウなどのフネガイ科・アカニシ・マテガイ・ツメタガイ・ウミニナ、魚類ではタイ類・スズキ・コチ・エイ・サメ、哺乳類ではシカ・イヌ・ウシあるいはウマが出土した。



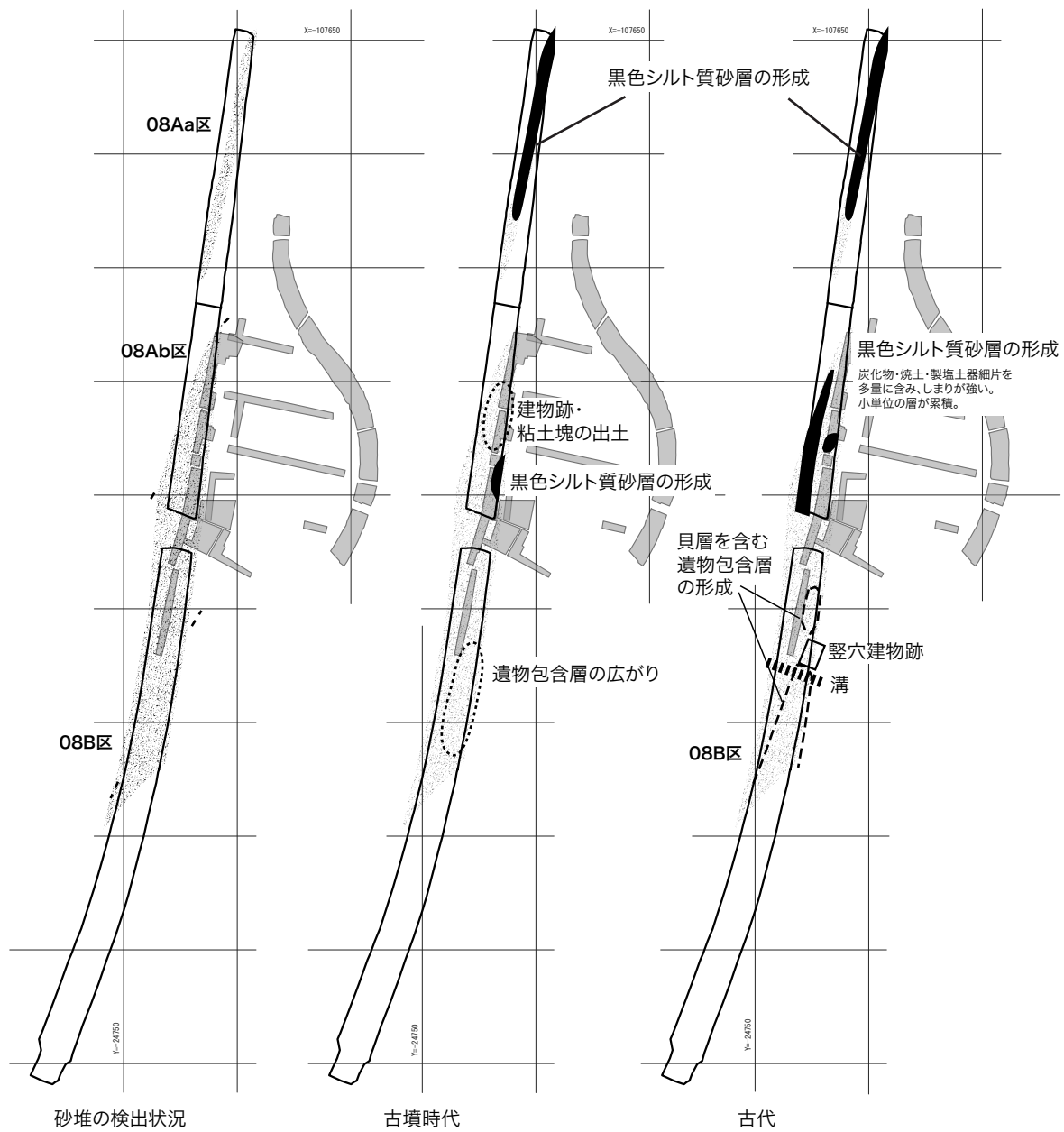


図2 松崎遺跡の変遷 (1/3,000)



Aa区遺物包含層の検出状況 (北より)



Aa区遺物包含層の堆積状況 (北より)

総括 今回の調査によって、これまで想定されていた松崎遺跡の北端と南端を調査で確認することができた。上浜田遺跡はB区のより西側に展開しているものと考えられる。

松崎遺跡は一つの大きい砂堆の上にあるではなく、海岸線に沿って形成された、いくつかの砂堆が集まっており、当時は高低のある極めて複雑な地形を適宜利用しながら塩作りなどの活動を行っていたことが明らかとなった。

遺物包含層でも、Aa区・Ab区の様相は大きく異なっており、特にAb区では、この遺物包含層自体が土器製塩に伴う火を使う作業（煎熬作業など）を行った場の痕跡である可能性が考えられる。立位で出土した製塩土器脚部の意義は今後の検討課題である。

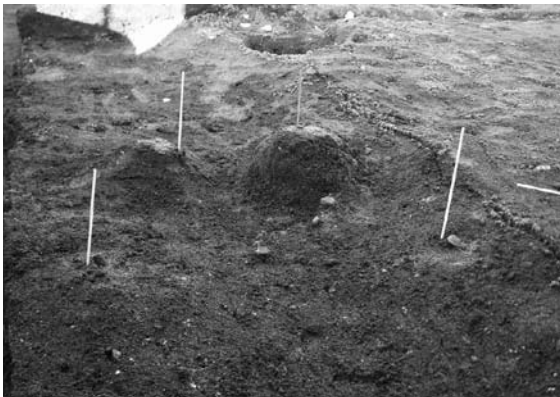
遺跡からは、古墳時代および古代の貝層が検出された。古墳時代の貝層では魚骨・獣骨の包含が多く、古代の貝層では貝殻のみの可能性がある。海浜での活動内容を検討する好資料になると考えられる。（川添和暁）



Ab区遺物包含層の検出状況（北より）



Ab区古代遺物包含層の検出状況（北東より）



Ab区古代製塩土器出土状況（北より）



Ab区竪穴建物跡検出状況（北西より）



Ab区埋葬人骨検出状況（中世以降か 西より）



Aa区出土釣針（ソフトX線写真 ほぼ実大）

くるまづか
車塚遺跡

所在地 岡崎市岩津町車塚地内
(北緯35度0分46秒 東経137度10分23秒)
調査理由 道路改良工事(主) 岡崎足助線
調査期間 平成20年5～8月
調査面積 2,000㎡
担当者 池本正明・松田 訓・宇佐見守・武部真木



調査地点(1/2.5万「豊田」)

調査の経過 調査は愛知県建設部道路建設課による県道岡崎足助線改良工事に伴い、愛知県教育委員会の委託を受けて実施した。調査では、まず平成20年5月に県教育委員会の分布調査の結果を受け、本調査予定地の南側にて20ヶ所のテストトレンチを設定し、範囲確認調査を行った。さらに6月から8月まで、斜面を含む南北に細長い調査区の発掘を実施した。

立地と環境 車塚遺跡は、矢作川東部の丘陵端部に位置する。調査地点は、丘陵が北側に向かって下る落ち際の平坦面と斜面に立地する。範囲確認調査を行った地点は、平坦面をはさんで斜面とは反対側に位置し、逆に南東に向かって緩やかに傾斜する。旧態は、山林および畑地である。

調査の概要 範囲確認調査では、古代から中世の遺物を含む遺構が検出された。6～8月に行われた発掘調査では、耕作土を取り除くと遺物包含層の堆積はほとんど認められず、耕作に伴うものと思われる溝状のかく乱が多数掘削されていて、この覆土をのぞいた上で憩う検出作業に入った。

検出された主な遺構は、弥生時代終末から古墳時代初頭の時期と思われる竪穴建物跡7棟、戦国時代の遺物を伴う土坑2基、時期判定のできなかった掘立柱建物跡3棟などであった。竪穴建物跡は、基底部を除いて大部分が削平されており、これらの切り合い関係はほとんど認められなかった。掘立柱建物跡はわずかながら重なりが認められ、主軸の方向も異なるため、同時期の可能性は低いものと思われる。

検出された遺物は少ないながらも、弥生時代末から古墳時代初頭の壺・甕・高杯や、古代の須恵器甕・鉢・杯、戦国時代の陶器播鉢・碗など、各時期の生活道具をうかがわせる資料を得た。(松田 訓)



作業風景



竪穴建物跡



車塚遺跡遺構全体図(1:400)



範囲確認調査



地元説明会

たきちよう
滝町古窯

所在地 岡崎市滝町
(北緯34度59分4秒 東経137度12分1秒)

調査理由 急傾斜地崩壊対策事業

調査期間 平成20年4～9月

調査面積 400㎡

担当者 池本正明・武部真木



調査地点 (1/2.5万「岡崎」)

調査の経緯と経過 急傾斜地崩壊対策事業に伴う事前調査として、愛知県建設部砂防課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け調査を行った。調査面積は400㎡である。

立地と環境 遺跡は岡崎市の北東部の滝町に所在する。調査地点は、西流する青木川の北側の丘陵、標高50m前後の西向き斜面に立地する。付近の谷筋を青木川に沿って岡崎から豊田市下山方面へ通じる道は大沼街道とも呼ばれる。滝町に残る古刹「瀧山寺」は役行者が創建との縁起をもち、江戸時代には東照宮が造営され興隆を極めた。遺跡はこの瀧山寺と三門の間に位置している。

調査の概要 調査前現況は石垣がめぐる3段の平場と墓地への道として利用されており、周辺で窯道具、窯壁片などが多数採集されていた。窯跡の存在が想定されたが、南側斜面は基盤岩盤が露出するなど傾斜地を大きく改変した状況から、窯体はほぼ滅失しているとの認識であった。調査の結果、近世磁器窯の物原と石垣で囲われた内側に窯体1基を確認した。

主な遺構 窯体は西向きに開口する横室型・縦狭間構造をもつ連房式登窯であり、石垣構築の際に破壊された部分を除き、焚口・胴木間・焼成室の床面を検出した。後方煙出付近は削平されているが、確認された規模は全長11.0m、最大幅は4.1mあり、焚口と焼成室最上段床面との比高差は約4mである。焚口は閉塞の状態を検出し、胴木間の床面上方の傾斜は25度、最大幅は約2mである。続く第1房は奥行が0.4mであり捨て間の可能性が考えられる。これを含め床面は少なくとも7室を検出した。敷地周囲の地形上の制約などから、窯体は焚口・胴木間・捨て間・焼成室(7室)・煙出(未検出)の構成かと推定される。狭間柱の上部付近が比較的良好に残る部分があり、窯体の構築部材や構造についても多くの情報が得られることとなった。

出土遺物 物原は窯体の向かって左側、北西側に広がる。調査範囲の制約もあり、物原堆積層は検出面から約2mの深さまでを確認した。主に窯道具類からなり、匣鉢・トチ・エブタ・ニギリ・クレ・棚板(?)・狭間柱材・窯壁などがある。窯道具と比較して製品の割合は極端に低く、磁器端反碗、広東碗の焼成不良品と色見片のほか、少量の陶器(急須、行平)があるのみである。19世第2四半期頃から幕末までの間に操業したと考えられる。その他注目される資料として刻書、刻画のある窯道具類があり、円形凸底匣鉢の底部外面に「栗田」と刻まれたもの(2点)、人物の顔(2)、草花と脇に「月方画」(3)、「栗田」、家紋(1b)と片面に「東叡山 青龍院内 栗田源二郎 源盛方」(1a)と刻まれた円形のエブタなどがある。

東叡山は天台宗上野寛永寺の山号であり、その塔頭の一つに「青龍院」の名がみえる。江戸時代前期の瀧山寺の住職亮盛は寛永寺開山天海の弟子であり、この青龍院の住職をも兼任したという。発見された窯体は近世後期の窯業生産を考える上で貴重な資料であり、また成立・経営に寺院の関与が想定される特殊な事例となった。(武部真木)



竈体後方(手前)と滝仁王門



竈体部分 全景



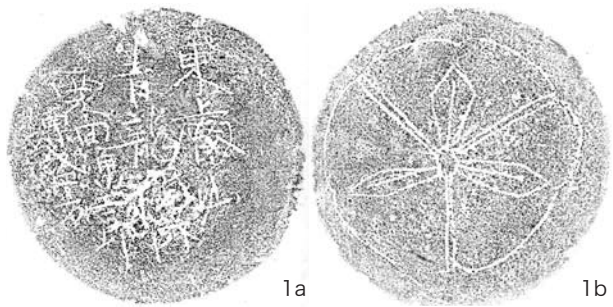
側方からみた狭間柱上部と狭間孔付近



狭間柱と狭間孔



物原の断面



1a

1b



2



拓本 1:3

3

にしまきの 西牧野遺跡

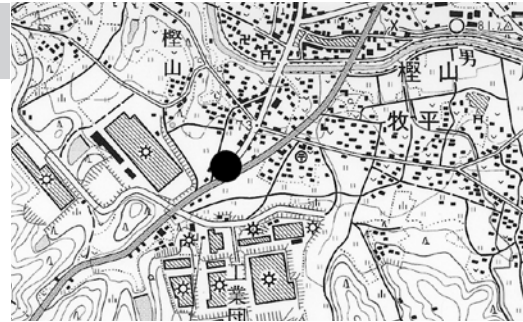
所在地 岡崎市榎山町・牧平町地内
(北緯34度54分52秒 東経137度17分00秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年5～6月

調査面積 100㎡

担当者 池本正明・松田 訓・宇佐見守



調査地点(1/2.5万「御油」)

調査の経過 調査は中日本高速道路株式会社による第二東海自動車道横浜名古屋線の建設工事に伴い、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年5～6月に実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を参考に、50ヶ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 西牧野遺跡は、男川によって形成された谷底平野で、河岸段丘下位面にあたり、男川水系の南側に位置する山地裾部から、北西に向かってゆるやかに傾斜する部分にあたる。旧態は窪地や沢の間に水田、畑地などが広がる耕作地で、斜面を削平した部分、盛り土をした部分も含まれ、基盤層までの深度は一様ではない。標高は、約70～80mである。

調査の概要 設定した50ヶ所のテストトレンチの中で、人為的な掘削行為の可能性が確認されたのは18ヶ所、遺物が確認されたのは24ヶ所を数え、遺構・遺物ともに検出された地点は12ヶ所であった。各調査地点では、旧態が水田である場所が多く20cmほどの耕作土が認められた。この下には5cmほどの床土が多く見られた。堆積土層の中で、黒ボクまたはこれに類する黒褐色シルトが認められたのは18ヶ所で、テストトレンチ設定範囲では東側に限られた。

遺構は、径30cm以内の円形小穴がほとんどであったが、中には一定の広さで板状の石が面で捉えられたもの、複数の土坑による切り合い関係が明確なものも検出された。他方で、基盤層直上付近で湧水が激しい地点も認められ、堆積状況から旧態として浅い谷や沼地が想定される地点も見られた。

遺物は、土器細片、山茶碗・皿の小片が多く、近世後期の陶磁器小片も見られた。土器は時期を特定できるものが見られず、集中して検出される例も見られなかった。(松田 訓)



遺構検出状況



調査風景

そうさく 惣作遺跡

所在地 安城市木戸町
(北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒)

調査理由 中小河川改良事業(鹿乗川)

調査期間 平成20年8月～平成20年12月

調査面積 1,200㎡

担当者 鈴木正貴・成瀬友弘



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設部河川課による鹿乗川河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年9月から平成20年12月にかけて実施された。調査面積は1,200㎡で、平成16年度に調査した区域の河川側(西側)に相当する部分である。

立地と環境 惣作遺跡は安城市木戸町の鹿乗川左岸に所在する。矢作川などによって形成された自然堤防およびその後背湿地に立地しており、標高は約7mを測る。遺跡の西側は現鹿乗川を挟んで碧海台地が広がっており、南西方向の台地上には奈良時代に創建されたと推定される寺領廃寺が存在する。

調査の概要 今回の調査では、弥生時代から江戸時代までの様々な遺構や遺物が確認された。これらは弥生～古墳時代、奈良～平安時代、江戸時代の3期に大別することができる。

弥生時代中期 ほぼ調査区全体で弥生時代中期の南北に流れる河川跡が確認され、河川跡に堆積した大量の粗砂の中から古井式に属する太頸壺などの弥生土器が多く出土した。C区では河川埋積後に構築された方形周溝墓の一部と思われる溝が検出され、溝内には完形に近い弥生土器が2個体出土した。さらにその上位には竪穴建物跡が展開していた。これらの遺構は隣接する04F区で確認された弥生時代中期から古墳時代初期の居住域につながるものと考えられる。

古墳時代前期 古墳時代前期では、A区とB区の境界部分で蛇行して流れる河川跡(003NR)が存在し、その南岸から多量の土器と木製品が出土した。土器は小型の壺や器台、赤彩の壺や高杯など完形に近いものが多く、概ね廻間Ⅱ式併行期に属している。木製品には白や斧の柄など多様なものがあり、一部のみを加工した未完成品のような木材が多い。なかでも団扇形木製品は非常に精良な作りであり、東海地方では荒尾南遺跡について2例目のものである。

奈良時代～平安時代 A区では上面の遺構として水田跡が確認され、その下面では掘立柱建物跡・井戸状遺構・溝群などが検出された。また、A区とB区の境界部分では003NRが引き続き流れており、B区では竪穴住居跡が1棟確認されたが、C区では特に遺構は発見するには至らなかった。水田跡は一区画が約5m×約8m前後の規模を持つ小区画水田である。畦畔が確認されたのみで水路などの諸施設は不明である。作土などからイネのプラントオパールが検出されたが、その数量は少なく、水田耕作は短期間で終わったものと思われる。

水田跡の下位には掘立柱建物跡を構成する柱穴群が展開していた。明瞭に復元できる掘立柱建物跡には1間×3間のものと2間×3間のものがあり、この両者はほぼ正方位を向いていた。さらに柱穴群に切られる形で平行する溝群が確認されており、これらは畑跡であったと想定される。

003NR北岸の平安時代の堆積層からは須恵器や灰釉陶器、木製品などが若干量出土した。木製品の中には木簡が折れた状態で1点出土しており、共伴する灰釉陶器から時期は

10世紀頃に位置づけられる。木簡は、長さ57.3cm、幅3.2cm、厚さ0.7cmを測る板目板材で、孔が4個並んでいる。積文は、現状では暫定的に
「道大巻得麻呂得□□大□□里(カ)美□□里(カ)」

「大 大 本 本本」

と読めているが、さらに検討が必要である。文言からみて、習書木簡か何らかのまじないに使用されたものである可能性を指摘できる。三河地方の古代木簡は、下懸遺跡例と平成16年度調査で出土した惣作遺跡例の2点があり、今回は3例目となる。

江戸時代 B区で江戸時代から近代の水路と不定形な大型の落ち込み、C区では不定形な大型の落ち込みと南北に流れる河川跡などが確認された。河川跡から下駄などの木製品が出土している。中世以降は人々が住んだ形跡はなく、河川や耕作地が広がっていたと考えられる。

ま と め 今回の調査では、古墳時代前期の遺物群・木簡・水田遺構の検出の3つの成果が特筆される。古墳時代については、これまでの惣作遺跡では廻間Ⅱ式併行期の遺構・遺物が発見されておらず、河川に遺物を廃棄した人々がどこに居住していたかが疑問となる。現状では沖積地に広がる微高地の上部が削平されて古墳時代前期の集落が残存していない可能性を提示しておきたい。木簡は三河地方の古代木簡では3例目となる発見で、いずれも鹿乗川流域の安城市南部で出土したものである。寺領廃寺などを含め木簡を産出する背景が今後問題となるだろう。水田遺構の検出については、これまで居住域や墓域の調査が中心となっていた鹿乗川流域の調査において、生産域を含めた流域全体の開発の問題にも視野を広げていく必要性を浮き彫りにしたと評価できよう。(鈴木正貴)



C区弥生時代の竪穴建物跡群(南西から)



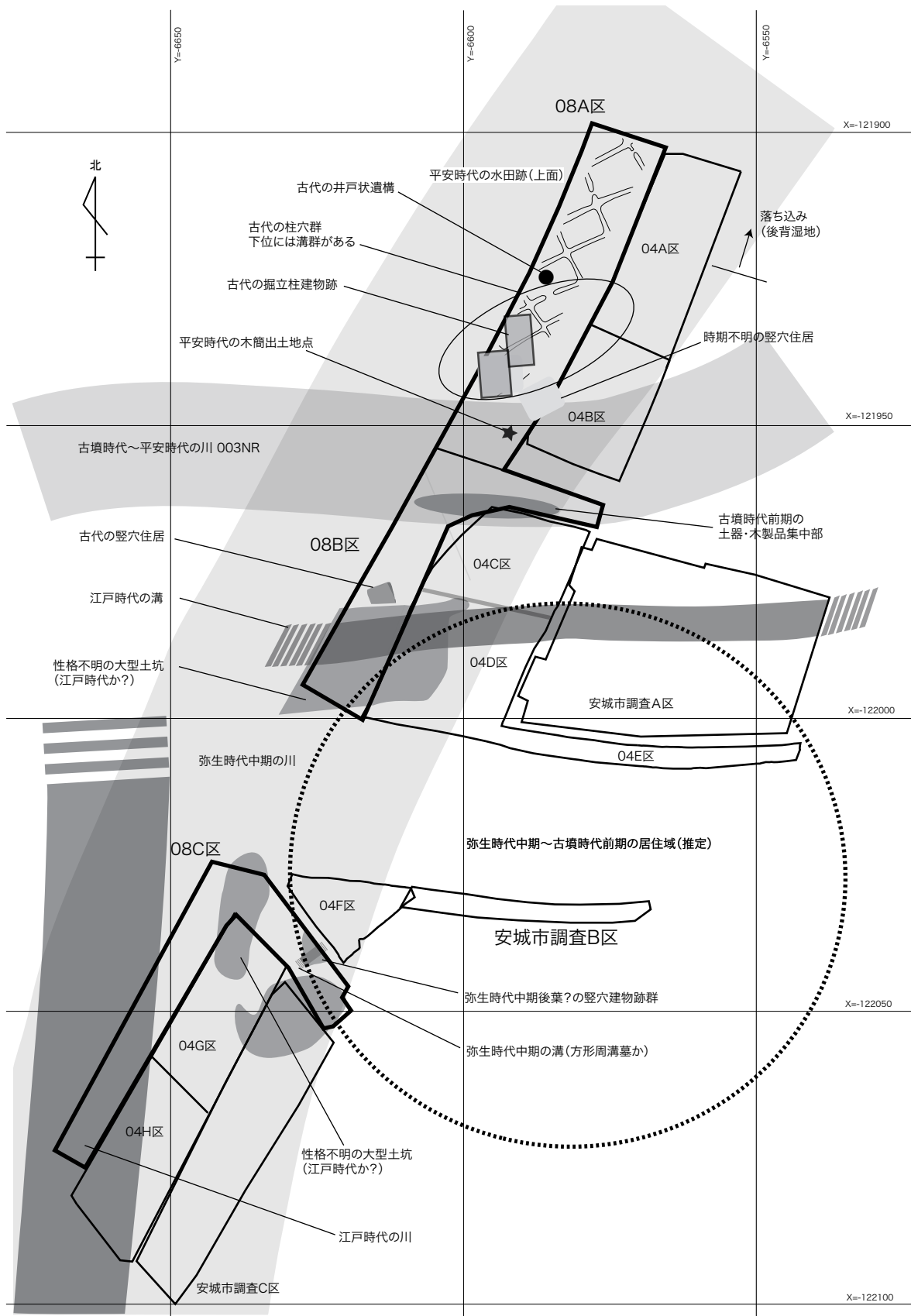
C区弥生時代の竪穴建物跡069SB遺物出土状態(北西から)



B区003NR遺物出土状態(北西から)



B区003NR白出土状態(北から)



惣作遺跡主要遺構図(1:1,000)



B区003NR 団扇形木製品出土状態(南から)



A区003NR 木簡出土状態(南西から)



A区古代の柱穴群検出状態(南から)



A区古代の掘立柱建物跡群(北東から)



A区古代の水田跡検出状態(南東から)



A区古代の水田跡の土層断面(南から)



B区古代の竪穴建物跡007SB(東から)



C区江戸時代の河川跡遺物出土状態(南から)

はね
羽根遺跡

所在地 豊川市萩町
(北緯34度52分10秒 東経137度19分39秒)

調査理由 道路改良工事(臨交)大代音羽線

調査期間 平成20年4月～平成20年9月

調査面積 4,100㎡

担当者 鈴木正貴・川添和暁・成瀬友弘



調査地点(1/2.5万「御油」)

調査の経過 発掘調査は、愛知県建設部道路建設課による県道大代音羽線改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年4月から平成20年9月にかけて実施した。調査面積は4,100㎡であり、全体をA・B・C・D・Eの5調査区に分けて調査を行った。

立地と環境 羽根遺跡は、豊川市萩町羽根に所在し、山陰川に向かって傾斜をする丘陵北側斜面の裾部に北東から南西に約200mの範囲で広がっている遺跡で、標高は70～80mを測る。当遺跡周辺には、南に旧東海道の近世赤坂宿が所在し、丘陵尾根を挟んだ南側斜面末端には後期旧石器時代の良い資料を出した駒場遺跡や、古代の三河国分寺跡・国分尼寺跡が所在している。

調査の概要 調査は北東からA区～E区の5区に分けて調査し、17世紀頃の近世の屋敷地を中心とする遺構が確認され、近世前半のこの地域の集落立地を考える上で良好な資料が得られた。

古代以前 古代以前の明確な遺構は確認されていない。ただし、A区からは縄文時代かそれ以前と考えられる黒曜石やチャート・熔結凝灰岩製の剥片石器類などが出土しており、C区からは古代の須恵器が出土している。これらは若干数しか出土しておらず、特に剥片石器類については斜面上部から流れ込んできた可能性が高いとおもわれる。その他A区・B区では弥生時代後期に該当する土器が出土しており、調査区周辺にこの時期に該当する集落が展開していた可能性が考えられる。

中世から戦国期 A・B区では、地形の傾斜に沿った形で平場を形成し、崖面下には排水用と考えられる溝241SD・242SD・325SDなどが配されており、これにより平場が区画されている。平場には多数の柱穴があることから掘立柱建物が展開する屋敷地であったと考えられる。C区でも同様に地形に沿った土地利用が行われていたと考えられ平場10に769SDが配されている。その他の遺構は南西最上部の平場8を中心に展開する。C区では柱穴のみならず、墓壇と考えられる大型の土壇も若干ではあるが確認されており土地利用についてA区との差異がある。遺物は山茶碗などの出土が確認されているが、それほど多く出土はしていない。

近世前半 A区ではこれまで存在していた平場の上に、調査区を貫く形で土盛りと側溝031SD・060SDによって道406SFが形成される。平場の区画はそれ以前の区画の形を踏襲しつつも平場先端部に土盛りをすることによって平場の面積を広げており、その上に柱穴が多数確認され掘立柱建物による屋敷が展開していたものと考えられる。またA・B区の平場を区画する溝は崖面下などを中心に石積みをして作られている048SD・051SD・052SDなどがあり、暗渠状を呈している070SDなども存在する。C区ではA・B区と同様に平場8で盛り土による平坦面の拡充が行われ、崖面には石垣501SWが確認された。この崖面の盛り土中や501SWには石塔類が含まれており、又崖部の壁面を整形後に多くの一石五輪塔などの石塔類が廃棄された502SUが確認されている。こうしたことからこの付近にあった墓域

を改変して建物などを建てた可能性が考えられる。遺物はA・B区では天目茶碗や播鉢などの陶器類の出土が目立っている一方で、C区では陶器類の出土はあまりなく土師鍋・土師皿などの土師器が中心である。こうした出土遺物の差などから考えると近世前半においてもA・B区とC区には土地利用の違いが残ると思われる。石塔類については、片麻岩製のものが中心で一部に花崗岩製のものが混じる。また、一石五輪塔の多くは火輪から下部のみが出土しており、上部の出土数が少ないことから廃棄段階に故意に破壊した可能性も考えられる。

近 世 後 半 近世後半の状況は、近世前半期の区画などをそのまま利用しているもののB区には数基の井戸が作られ、B・C区には常滑産の甕が埋められその周辺に溝が配される状況が確認される。またC区の平場8では501SWなどを盛り土によって埋め、平場を1m以上拡張し崖面の下には746SDが作られる。平場には調査前に残っていた旧宗桂寺の基壇が作られたと考えられる。またD区にも溝1648SDが作られ、新たな区画が作られたことが確認されている。遺物としては、土師皿などが崖部で出土し、又旧宗桂寺の基壇からは寛永通宝を中心に銭貨が十枚程度確認されている。

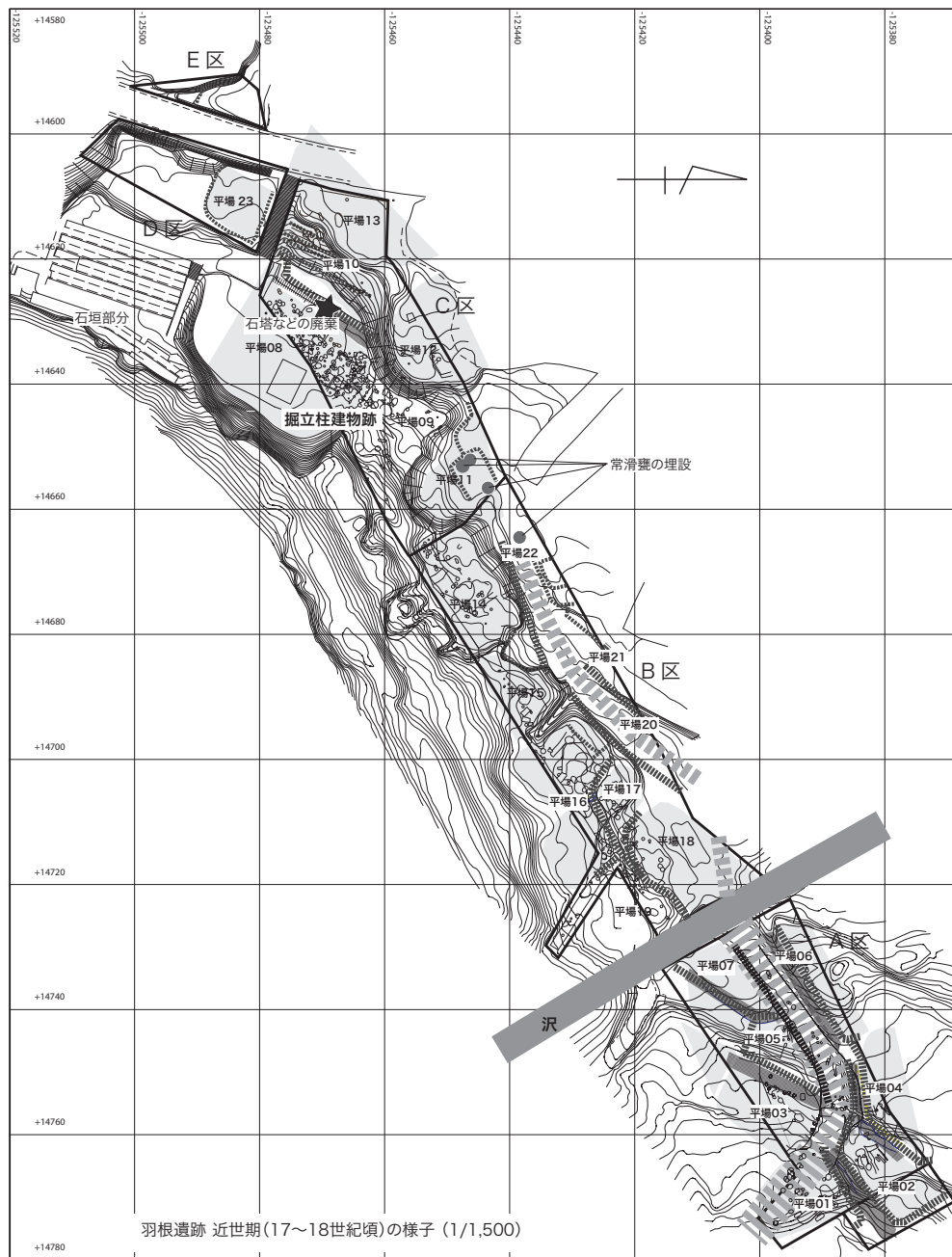
ま と め 今回の調査の結果、羽根遺跡は中世から近世を中心とする遺跡であることが判明した。中でも近世前半以降に土地の利用が活発化していること遺構などの状況から判明した。またA・B区では屋敷地としての区画が想定され、C区で墓域から寺へと土地の利用が変化していったことが考えられることから集落の変遷なども考えることができる資料となった。また今回の調査ではそれぞれの段階の整地された崖面に土師皿・土師鍋・陶器などが廃棄されておりこれらの時期を考える上でも貴重な資料を得られた。(成瀬友弘)



調査区遠景(南西から)



調査区遠景（北西から）





A区031SD・406SF



A区051SD



A区070SD



B区1256SD 遺物出土状態



C区501SW



C区石塔群出土状況



D区平場



出土銭貨

ひがしやしき 東屋敷遺跡

所在地 豊橋市石巻町
(北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒)
調査理由 道路改良工事(主) 東三河環状線
調査期間 平成20年11月～平成21年3月
調査面積 1,050㎡
担当者 鈴木正貴・成瀬友弘



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は愛知県建設部道路建設課による県道東三河環状線の建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年1月から3月にかけて実施された。調査面積は1,050㎡である。

立地と環境 東屋敷遺跡は、石巻山の西麓に広がり、三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地する。石巻山から連なる尾根の先端部に当たり、付近には石巻山登山口がある。周辺の台地端部には多くの遺跡が存在しており、西浦遺跡や高井遺跡群など、とくに弥生時代から古代にかけての遺跡が多い。

調査の概要 調査区は段丘南端に位置しており、段丘崖に最も近い調査区南半部で黒色土の厚い堆積が認められた。しかし残念ながら、南半部は大きく攪乱を受け広い範囲で遺構が滅失していた。一方、北半部では黒色土は失われており基盤となる灰白色の礫層が露出する状態であった。もともと基盤層が小段丘状に高くなる場所と思われるが、これも耕作などの攪乱により遺構の残存状況はあまり良いとはいえない。

このような状況で、かろうじて残存していた遺構は、大きく弥生時代後期～古墳時代中期と江戸時代に区分できた。この他に古代に属する須恵器などの遺物が出土しているが、明瞭に遺構に伴う資料は発見できなかった。

弥生時代後期～古墳時代中期 段丘崖に近い部分で覆土が比較的良好な状態で残る竪穴建物跡が7棟以上確認された。竪穴建物跡は隅丸方形を呈しているが、地床炉などの内部施設が残っているものは少ない。一方、調査区北半部では竪穴建物跡の貼床や覆土の痕跡が認められたが、全く遺物が出土しないために時期は特定できない。調査区中央付近で炉跡045SLが確認されたが、これも性格や時期を特定し得なかった。

江戸時代後半 江戸時代後半の遺構としては、調査区中央部で東西方向に走る溝2条(036SD・106SD)があり、幅約5mの道路状遺構を形成していると考えられる。調査区北半部では柱穴群が検出されており、掘立柱建物跡が数棟復元されているが、これらの時期を特定することが難しい。

まとめ 今回の調査で、東屋敷遺跡は複数の時代に断続的に営まれていた集落遺跡であることが確認された。本来は台地の端部で良好に遺構が残っていたと推測されるだけに、攪乱でその大部分が滅失してしまっていることが残念である。(鈴木正貴)



東屋敷遺跡主要遺構図(1:250)

かきした
柿下遺跡

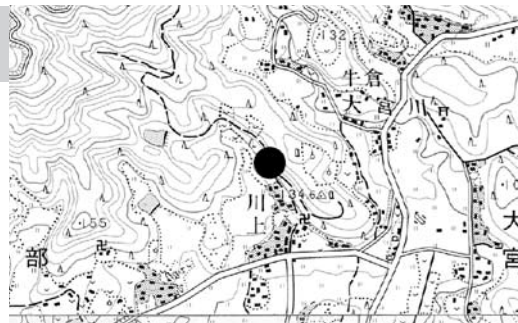
所在地 新城市柿下地内
(北緯34度55分28秒 東経137度30分49秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年12月～平成21年3月

調査面積 2,400㎡

担当者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「三河大野・三河富岡」)

調査の経過 発掘調査は第二東名高速道路建設工事の事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業である。茶臼山南麓の山林が調査対象となり、遺跡を横切る砂防ダムから南東側を08A区、北西側を08B区として実施した。

立地と環境 茶臼山山頂は標高約142mで周囲の河岸段丘より少し高くかつ背後の雁峰山系(標高約450～660m)からやや独立したような山形をしており周囲からも目立つ。頂上には経塚(城山経塚)があり陶製経筒と直刀が出土している。また東側斜面には横穴式石室の古墳が3基(茶臼山古墳群)確認され7世紀前半の須恵器が出土している。遺跡は山裾の標高92～97mの斜面地に展開する。この斜面地には、河川堆積の砂層の上に形成された「黒ボク」と呼ばれる黒色土層が広がる。遺構検出は主として「黒ボク」層上面で行なった。

調査の概要 調査区内には地表面で3～4段の平場があったが、近年の植林時に土盛りされたものもありこれらを除去したところ、08A・B区ともに検出時には上下2段の平場となった。上段の平場は狭いが、08B区では鎌倉時代の陶器片や土師器皿が出土する竪穴状遺構がある。08A区では江戸時代前期の土師器鍋が出土したもののほとんどが旧表土からで、遺構は少ない。下段の平場は、08A区では約250㎡、08Bb区では約370㎡ある。この平場上では、直径20～30cmの柱穴で構成される掘立柱建物跡が7棟検出できた。

鎌倉時代 08Bb区上段の平場では竪穴状遺構を検出した。一辺約3mの隅丸正方形で明瞭な柱穴は伴わない。柱穴(08Bb区084SK)からは完存状態に近い山茶碗が出土しており、この柱穴を伴う建物の時期は中世前半と考えられる。08Bb区北西隅では約5.5×6m規模の周溝を伴う1×1間(一辺約2m)の小型建物も検出され、小堂の可能性も考えられるが、宗教関係の遺物は出土していない。なおこの小型建物は他の掘立柱建物とは向きが異なるが、竪穴状遺構とはほぼ同じである。他に08Ba区北端で青磁碗片が出土した。

戦国時代から江戸時代 16世紀後半から18世紀代までの土師器鍋・皿を主体とする遺物が08A区を中心に比較的上層から出土した。ほとんどが江戸時代前～中期のものである。掘立柱建物のいくつかはこの時期に含まれるであろう。(永井邦仁)



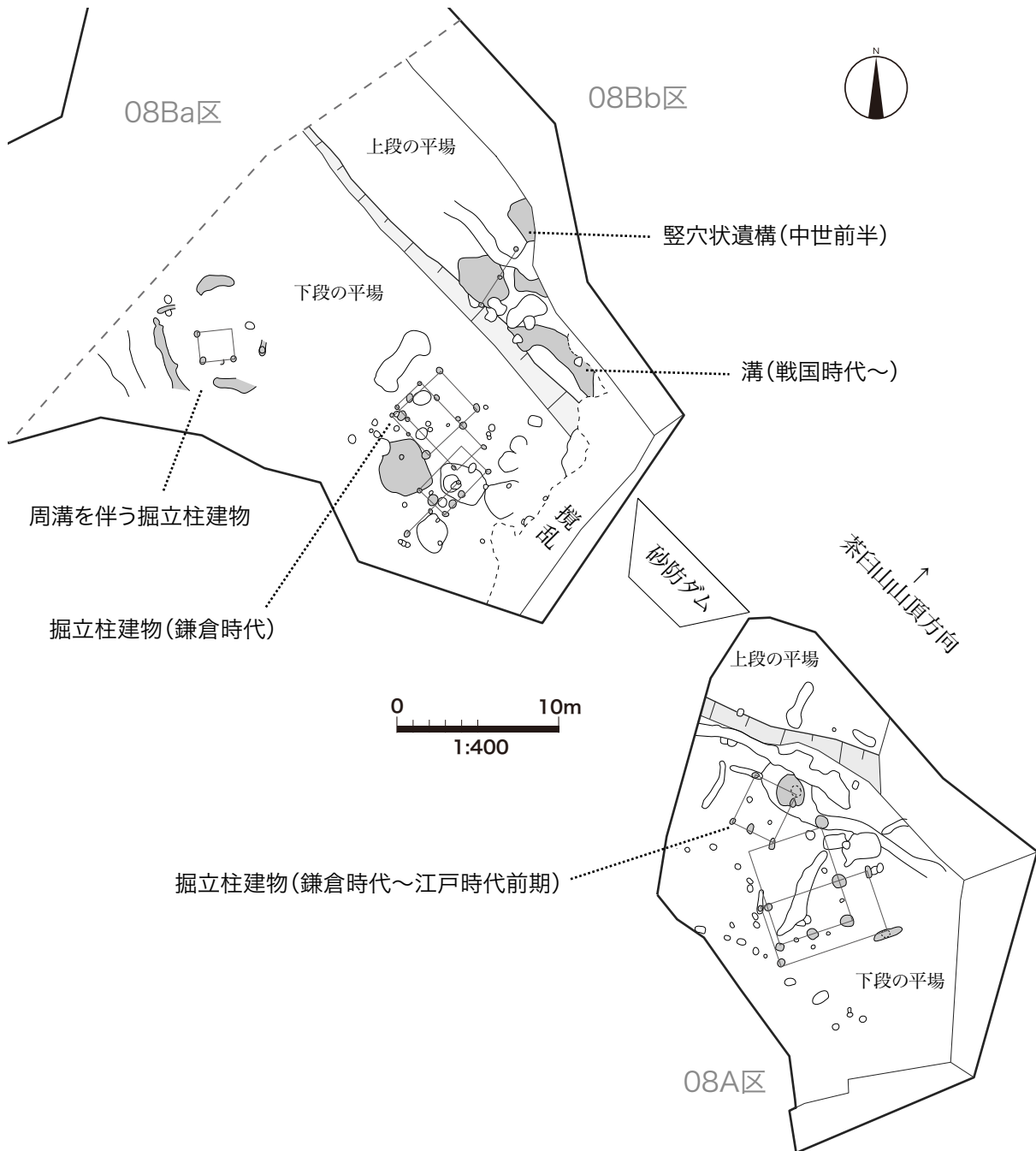
調査区全景 (西から)



08Bb区 周溝を伴う掘立柱建物(北から)



08Ba区 遺構検出状況(北から)



柿下遺跡08A・Bb区遺構配置図

よしたけ 吉竹遺跡

所在地 新城市牛倉字吉竹地内
(北緯35度55分37秒 東経137度30分54秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年4月～平成20年6月

調査面積 350㎡

担当者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 発掘調査は第二東名高速道路建設工事の事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業である。大宮川の付け替え工事範囲が調査対象地となった。

立地と環境 新城市域を流れる豊川右岸の地形は、山地と河岸段丘と小河川によって形成された谷で構成される。遺跡は豊川支流の大宮川が山地から河岸段丘地帯へ流出する地点に位置し、大宮川がつくる谷地形にできた狭小な南向き緩斜面に遺跡が展開する。標高は98～99mである。地表面約70cm下に河川堆積による黄褐色砂礫層があり、その上面で遺構が検出された。

弥生・古墳時代の集落 竪穴住居跡が5棟検出された。このうち047SI・071SIは弥生時代後期である。047SIは床面中央で、071SIは中央からやや南よりでそれぞれ炉跡を検出した。071SIは東西4.3m南北5.5mの規模である。その北壁が比較的によく残存しており、地山を掘り込んだ深さは約40cmである。その付近で炭化したイネ科と思われる植物の茎が並べられた状態で出土した。屋根葺き材もしくは壁材と考えられる。015SI・045SIは土師器小片がわずかながら出土することから古墳時代初め頃と考える。この2棟は若干平面規模が小さく、一辺約3mの規模である。045SIの底面中央でも炉跡が検出された。046SIは071SIに一部重複する位置にあり、覆土中から古墳時代前期の土師器が出土することからこの調査区内で最も新しい時期の竪穴住居と考えられる。

掘立柱建物は数棟が検出されたが遺物はなく時期は明らかでない。

出土遺物 遺物は竪穴住居017SIでの出土が最も顕著で、弥生土器の壺・高杯がみられた。尾張地域の山中式に併行する時期である。046SIでは土師器壺・甕が出土した。竪穴住居と異なる時期の遺物としては石器剥片や縄文土器の可能性が考えられる破片が出土しているがごくわずかである。

石製紡錘車 047SIでは石製紡錘車が出土している。直径4.8cm、厚さ0.5cmの円盤形で中央に径0.8cmの穿孔がある。石材は溶結凝灰岩で、顕著な文様はない。

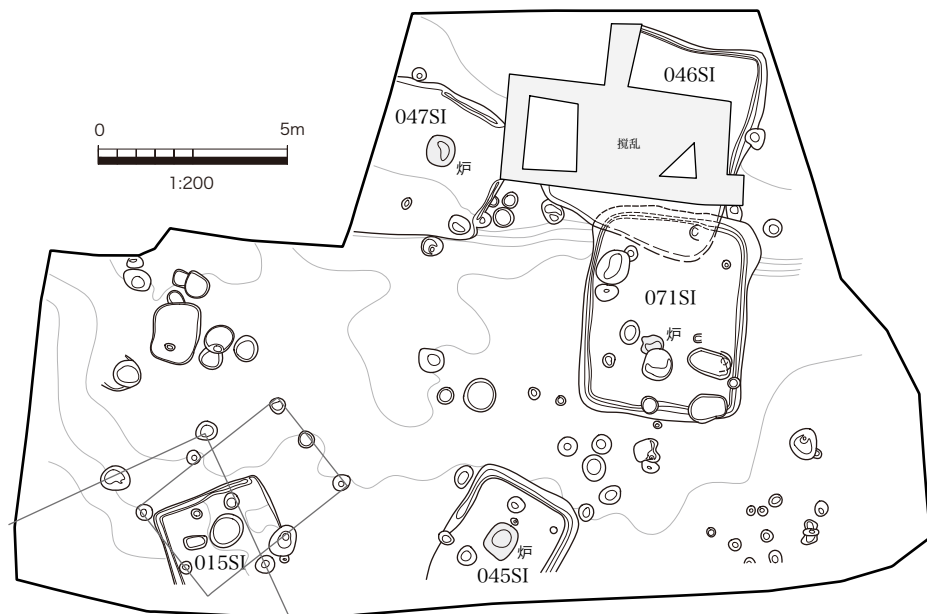
遺跡の特徴 調査区東方の耕作地では圃場整備時に磨製石斧や山茶碗が採集されており、遺跡の広がりを感じさせる。しかしそれを含めても集落が営める範囲は、大宮川左岸の東西に細長い約1,000㎡の平坦地に限られる。大宮川右岸には北下遺跡があり、縄文時代後期と弥生時代の石器のほか、平安～室町時代の遺物が出土する。しかし弥生～古墳時代の集落遺跡は未確認であり、現状では大宮川左岸の小規模な集落と位置づけられよう。

新城市域では、弥生時代後期～古墳時代前期の集落はこれまでのところ、河岸段丘縁辺を中心とする標高95～110mの範囲で確認される傾向にあり、地域的特徴であると予察される。この立地に注目してゆけば、吉竹遺跡のような小規模集落の発見が今後より一層進むものと思われる。(永井邦仁)



調査区全景（東から）

047SI出土石製紡錘車



遺構配置図

かはら 加原遺跡

所在地 新城市大宮字加原地内
(北緯34度55分37秒 東経137度31分24秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年6月～平成20年11月

調査面積 2,000㎡

担当者 酒井俊彦・永井邦仁

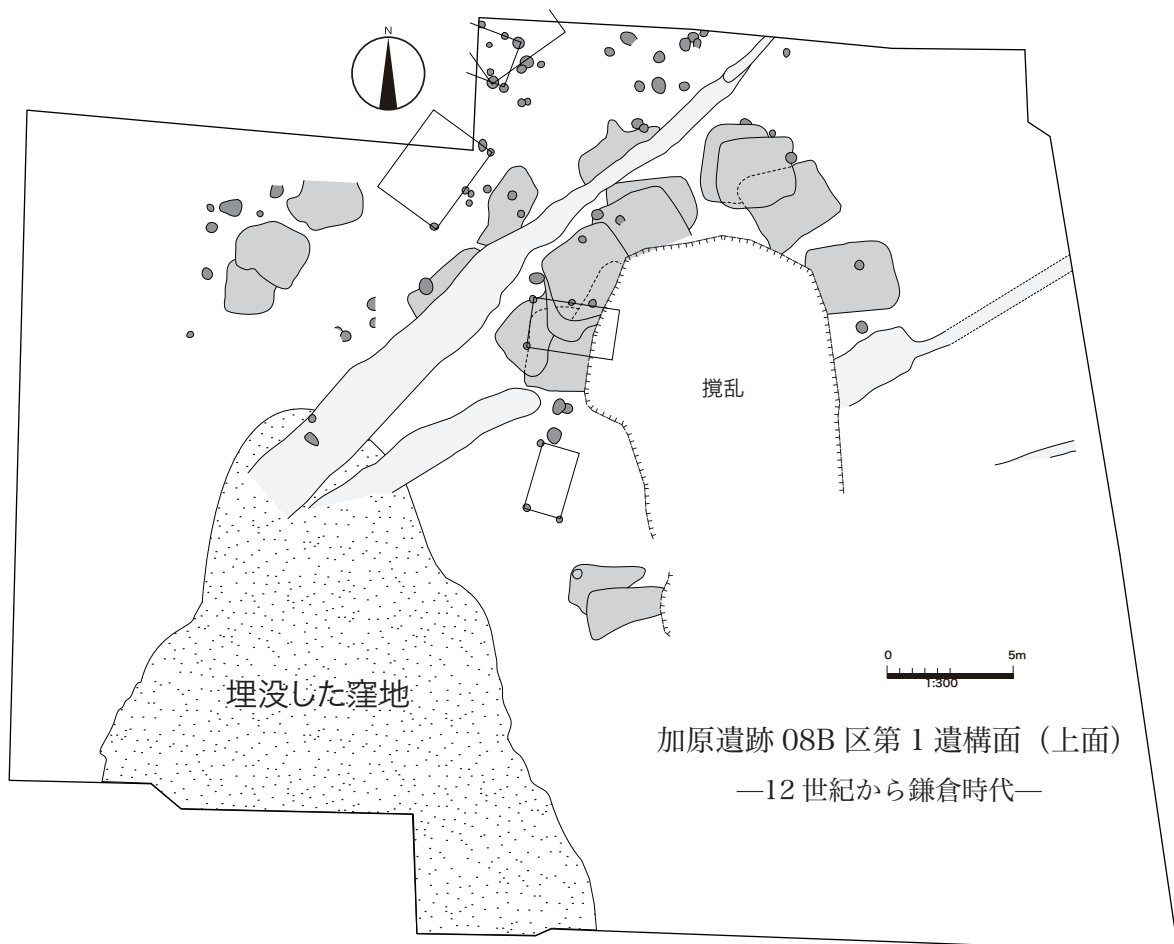
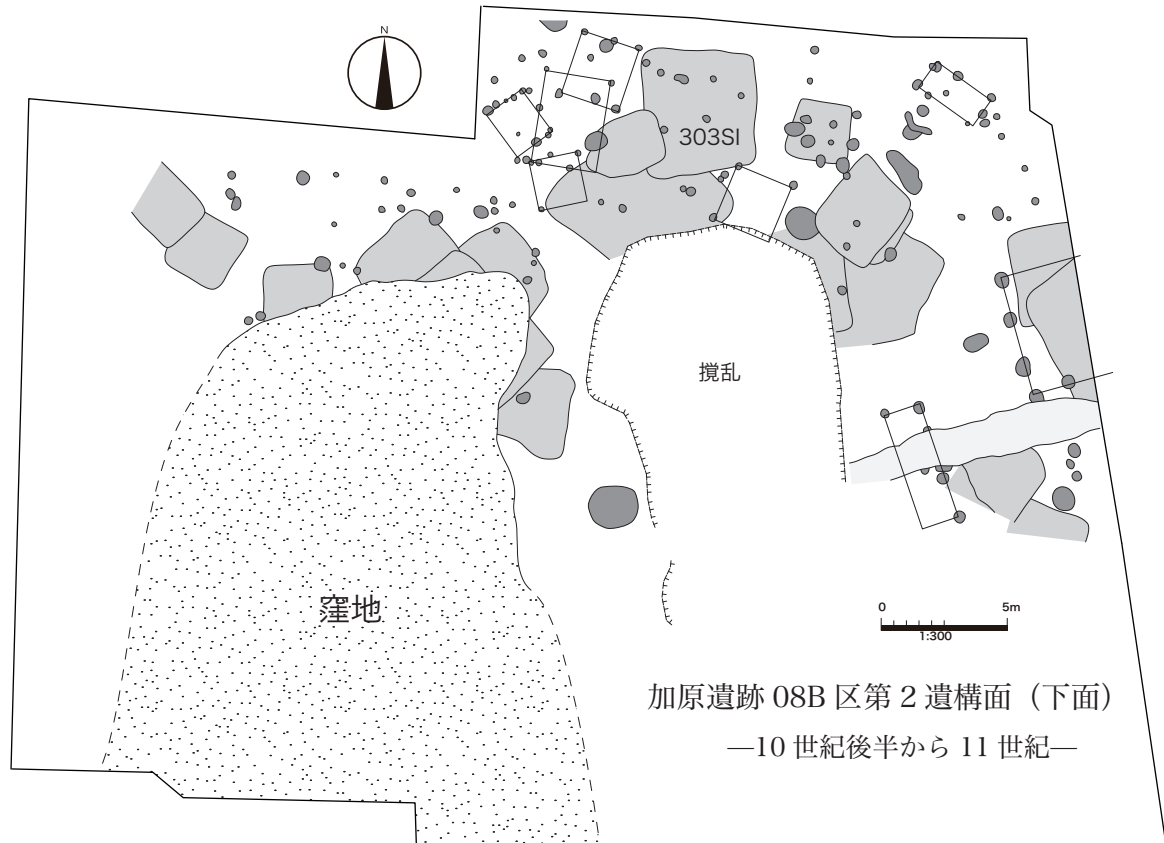


調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

- 調査の経過** 発掘調査は第二東名高速道路建設工事の事前調査として愛知県教育委員会を通じた委託事業である。連吾川右岸の調査対象地を東から順に08A・B区として実施した。
- 立地と環境** 遺跡周辺は、天正3(1575)年の長篠・設楽原合戦で織田・徳川連合軍と武田勝頼軍が激突した決戦場跡として知られている。連吾川の右岸は連合軍の陣地があったと推定されている。岩座神社遺跡のある河岸段丘(標高100～115m)の東側斜面下には連吾川がつくる谷地形が広がり、段丘裾に緩斜面(標高82～84m)がある。遺跡はその緩斜面に展開する。
- 調査の概要** 08A区では、河川堆積による砂礫層上で古墳時代前期の遺物を包含する黒色土が堆積する一辺約12mの方形の落ち込みが検出されたほかは顕著な遺構はなかった。一方08B区では、砂礫層上に堆積する通称黒ボク土層の上面およびその中で2つの検出面を設定することができた。上面では12～13世紀の遺構、下面では10～11世紀の遺構が検出した。また遺構を伴わないものの、縄文時代後～晩期の石器や土器、古墳時代前期の土師器、7～8世紀代の須恵器と土師器が確認された。なお、長篠・設楽原合戦時に限定しうる遺構や遺物の検出はなかった。
- 平安時代の集落** 主として竪穴住居で構成される集落である。一辺が約5mのものと約3mのものがありいずれも10世紀後半の灰釉陶器が出土する。前者(303SI)は竪穴底面に幅約80cmの周溝状掘り方が認められる。火処は確認されなかった。遺構の重複関係で比較的新しい時期と判ぜられる竪穴住居跡からは11世紀代の灰釉陶器も出土した。
- 鎌倉時代の遺構** 集落の南側には東西方向の小谷があり、それに面して東西25m×南北17m規模の窪地がある。窪地堆積土層からは12世紀代の山茶碗と土師器鍋が多数出土した。鍋は清郷型と称される厚手のナデ調整のものである。堆積土層上および黒ボク土層上面では、浅い皿状をした竪穴状遺構と溝、多数の柱穴が検出された。ただし13世紀以降の遺物は極端に減少する。
- 信濃由来の土師器碗** 窪地堆積土層からは12世紀代の白磁碗や9世紀後半の緑釉陶器、土錘や鉄滓などの注目される遺物が出土した。特に信濃地域からもたらされたとみられる土師器無台碗は、当該地域との交流のうかがい知る貴重な発見であったといえる。(永井邦仁)



平安時代の竪穴住居跡303SI



加原遺跡08B区遺構配置図

いわくらじんじゃ

石座神社遺跡

所在地 新城市大宮
 (北緯34度55分38秒 東経137度31分10秒)
 調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線
 調査期間 平成20年6月～平成21年3月
 調査面積 5,200㎡
 担当者 宮腰健司・早野浩二



調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成20年6月～平成21年3月、調査面積は5,200㎡である。

立地と環境 石座神社遺跡は、豊川中流域右岸の上位段丘面上に立地する。段丘下の東西には連吾川と大宮川が流下し、段丘面上は舌状の平坦地を呈する。遺跡周囲の標高は約110mで、段丘下との比高は約30mである。同じ段丘面上の南端付近には、弥生時代後期から古墳時代に継続する南貝津遺跡、前方後方墳の断上10号墳(全長約50m)が立地する。連吾川に面した段丘下には、平安時代・鎌倉時代を中心とする加原遺跡、大宮川に面した段丘下には、弥生時代後期・古墳時代前期の遺跡である吉竹遺跡が立地する。なお、石座神社は式内社で、神社境内においては、過去に中世の瓦が採集されている。

調査の概要 今年度の発掘調査は、段丘面東半の北斜面側を対象とした。調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期、奈良時代、中世・戦国時代の遺構と遺物が確認された。

弥生時代後期・古墳時代前期 弥生時代後期・古墳時代前期は、本遺跡の主体となる時期である。この時期の遺構として、竪穴住居2棟、大溝2条等の遺構を確認した。

竪穴住居016SI・121SIは、丘陵頂部の縁辺付近に分布する。平面形は、長辺4～5mの方形を呈する。016SIは、中軸線上のやや偏した位置に支柱石を配した地床炉を敷設し、その近辺に貯蔵穴様の土坑を配する。121SIは、中軸線上のやや偏した位置に地床炉を配する。竪穴住居からは、S字甕を含む台付甕、平底甕、加飾広口壺、有段高杯、小型鉢等の土器がややまとまって出土し、121SIの床面付近からは、筋砥石が出土した。

大溝020SDは、丘陵頂部から丘陵斜面にかけて流下し、丘陵の頂部から斜面にかかる地点で急激にその幅と深さを増す。規模は幅が1.6～4.5m、深さが0.2～1.2mである。大溝128SDは、調査区西部の谷に面した東斜面を流下し、溝の形状や溝内の堆積状況は020SDと類似する。規模は、幅が約3.5m、深さが約0.4mである。これら的大溝の上層に包含される遺物は古墳時代前期までの遺物に限られること、020SDが奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物に先行することから、大溝は古墳時代前期には埋没していたと推測されるが、遺構の性格は判然としない。

また、丘陵頂部や斜面には高位段丘の礫層に由来する礫群001SSが検出された。001SSには、手捏ね土器を含む土師器片が混在し、正位で埋設された土師器甕も認められる。礫の不自然な分布状況からも礫群には何らかの造作が加えられていることも推測されるが、礫による明確な単位や区画は認められなかった。なお、礫が分布する丘陵頂部(調査区外)には、径約7m、高さ約1mの円墳状の高まりが残存している。



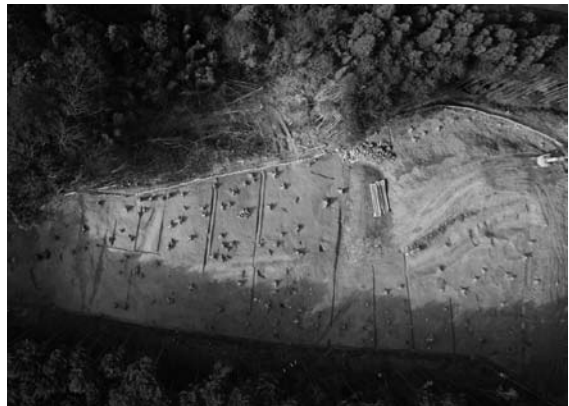
遺跡遠景（北から）



遺跡遠景（東から）



O8A区全景



O8B区全景



丘陵頂部の礫群O01SS



礫群O01SS中に埋設された土器



大溝O20SD



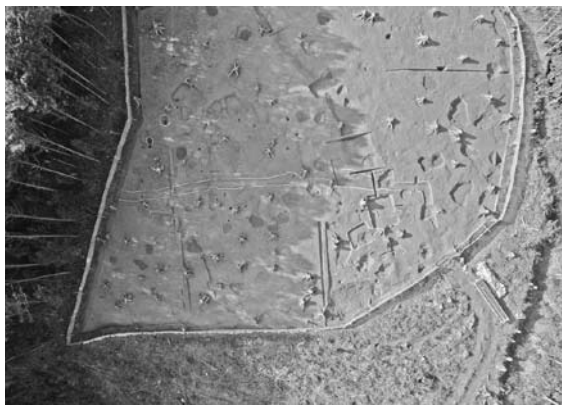
竪穴住居O16SI



竪穴住居 121SI



竪穴住居 121SI出土遺物



丘陵東斜面の奈良時代の遺構



掘立柱建物 1



竪穴住居 019SI



竪穴住居 019SI出土遺物



火葬施設 023SL



溝 129SD出土遺物

いしぎし
石岸遺跡

所在地 新城市須長
(北緯34度55分39秒 東経137度31分34秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年4月～平成20年9月

調査面積 800㎡

担当者 宮腰健司・樋上昇・岡久雅浩

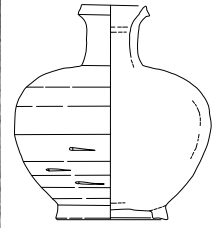


調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

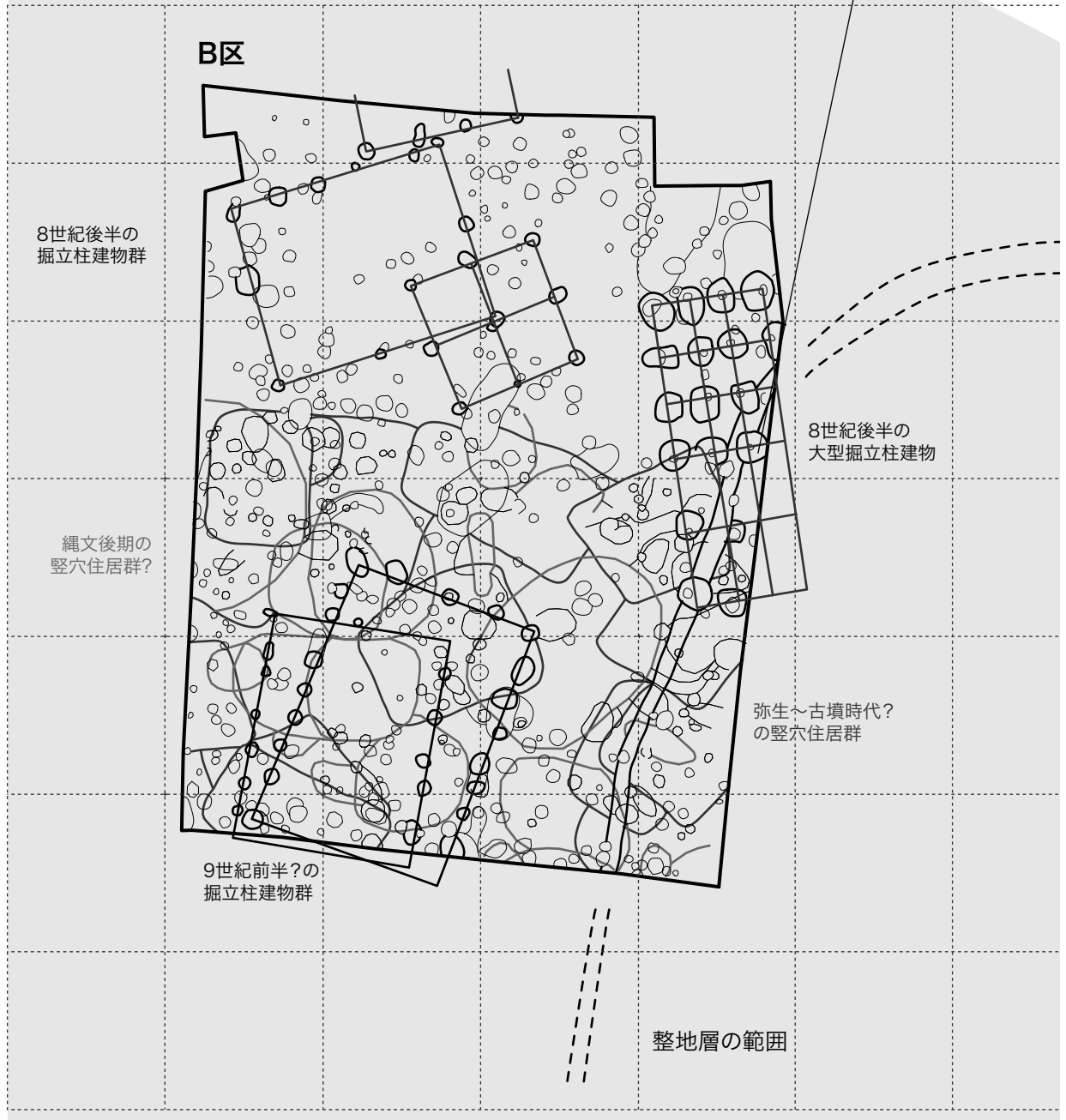
- 調査の経緯** 石岸遺跡の発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。
- 立地と環境** 本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、長篠・設楽原の合戦で有名な設楽原決戦場の北端に所在している。地形的には、雁峰山の南麓で、豊川の支流である連吾川左岸にある残丘の東側緩斜面に位置している。遺構検出面での標高は約80mである。
- 調査の概要** 調査区は橋脚部分の2ヶ所で、東がA区、西がB区である。検出した遺構は縄文時代・弥生～古墳時代・飛鳥～平安時代の3時期である。
- 縄文時代** 縄文時代の遺構は、B区の南半部に展開している。後期の竪穴住居とおもわれる直径3～5mを測る円形の落ち込みを9基検出した。土器・石器ともに多数出土しており、特に打製石斧の未成品がめだつ。このほか、小型の石棒も出土している。
- 弥生～古墳時代** 弥生時代中期～古墳時代前期と考えられる竪穴住居がやはりB区の南半部で13棟確認しており、うち1棟のみ炉跡が遺存していた。A区でもこの時期の土器が出土していることから、集落域はA区まで広がっていた可能性が高い。
- 飛鳥～平安時代** 7世紀前半から9世紀前半にかけて、本遺跡は大きく改変される。まず、7世紀前半には、A区の東端を南北に貫く河道に沿って、幅約1mの大溝が掘削される。この大溝は、A区北側までは幾筋かに分かれており、A区の中央で1本となり、南に流れる。A区北東隅では素木弓・火鑽臼・板材などの木製品がまとまって出土しており、この地で何らかの木製品生産が行われていたようである。A区北西隅にある土坑から、須恵器の甕と杯身が出土している。次いで、大溝より西側一帯に大規模な整地が施される。B区では整地層の厚さが40～50cmあり、総土量は推定で500㎡におよぶ。整地層に用いられた土は、B区西側の小山を削り取ったものと考えられ、8世紀前半を中心とする土器が多数含まれている。
- A区西半部ではこの整地層の上面で約10棟の竪穴住居、B区では大型掘立柱建物を含む数棟の掘立柱建物群を確認した。この掘立柱建物群は、主軸が北で10～20°西に振れるのを特徴としている。なかでも、B区東端で確認した建物は、東西が3間(3.5m)以上、南北が5間(10m)におよぶ大型の総柱建物で、柱掘形は長辺で約1mあり、柱の径は20～30cmを測る。ただ、南側2間分は柱間が広く、柱筋の通りがやや良くないことから、北側の3間分とは別の建物となる可能性がある。この掘立柱建物の北から4列目で、西から3番目の柱掘形から完形の須恵器長頸瓶が出土しており、築造時期を8世紀後半に特定することができた。規模からみて一般集落のものとは考えがたく、この地域を支配した豪族層の居館ないしは公的な施設にともなう倉庫(稲倉)とおもわれる。
- この大型掘立柱建物とは主軸を異にする掘立柱建物が2棟、重複してB区の南側に存在する。うち1棟は、南北が8間(8.5m)で東西は4間(5.8m)を測るが、柱掘形は丸く、柱間も不揃いである。主軸の方位は北で約20°東に振れており、A区の竪穴住居廃絶後に掘立柱建物(南北5間、東西3間)もこれに近い方位をとる。この方位は石岸遺跡の南西約1.5kmに遺存している神田条里制遺構の地割に近い。(樋上昇)



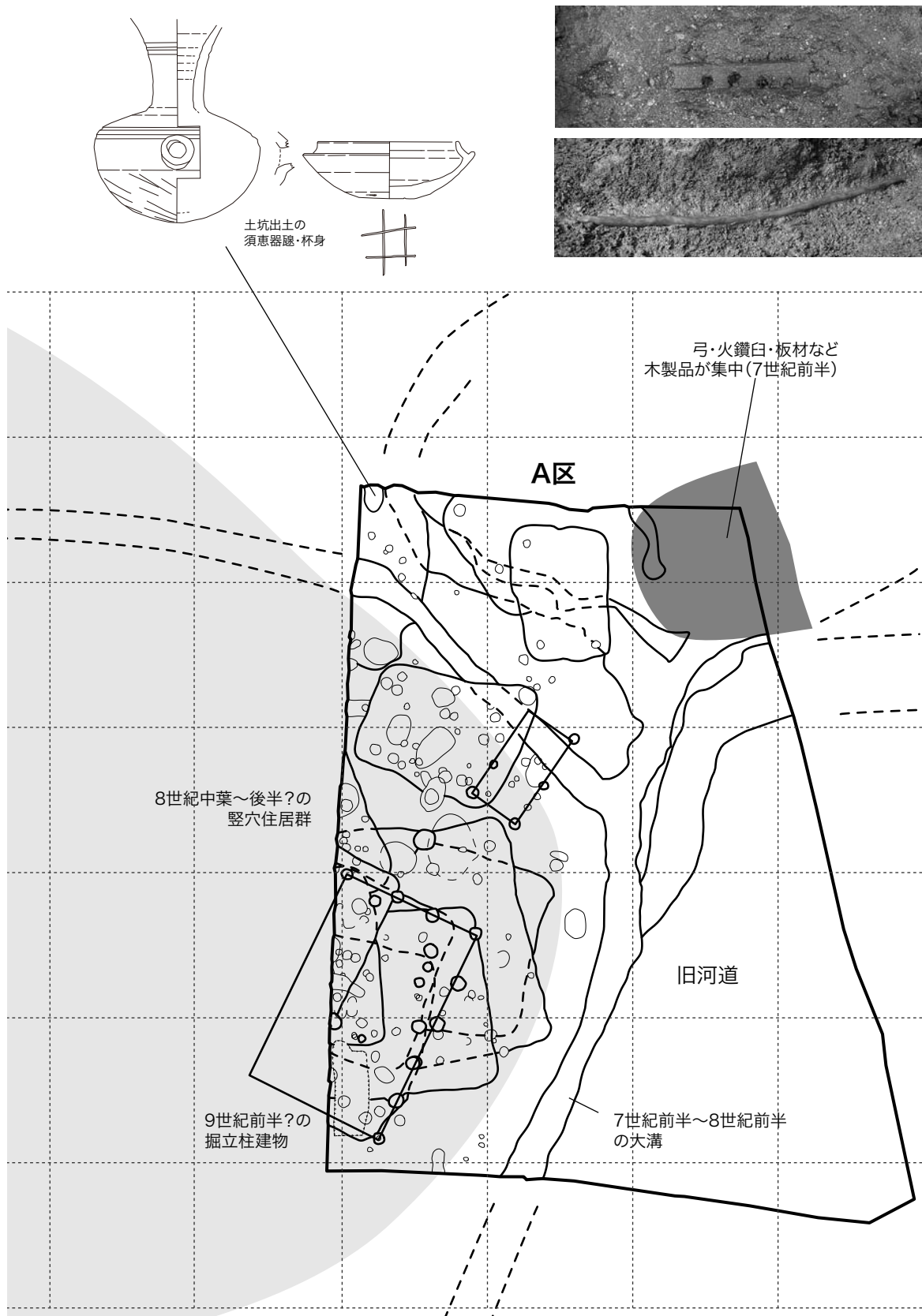
B区整地層出土の須恵器杯蓋



大型掘立柱建物の掘形から出土した須恵器長頸瓶



石岸遺跡全体図 (1:200)



石岸遺跡全体図 (1:200)



B区上面全景(西から)



A区上面全景(西から)



B区下面全景(東から)



A区下面全景(西から)



B区大型掘立柱建物(北から)



A区掘立柱建物(北西から)



B区掘立柱建物(北東から)



A区罎・杯身出土状況(南から)

も り し た
モリ下遺跡

所在地 新城市八束穂
(北緯34度55分33秒 東経137度32分4秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年9月～平成21年3月

調査面積 3,100㎡

担当者 宮腰健司・樋上昇・岡久雅浩



調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境 本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、地形的には、雁峰山から派生する尾根筋の南西側緩斜面に立地している。遺構検出面での標高は約85mである。

調査の概要 調査区は西がA区、東がB区である。検出した遺構は縄文時代・古墳時代・鎌倉～戦国時代の3時期である。

縄文時代 縄文時代の遺構は、A区に分布し、土器棺墓の可能性のある後期前半の深鉢が横倒しに入っていた土坑450SKのほか、晩期の土器が出土している遺構も認められる。

古墳時代 古墳時代前期が本遺跡において最も遺構が重複する時期で、A・B区合わせて、約140棟もの竪穴住居を確認した。地形的に高いB区は遺存状況がよく、2209・2067・2682・3124SIなどでは、床面で幅広周溝を検出した。また、2067・2410SIからは、欠山期の土器がまとまって出土している。全体的に、長辺が3m以下の小型の住居が多い点がこの集落の特徴である。

鎌倉～戦国時代 鎌倉～戦国時代では、古墳時代前期の竪穴住居によく似た竪穴状遺構25基を調査区全域で確認した。遺物は少ないが、青磁碗片・天目茶碗片・土師器小皿・山茶碗などが出土している。
(樋上 昇)



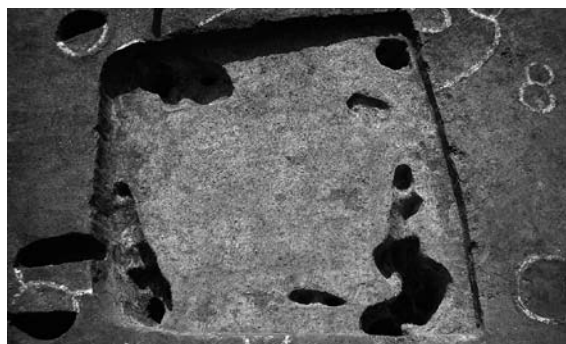
A区全景



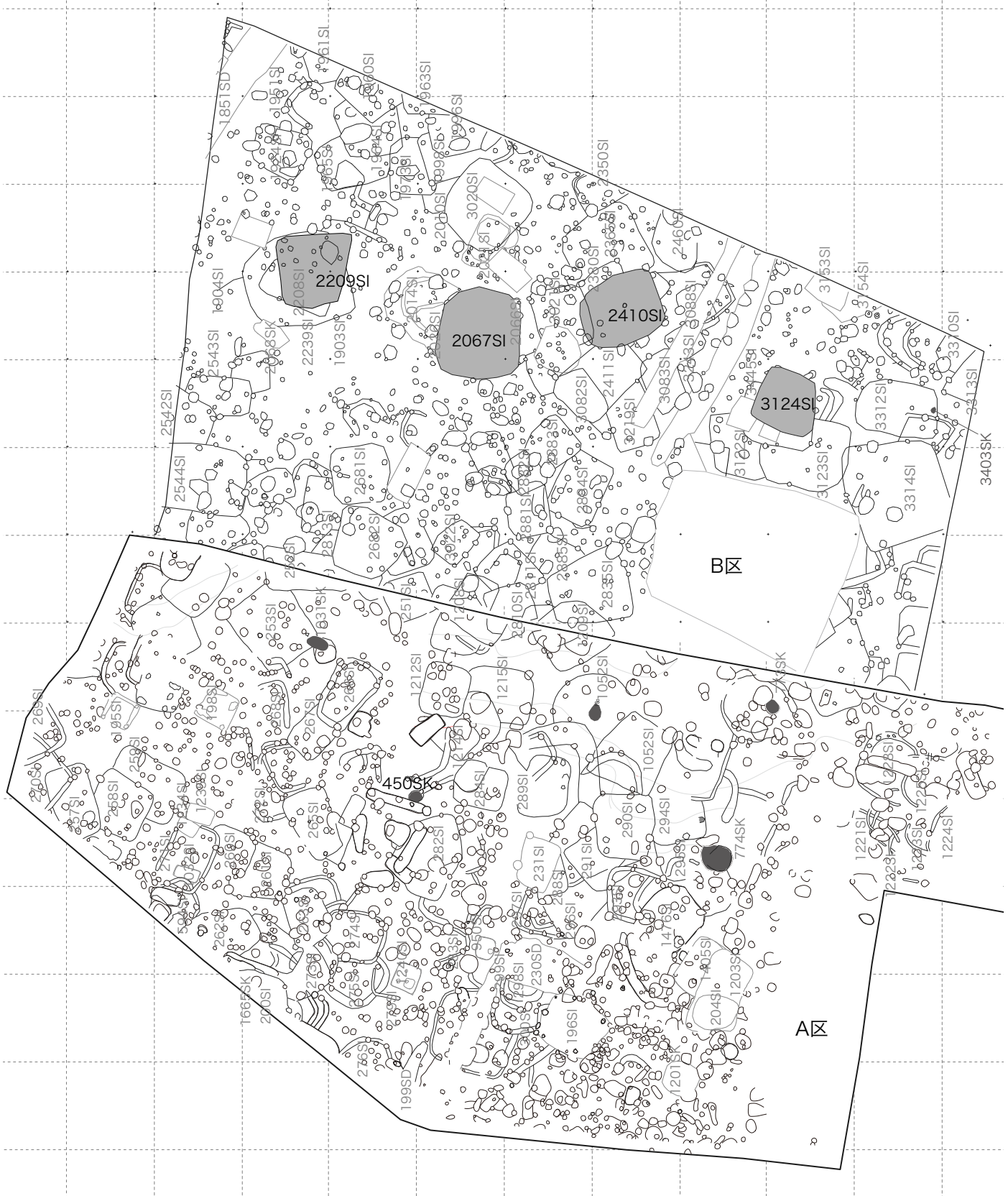
縄文後期前半の土器棺墓？ 450SK



古墳前期の竪穴住居 2682SI(幅広周溝検出状況)



中世の竪穴状遺構 198SK



遺構全体図(1:300)

さかの 坂野古墳群

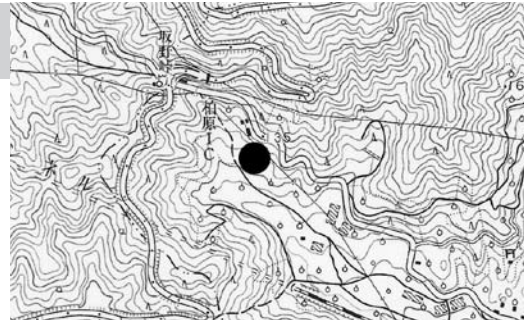
所在地 蒲郡市柏原町字坂野
(北緯34度50分56秒 東経137度11分54秒)

調査理由 一般国道23号蒲郡バイパス

調査期間 平成20年5月～6月

調査面積 100㎡

担当者 石黒立人・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「幸田東」)

調査の経過 調査は国土交通省による国道23号線道路建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年6月16日～同6月25日の7日間実施した。調査では、調査対象地内に試掘坑(テストトレンチ Tと略す)を11ヶ所(総面積100㎡)設定した。

立地と環境 坂野古墳群は蒲郡市の北西端、西の幸田町から蒲郡市に通じる柏原街道にある坂野峠の南東約250m、尺地川の東岸にあたる北西から南東に傾斜する台地の緩斜面に立地する。調査地点の標高は100m～110mである。

調査の概要 調査地点に設定した試掘坑では、地表より深さ0.12m～0.30mの表土(腐植土)層直下の基盤層上面にて遺構検出を行なったが、遺構・遺物は確認できなかった。その後当初想定された2基の古墳(穴状の遺構)の確認調査も行った。その結果、試掘坑において基盤層部分に広がる礫を多数確認したが、想定される古墳の石室側壁に相当する大礫に石が連続して石積みされる状態が確認できないこと、古墳の石室奥壁に相当する石積みが存在しないこと、古墳に伴う遺物が出土しないことから、古墳が存在しないことが判明した。

以上のことから、坂野古墳群は今回の調査対象地域に及んでいないと判断した。
(蔭山誠一)



試掘調査トレンチ位置図(1:1,500)

かけしたじょう 欠下城跡

所在地 新城市矢部
(北緯34度55分25秒 東経137度30分17秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年4～5月

調査面積 100㎡

担当者 宮腰健司・早野浩二



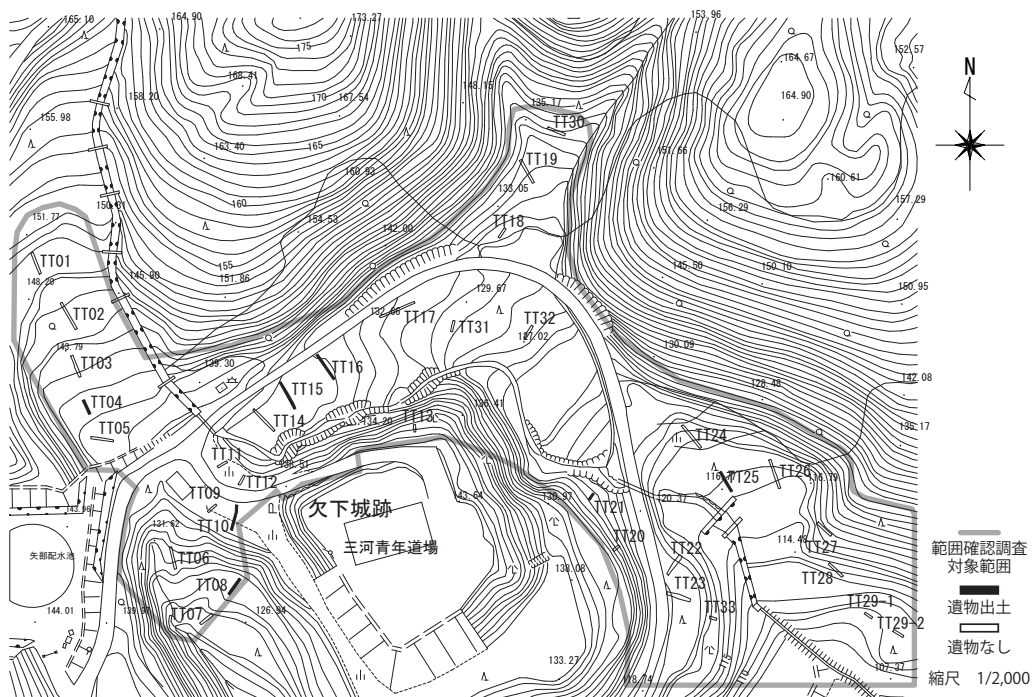
調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成20年4～5月、調査面積は100㎡である。

立地と環境 欠下城跡は、矢部集落の北方、雁峰山から派生する丘陵地に立地する山城で、市史跡に指定されている。築城時期や城主は不明である。主郭があったとされる尾根の頂部には三河青年道場が建設され、その周囲の平坦地には支郭があったとも推定されている。丘陵は幾つかの小谷によって分割され、小谷には砂防堤の水路が構築されている。

調査の概要 今回の範囲確認調査は、(推定)主郭の周囲を対象としたものである。試掘坑は(推定)主郭の北西の小谷内にTT01～TT05、西方の小谷内にTT06～TT08、石碑周囲の平坦地にTT09～TT12、北方の平坦地にTT14～TT17・TT31・TT32、北東の小谷内にTT18・TT19・TT30、(推定)主郭周囲の平坦地にTT13・TT20～TT23・TT33、東方の小谷内にTT24～TT29(計33地点)を設定し、遺構・遺物の有無等を確認した。

まとめ 今回の範囲確認調査の結果、尾根状となるTT09～TT12付近には、中世前期の遺物包含層が安定して堆積している可能性が高いと推測された。また、「欠下城跡」に直接関係する遺構は確認されなかったが、範囲確認調査のみによって城跡の性格を明らかにすることは難しく、より詳細な検討が必要である。(早野浩二)



試掘坑配置図

ささだいら まんぜ おおなぐら
笹平遺跡・万瀬遺跡・大名倉遺跡

所在地 北設楽郡設楽町、小松字笹平、川向字マンゼ、大名倉字下谷・滝ノ下
 (北緯34度55分25秒 東経137度30分17秒ほか)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成20年10月～平成20年12月

調査面積 200㎡

担当者 宮腰健司・岡久雅浩

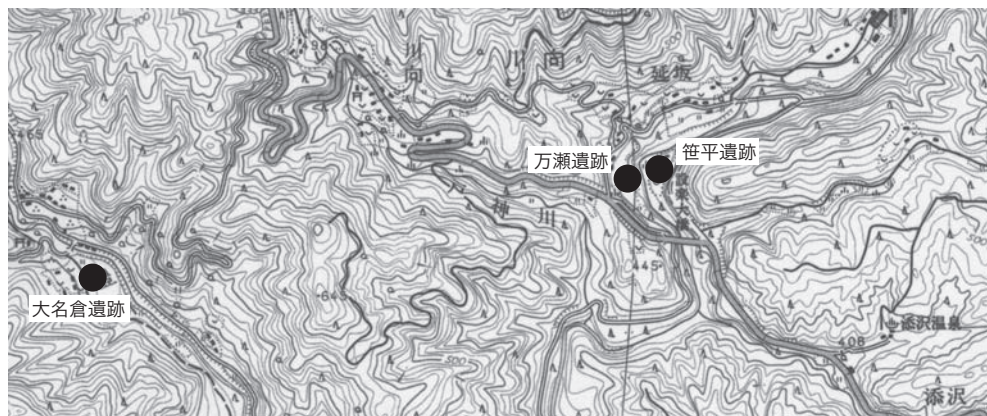
調査の経過 調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年10月から平成21年1月にかけて実施された。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、笹平遺跡26ヵ所、万瀬遺跡33ヵ所、大名倉遺跡41ヵ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 笹平遺跡は標高約388mの境川左岸段丘上の平坦地、万瀬遺跡は標高約395～420mの境川右岸の山麓斜面、大名倉遺跡は標高約428～448mの寒狭川右岸の河岸段丘から山麓緩斜面に立地している。

調査の概要 笹平遺跡では、平坦地のうち居宅周辺の庭及び畑地に設定したテストトレンチ13ヵ所で遺物包含層を確認し、縄文土器・石器などが出土した。また、この範囲では9ヵ所で土坑・溝などの遺構が検出されたが、うち2ヵ所では竪穴建物に伴うと思われる焼土も認められた。遺跡は、笹平の平坦地の北部、現在の居宅周辺から南西側に広がると考えられる。

万瀬遺跡では、県道小松・田口線下位の谷地形内の耕作地に33ヶ所のテストトレンチを設定したが、遺物の出土はほとんどなく、明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。ただし、調査地北側の畑地内では灰釉陶器・山茶碗の破片や石器片などを多く表採することができることから、遺跡はより斜面の上部に展開している可能性が考えられる。

大名倉遺跡の調査地は、上位の山麓斜面末端の居宅周辺の耕作地、中位の河岸段丘上の水田地、下位の河岸段丘下の水田地の3区域に分けられる。このうち、上位の山麓斜面末端の耕作地に設定したテストトレンチの中で、小谷より北側の9ヵ所ではほぼ共通する遺物包含層が確認され、縄文土器・石器などの遺物が出土し、一部では土坑などの遺構も検出された。これ以外の区域では、まれに縄文土器の細片などの出土があるものの、明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。遺跡は山麓斜面北側を中心に展開するものと考えられる。(岡久雅浩)



調査地点 (1/2.5万「田口」)

III. 刊行報告書抄録

第144集 下懸遺跡

安城市小川町に所在する遺跡で、調査面積は3700㎡となる。

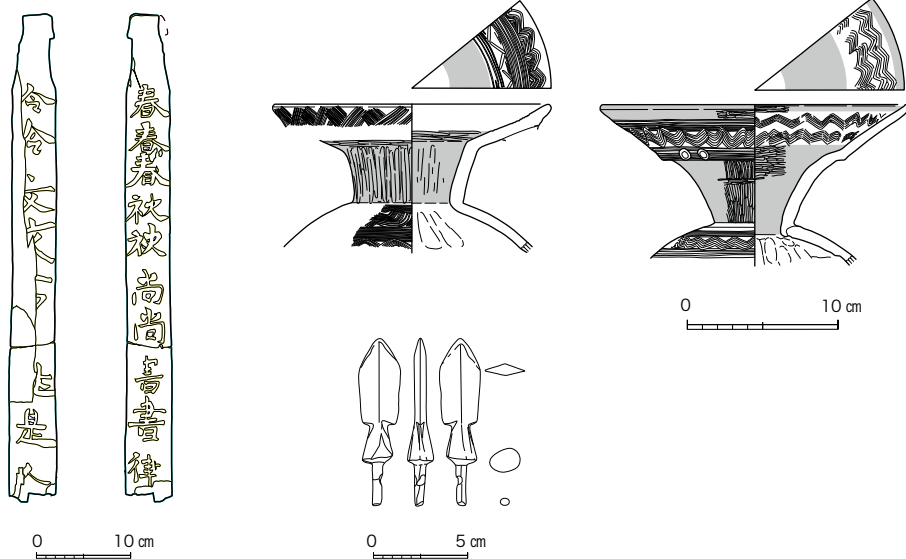
中心となる時期は弥生時代後期～古墳時代前期で、南側に谷地形、北側に居住域が展開する様子を確認している。居住域と谷地形の境界部分には方形周溝墓が確認され、その周囲には方形周溝墓に関連すると推定される土器集積遺構が展開している。

出土遺物は当該期の土器が主体となるが、谷地系からは未成品を含む多量の木製品も出土している。この他注目できる資料として、谷地形の上層から出土した奈良時代と考えられる木簡が1点ある。

(池本正明)



B区SU01(西から)



出土遺物実測図

報告書抄録

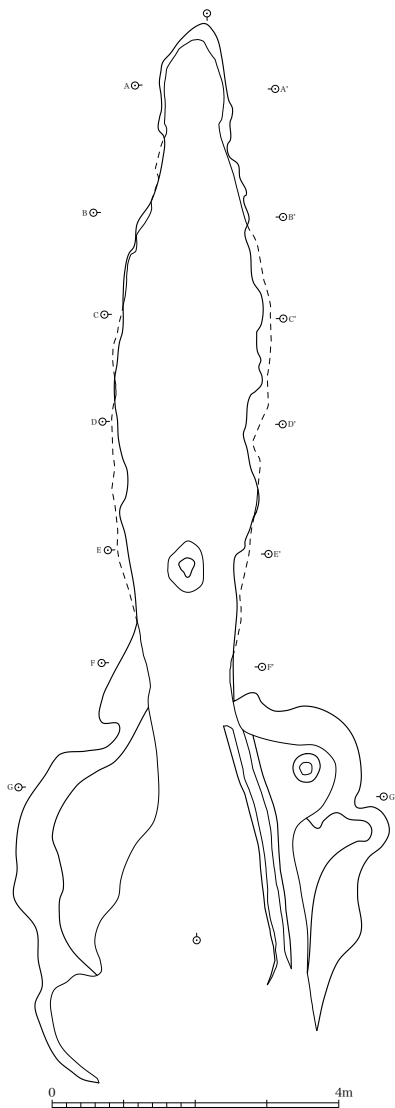
ふりがな	しもかけいせき							
書名	下懸遺跡							
副書名								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第144集							
編著者名	池本正明・赤塚次郎・樋上 昇・堀本真美子・鬼頭 剛・森 勇一・永草康次・植田弥生・神谷已佳・平尾義光・鈴木浩子							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
収蔵遺跡名	所在	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	原因
		市町村	遺跡番号					
しもかけいせき 下懸遺跡	あんじょうしおがわちやう 安城市小川町 しもかけ 下懸	23213	540127	34° 54' 21"	137° 05' 44"	200012 ～ 200103	3700	鹿乗川改修
文書番号	発掘届出（12埋セ125-1 12.8.31） 発掘許可（12教生216-25 12.9.29） 終了届（12埋セ 13.3.29） 発見届（12埋セ 13.3.29） 保管証（12埋セ 13.3.29） 認定（12教生216-25 13.5.28）							
収蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
しもかけいせき 下懸遺跡	集落遺跡	弥生時代後期 ～ 古墳時代前期 奈良時代以降	竪穴建物・方形周溝墓 自然流路（谷地形）	弥生土器・木製品 銅鏃・小型鉄製品 木簡・墨書土器				
要約	本遺跡は沖積低地中の微高地に位置する。検出された遺構は弥生時代後期後半から古墳時代初期が中心で、竪穴建物・溝・土坑などが検出される居住域と方形周溝墓群で構成される墓域が検出されている。その前面には谷地形が広がるが、未成品を多く含む木製品が出土しており、近接して木製品の製作に関わるエリアが存在したと考えられる。							

第151集 万徳峠窯跡・川合D窯跡

万徳峠窯跡および川合D窯跡は、庄内川支流である赤津川左岸の丘陵南斜面に位置する。標高は160～170mを測る。東海環状自動車道建設に付随する道路改良事業の工事に伴い、調査を実施した。

万徳峠窯跡の調査では13世紀後半から14世紀前半の時期の山茶碗・古瀬戸施釉陶器窯の窯体1基と付属の施設の遺構と考えられる土坑13基、粘度溜め遺構および灰原と二次体積層が堆積する自然河道の河谷が確認された。出土遺物は、尾張南部系第7～8型式の山茶碗、山皿および古瀬戸前期の四(三)耳壺、瓶子、水注などの施釉陶器瓶類が検出された。

川合D窯跡では遺物包含層のみが確認された。戦前から戦後にかけての農地開発、道路・送電線鉄塔建設などによる窯跡の削平、攪乱が著しい。検出された自然河道の小河谷内の灰原層と二次堆積層から、14世紀末～15世紀前半の無釉陶器類および前期と中・後期の古瀬戸施釉陶器が出土した。無釉陶器類は、尾張南部系第9型式の山茶碗、山皿、片口鉢などが検出された。古瀬戸施釉陶器は、前期は四(三)耳壺、瓶子、水注、中・後期は碗類、皿類、瓶類、鉢類などが検出された。古瀬戸前期の施釉陶器窯および中・後期の山茶碗窯と施釉陶器窯が調査区の斜面上方に存在したと推測されるが、窯体数、操業形態についての詳細は不明である。(酒井俊彦)



万徳峠窯跡窯体



万徳峠窯跡窯体全景



川合D窯跡

報告書抄録

ふりがな		まんとくとうげようせきかわいでいようせき						
書名		万徳峠窯跡 川合D窯跡						
副書名								
巻次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第151集						
編著者名		酒井俊彦						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567 (67) 4161						
発行年月日		2009年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m ²	調査原因
万徳峠窯跡	せとしかわいちょう 瀬戸市川合町	03	0230	35° 12' 00"	137° 07' 20"	20030817～ 20031130	1000	道路建設
川合D窯跡	せとしかわいちょう 瀬戸市川合町	03	0861	35° 12' 00"	137° 07' 14"	20031015～ 20031215	250	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
万徳峠窯跡	古窯跡	鎌倉時代		窯体 土坑 灰原		山茶碗 山皿 古瀬戸施釉陶器		
川合D窯跡	古窯跡	室町時代		灰原		山茶碗 山皿 古瀬戸施釉陶器		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財保 管証	埋蔵文化財認 定	
	万徳峠窯跡	15埋セ18 15. 5. 29	15教生72-6 15. 6. 24	15埋セ86 15. 12. 3	15埋セ86 15. 12. 3	15埋セ86 15. 12. 3	15教生1261 16. 1. 12	
	川合D窯跡	15埋セ18 15. 5. 29	15教生72-6 15. 6. 24	15埋セ87 15. 12. 3	15埋セ87 15. 12. 3	15埋セ87 15. 12. 3	15教生1262 16. 1. 12	
要約	万徳峠窯跡と川合D窯跡は瀬戸市東部の丘陵地帯に近接して所在する中世の窯跡である。万徳峠窯跡は鎌倉時代13世紀の無釉陶器の山茶碗と山皿を主体に焼成、少量の古瀬戸施釉陶器の四耳壺、瓶子、水注を併焼している。遺構としては窯体、土坑、灰原を確認している。川合D窯跡は、遺構は灰原と二次堆積層を検出している。窯体等の遺構は確認されてない。遺物は14世紀の山茶碗、山皿、古瀬戸施釉陶器類が出土した。							

第154集 朝日遺跡Ⅷ

朝日遺跡は弥生時代において県下最大規模の遺跡であり、現在の標高が2～4mで沖積低地に立地するが、遺跡本来は伊勢湾に面した砂堆上に位置していたものと推測できる。現在想定できる遺跡の範囲は、清須市を中心にして東西約1.4km以上、南北約0.8kmで、面積は100万平米を越える大規模集落遺跡である。集落域は北と南に区分される環濠集落を中心として、その周辺部に方形周溝墓群が大きく展開する巨大な墓域が存在する。多種多様な弥生時代の遺物が出土しており、当地域における弥生文化の中核的な遺跡であった事を、あらためて再評価する調査成果となった。(赤塚次郎)



朝日遺跡のイメージ図

報告書抄録

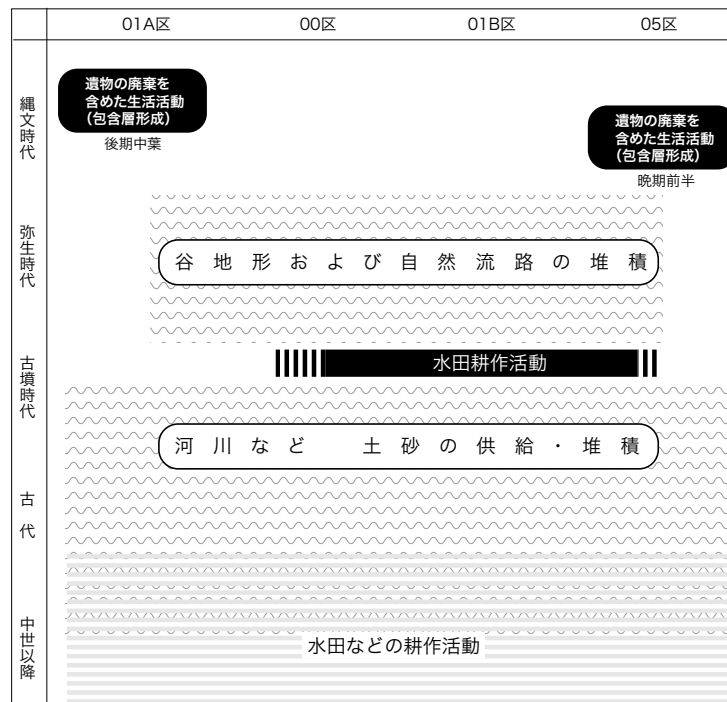
ふりがな		あさひいせき はち						
書 名		朝日遺跡 VIII						
副 書 名		本文編、写真図版編、総集編						
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第154集						
編著者名		永井宏幸，堀木真美子，赤塚次郎，早野浩二，石黒立人，川添和暁 樋上 昇，鬼頭 剛，樋泉岳二，中村賢太郎，孔智賢，奥野絵美 森 勇一，藤尾慎一郎，尾嵩大真						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL.0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ・' "	東経 ・' "	調査期間	調査面積	調査原因
あさひ いせき 朝日遺跡	きよすし 清須市 なごや し にしく 名古屋市区 にしかずかいぐん はるひちよう 西春日井郡春日町	21	210001	35度 13分 16秒	136度 51分 16秒	2004年10月 ～ 2007年8月	5607㎡	近畿自動車道名古屋関線清洲 JCT, 名岐道路, 県道高速清洲 一宮線及び県道高速名古屋朝 日線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
朝日遺跡	集落	弥生時代 ～ 古墳時代	環濠、竪穴建物 掘立柱建物 方形周溝墓溝 溝、土坑 貝塚・旧河道など		弥生土器、土師器、 石器、木器 ガラス小玉 骨角器 動物遺体など		弥生時代の 環濠集落とその墓域 弥生中期の貝塚 方形周溝墓と その埋葬主体部 弥生後期の 祭祀遺構 鹿が描かれた筒形土器・舌状石製品	
文書番号		発掘届 (16埋セ第51号/平16-09-13・17埋セ第38号/平17-08-10 17埋セ第125号/平18-03-22・18埋セ第108号/平19-03-29) 発掘許可 (16教生第1182号/平16-09-29・17教生第1104号/平17-08-31 18教生第45号/平18-04-12・19教生第19号/平19-04-05) 発見届 (16埋セ第124号/平17-03-31・17埋セ第125号/平18-03-22 18埋セ第109号/平19-03-20・19埋セ第55号/平19-08-30) 終了届 (16埋セ第124号/平17-03-31・17埋セ第125号/平18-03-22 18埋セ第109号/平19-03-20・19埋セ第55号/平19-08-30) 鑑査結果 (17教生第364号/平17-05-23・18教生第466号/平18-06-14 19教生第469号/平19-05-23・19教生第1686号/平19-10-22)						
要約	今回の朝日遺跡の調査では、弥生後期の環濠である北区画内南側に広場的な空間があり、祭祀関係の遺構が存在する点が明らかとなった。また遺跡北東部の北墓域では、弥生時代中期を中心とした方形周溝墓群が展開し、その下層において中期前葉の居住域が広く営まれていた。遺跡南端部では南墓域が存在し、中期後葉を中心とした造営地であることが明らかとなった。さらに洪水性の砂層堆積が旧河道を中心に存在し、中期後葉の高蔵式期末葉段階に位置づけられる。朝日遺跡全体の集落景観とその変遷を考える上で、大変重要な資料を得ることができた。							

第157集 大坪西遺跡

大坪西遺跡は、国道248号線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行なわれたものである。調査は平成12年に1調査区(00区)・13年に2調査区(01A・01B)・17年度に1調査区(05区)の4調査区を設定し、三カ年にわたって、計1,150㎡を調査した。整理は、平成20年1月から3月までの期間で、出土遺物の分類・接合・復元・実測などの整理作業を行い、報告書作成作業を進めていった。

調査では、縄文時代の土器集積および竪穴状遺構などの遺構・古墳時代の水田跡・縄文時代から近世までの遺物が出土していたことは把握されていた。最も数量が多いのは縄文時代の遺物であるが、整理の結果、縄文時代の遺物が出土している01A区と05区では時期が異なり、01A区では縄文時代後期中葉、05区では縄文時代晩期前半であることが明らかとなった。このことを調査成果と照らし合わせると、両者は、時期のみならず、包含層の土性・石器を含めた出土遺物の内容などに大きな差が存在しているようであり、立地・形成状況にも違いがあったことが考えられた。後期中葉の土器集積が検出された01A区は、大坪遺跡に近接しており、大坪遺跡の一部としての廃棄活動が行われた可能性が考えられる。05区は、遺物が散発的に存在する状況で、1キロ以上離れた地点に立地する大六遺跡と関連して当時の人間活動を考える上で貴重な事例となった。

大坪西遺跡報告書は総頁110、本文70頁、写真図版24プレートである。添付CDには、報告書PDF書類と、遺構一覧表・遺物一覧表・過去の年報原稿データ（PDF書類）がある。（川添和暁）



大坪西遺跡の変遷

報告書抄録

ふりがな	おおつばにしいせき
書名	大坪西遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第157集
編著者名	川添和暁・堀木真美子・馬場健司・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫 Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° . ' " . . .	東経 ° . ' " . . .	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおつばにしいせき 大坪西遺跡	せとしおおつばちょう 瀬戸市大坪町	03	030915	35 度 11 分 40 秒	137 度 6 分 14 秒	200010～ 200511	1,150㎡	国道248号線 の建設に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大坪西遺跡	集落・水田遺跡	縄文後期中葉	遺物包含層	縄文土器・石器・石棒	
		縄文晩期前半	遺物包含層・竪穴状遺構・土坑など	縄文土器・石器	
		古墳	水田跡など	土器片・陶器片など	

文書番号 発掘届出(12埋セ第163-1号／ 13埋セ第83号・13.9.4／ 17埋セ第60号・17.10.3)
 通知(12教生第216-38号・12.12.7／ 13教生第36-15号・13.9.17／ 17教生第1348号・17.10.20)
 終了届(13埋セ130号・13.11.14／ 17埋セ第92号・17.12.19)
 保管証・発見届(13埋セ130号・13.11.14／ 17埋セ第92号・17.12.19)
 鑑査結果通知(12教生第216-38号・13.5.28／ 13教生第36-15号・13.12.11／ 17教生第2024号・18.1.26)

要約 01A区では縄文時代後期中葉の遺物包含層、05区では縄文時代晩期前半の遺物包含層、01B区と00区では古墳時代の水田跡が検出された。01A区は大坪遺跡の縁辺部に位置し、集落端に廃棄した地点である可能性が考えられる。05区は晩期前半期の単的遺跡と考えられ、同時期の遺跡として、大六遺跡を形成した人間集団との関係が考えられるものである。

第158集 惣作遺跡

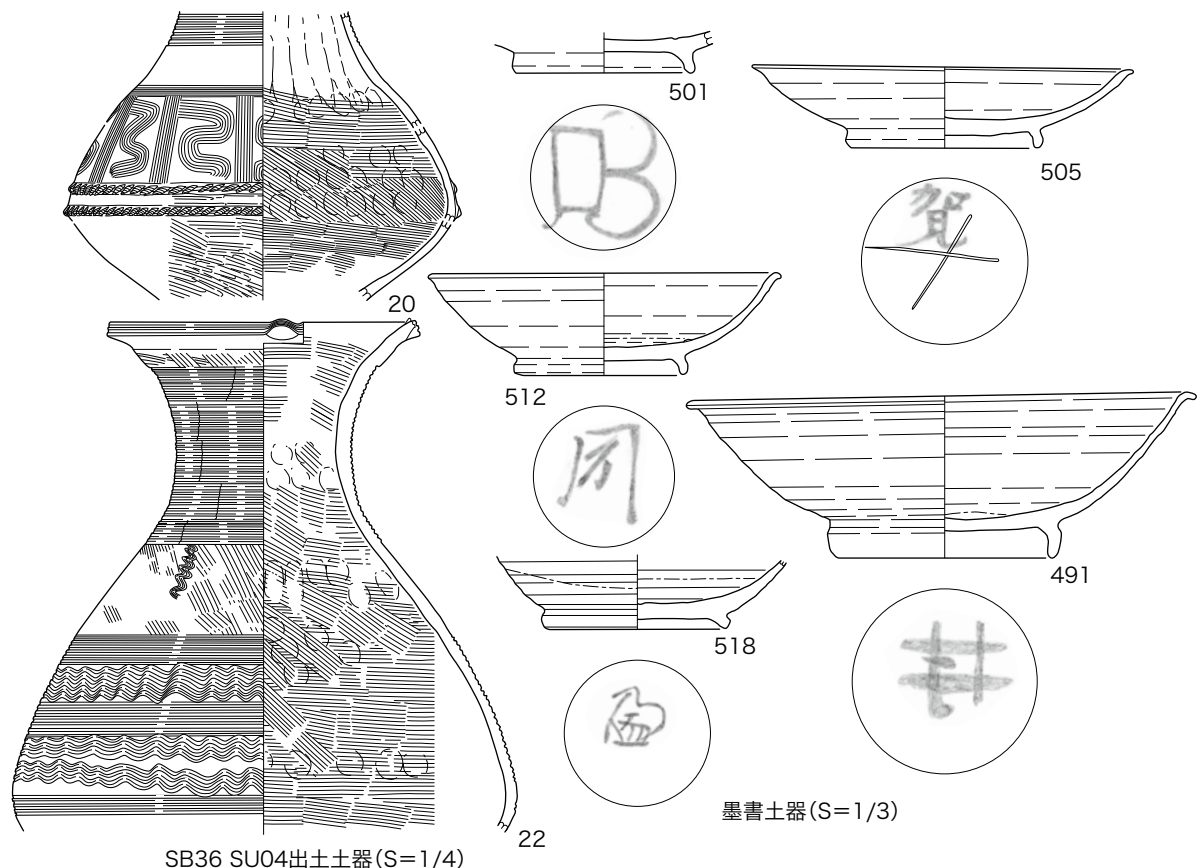
惣作遺跡の調査は、中小河川改良工事（鹿乗川）に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として本センターが行ったものである。調査期間は平成16年10月から平成17年3月にかけて、調査面積は3295㎡である。遺跡は、碧海台地の縁辺に沿って流れる鹿乗川左岸の微高地上に立地する。遺構検出面の標高は6～7mを測り、碧海台地とは3～4mの比高がある。現在鹿乗川は直線的に改良されているが、それ以前は矢作川の浸食や堆積などの影響で、かなり入り組んだ地形であったことが、発掘調査などから判っている。

遺構・遺物の主な時期は、A期 弥生時代から古墳時代初頭（A—1期 弥生時代前期後半～中期前葉 水神平式期?～岩滑式期・朝日式期、A—2期 弥生時代中期後半 古井式期～凹線文期、A—3期 弥生時代後期～古墳時代初頭 山中式期～廻間式期）、B期 平安時代前半（B—1期 井ヶ谷78号窯式期～黒笹90号窯式期、B—2期 折戸53号窯式期）、C期 戦国時代から江戸時代（C—1期 鎌倉時代、C—2期 戦国時代～江戸時代、C—3期 江戸時代後期以降）に分かれる。

A期では、A—1期の焼成失敗品が廃棄された竪穴建物を含む居住域、A—2期前半の遺物を多く含む河道、A—2期後半の居住域と墓域、A—3期では惣作遺跡としては最大規模になると推定される居住域が検出された。

B期は掘立柱建物の方位や土坑との切り合いによって、2時期に分かれると思われ、近接する寺領廃寺との関連が考えられる瓦や、墨書土器も42点出土している。また銅絛や銅バリ・銅滴・炉壁などの铸造関連遺物も出土し注目された。

C期以降には集落は形成されず、水田に利用されるような河道の影響を受ける不安定地形であったと想定された。（宮腰健司）



報告書抄録

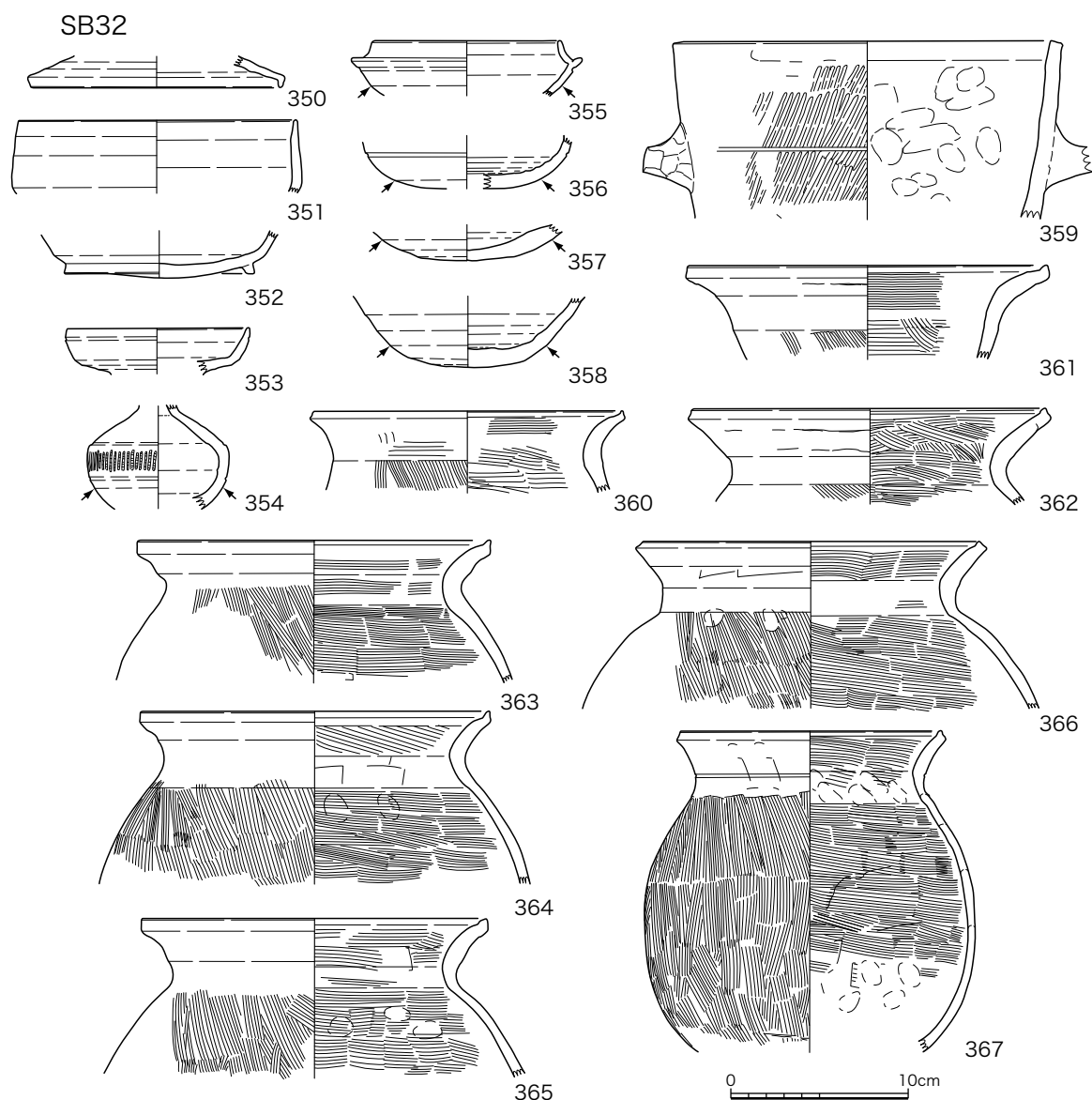
ふりがな		そうさく						
書 名		惣作遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第158集						
編 著 者 名		宮腰健司・鈴木正貴・鬼頭剛・株式会社パレオ・ラボ(伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫 小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎・Bhandari Sudarshan・孔智賢)						
編 集 機 関		財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24						
発 行 年		西暦2009年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そうさく 惣作	あんじょうし きどちょうそうさく 安城市木戸 町惣作	23213	540132	34°53'60"	137°05'38"	2004年 10月 ― 2005年 3月	3295㎡	鹿乗川河 川改良工 事
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
惣作遺跡	集落 墓 水田	弥生時代 古墳時代 平安時代 江戸時代		竪穴建物 土壇 溝 方形周溝墓? 土器棺 河川 水田		土器 土製品 須恵器・灰釉陶器 土師器 銅滓・銅滴 木器 石器 瓦		焼成剥離土器片 墨書土器42点 平安時代の木簡1点
文書番号		発掘届出(16埋セ第47号・2004.8.31) 通知(16教生第1127号・2004.9.16) 終了届・保管証・発見届(16埋セ第112号・2005.3.4) 監査結果通知(16教生第2144号・2005.3.29)						
要 約		本遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mを測る、自然堤防に立地する。弥生時代前期末～中期前葉、 中期後葉～古墳時代初頭の竪穴建物群が確認され、中期後葉には方形周溝墓?や土器棺もみら れる。また焼成失敗品を出土する竪穴建物も検出されている。 平安時代(9世紀後半～10世紀前半)にも掘立柱建物が確認され、墨書土器や木簡、折敷底や 竪杵などの木製品、瓦、銅滓や銅滴などの鋳造関連遺物などが出土している。 戦国時代から江戸時代にかけては、土坑・溝・水田が検出されている。						

第159集 下津新町遺跡

下津新町遺跡は、稲沢市下津新町地内に位置する。発掘調査は、主要地方道路名古屋豊山稲沢線の道路改良工事に伴い、平成17年4月から11月まで実施された。整理および報告書作成作業は平成19年度に行い、本年度に報告書刊行までの作業を行った。

発掘調査の結果、古墳時代から江戸時代までの長期間にわたる遺構や遺物が確認された。報告書作成に際しては、これらの遺構や遺物を段階別に整理し、遺構変遷を詳細に把握することを主眼にして作業を実施した。この結果、全部で18段階の遺構変遷を推定することができ、特に、古代の竪穴建物と掘立柱建物で構成される集落の動態を分析したことは重要な成果となるであろう。また、中世では5段階に遺構変遷が理解され、守護所下津の景観復元に際して情報を提供できたのではないかと考えている。

(鈴木正貴)



下津新町遺跡古代出土遺物(1:4)

報告書抄録

ふりがな		おりづしんまちいせき						
書 名		下津新町遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第159集						
編著者名		鈴木正貴、宮腰健司、加藤博紀、鬼頭剛、藤根久、中村賢太郎						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
おりづしんまちいせき 下津新町遺跡	いなざわし おりづしんまち 稲沢市下津新町	23220	090270	35度 15分 27秒	136度 49分 34秒	20050418～ 20050916、 20051006～ 20051111	2278㎡	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下津新町遺跡	集落	古墳時代 前期	落ち込み、土坑 など		土師器		古墳時代後期から 古代の集落	
	城郭	古墳時代 後期～ 平安時代	竪穴建物跡、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など		須恵器、土師器 灰釉陶器など			
		鎌倉時代 ～ 室町時代	掘立柱建物跡、 柵列、溝、井戸、 火葬施設、土坑 など		山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 木製品、木材、 金属製品および その関連遺物など		下津城周辺の遺 構群を検出 岐阜街道沿いの 集落	
		江戸時代	溝、井戸、土坑 など					
文書番号		発掘届出(16埋セ第115号・2005.3.8、17埋セ第48号・2005.9.1) 通知(16教生第2253号・2005.3.31、17教生第1239号・2005.9.29) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第56号・2005.9.26、17埋セ第77号・2005.11.15)						
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は4期に大別される。古墳時代前期では谷に向かう斜面に遺構や遺物が検出された。古墳時代後期から平安時代では竪穴建物と掘立柱建物を中心とした一般的な集落が確認された。鎌倉時代から平安時代では5段階に遺構変遷が把握され、宗教施設・屋敷・町場的な小区画の屋敷などが展開したと想定された。これらの遺構群は守護所下津との関連が注目されよう。戦国時代から江戸時代前半までは集落は途絶えるが、江戸時代後期では岐阜街道に面した屋敷が確認され、これが現在の下津新町につながるものと推定された。調査は当初「鎌倉街道周辺遺跡」として開始されたが、今回の調査区は推定鎌倉街道が通る自然堤防とは異なる河川による自然堤防上に立地しており、遺跡の内容も考慮した結果、「下津新町遺跡」という別遺跡として評価すべきと判断された。							

第160集 西松山峠窯跡

西松山峠窯跡は瀬戸市の中央部やや西よりの水野川と瀬戸川にはさまれた水野丘陵に位置し、標高約 125 m の丘陵東向き斜面に立地する。遺跡の周辺には水南小前窯跡や水南中窯跡などの 13 世紀の窯跡が集中する。発掘調査は国道 155 号改良工事にともなう事前調査として 750 m² を平成 18 年 6 月から 8 月にかけて実施した。

調査の結果、調査区は中世以降の土砂の流入や近現代の平場造成により地形が大きく改変されていることがわかり、窯業生産にともなう遺構としては灰原の一部と考えられる焼台集積遺構（SX001・002）を調査区北西部で検出したにすぎない。灰原の位置から窯体は調査区外に所在すると思われるが、地表面の観察では存否は確認できない。

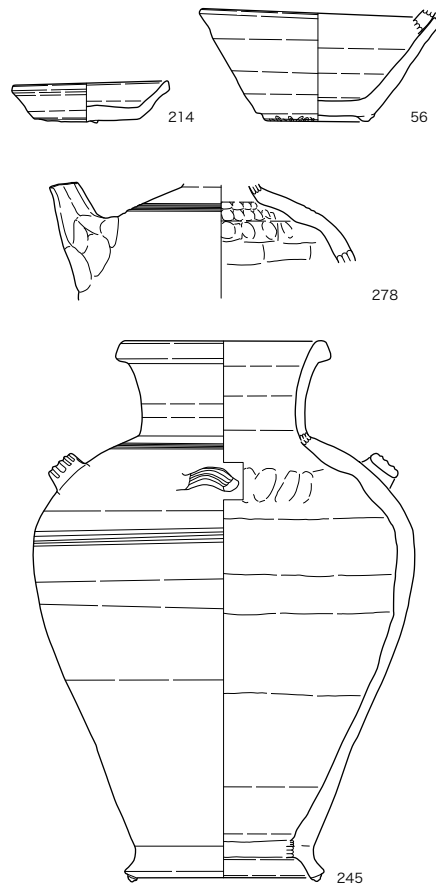
出土遺物の総数は底部 1 / 2 以上残存数で 1122 点を数えるが、その内の約 93% は第 7 型式の尾張型山茶碗である。特筆すべきは、出土数は少ないものの四耳壺・瓶子・水注・卸皿など前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土したことであり、青灰色と赤褐色の 2 色の焼台が出土したことから、古瀬戸も焼成していたことが明確となった。この時期の古瀬戸生産の中心である瀬戸区と水野区との関係を考える上で重要な資料を一つ加えることとなった。（宇佐見守）



調査区中央



SX001



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしまつやまとうげかまあと
書名	西松山峠窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 160 集
編著者名	宇佐見守・野村敏江・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根久・中村賢太郎
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2009 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしまつやまとうげかまあと 西松山峠窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 きたまつやまちょう 北松山町	23204	030183	35° 14' 13"	137° 4' 47"	20060620 ～ 20060803	750	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西松山峠窯跡	古窯跡	鎌倉	灰原・土坑	山茶碗・古瀬戸	古瀬戸の出土

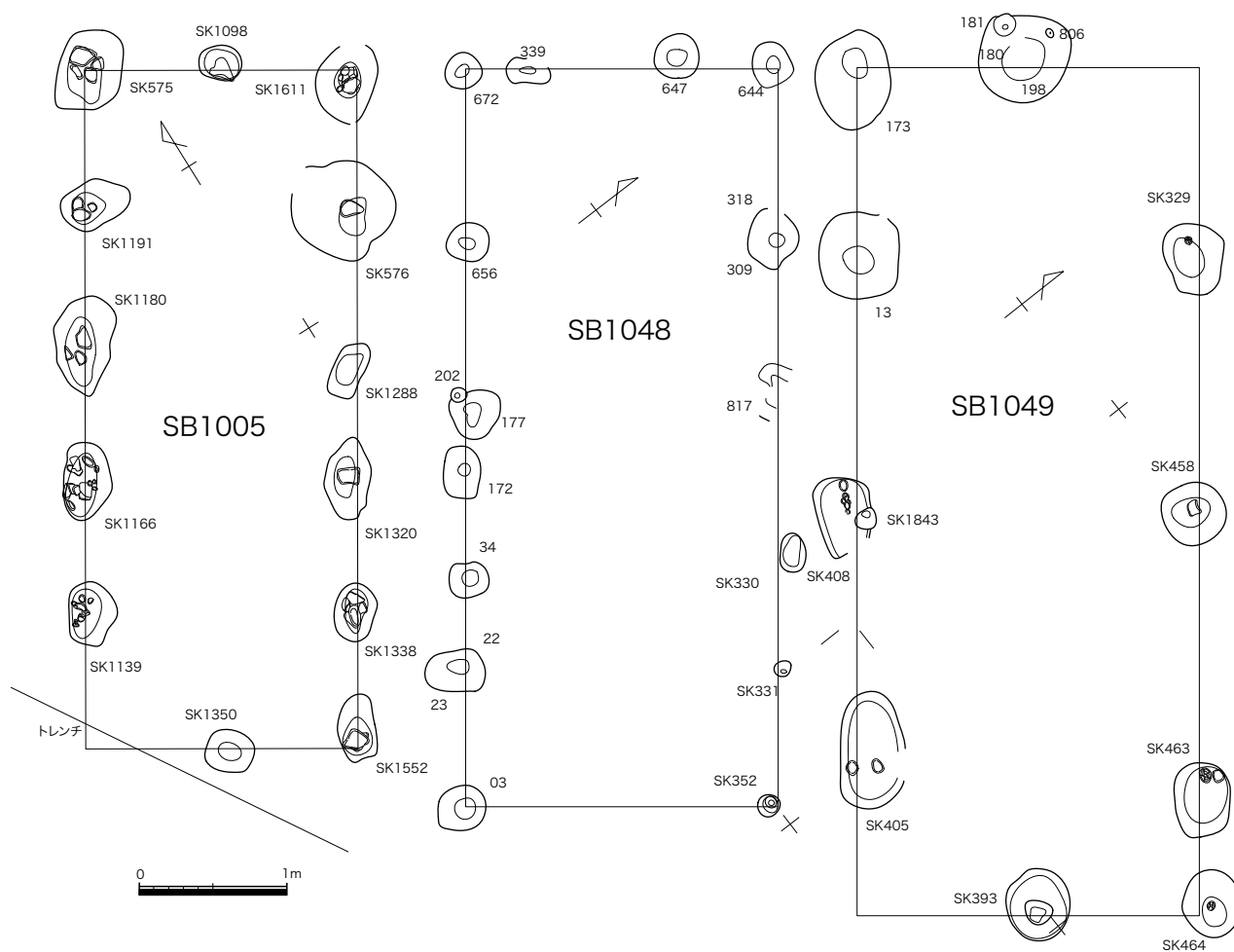
文書番号	発掘届出（18 埋セ第 7 号・18.5.16） 通知（18 教生第 426 号・18.5.30） 終了届・保管証・発見届（18 埋セ第 39 号・18.8.22） 鑑査結果通知（18 教生第 1306 号・18.9.25）
------	---

要約	調査区は中世以降の土砂流入や近現代の平場造成により地形が大きく改変されており、良好な遺構としては、北西部で灰原の一部である焼台集積遺構を検出したのみである。出土遺物としては、第 7 型式の尾張型山茶碗と前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土し、従来山茶碗専焼窯と考えられていたが本窯が、鎌倉時代（13 世紀後半）の古瀬戸焼成窯（山茶碗併焼窯）であることがわかった。
----	---

第162集 今町遺跡Ⅱ

今町遺跡は、豊田市今町地内に位置する。発掘調査は、第二東海自動車道建設工事に伴い、平成18年4月から6月まで実施された。整理および報告書作成作業は平成19年度に行い、本年度に報告書刊行までの作業を行った。

発掘調査の結果、戦国時代から江戸時代までの遺構や遺物が確認された。遺構は区画溝・井戸などの他に約1700基の柱穴などが検出されていた。報告書作成に際しては、柱穴群から掘立柱建物跡を可能な限り復元することを主眼に置いた。結果、94棟の掘立柱建物跡を想定し、これらの中で細長い長方形の大型掘立柱建物跡が多数存在することを明らかにした。これらの遺構は住居ばかりでなく倉庫などの機能が想定され、今町遺跡が蔵屋敷的な集落景観を持っていたのではないかと想定された。(鈴木正貴)



今町遺跡主要遺構実測図

報告書抄録

ふりがな		いまちよういせき に						
書 名		今町遺跡 II						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第162集						
編著者名		鈴木正貴、鬼頭剛、藤根久、中村賢太郎						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
いまちよういせき 今町遺跡	とよたし いまちよう 豊田市今町	23211	630476	35度 2分 19秒	137度 10分 14秒	20060427 ～ 20060627	2000m ²	第二東海 自動車道 建設
所収遺跡名	種別	主な時代 主な遺構			主な遺物		特記事項	
今町遺跡	集落	室町時代 掘立柱建物跡94棟、 ～ 柵列、溝、井戸15基、 江戸時代 石敷遺構、土坑 など			土師器(皿、鍋)、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 木製品など		倉庫群を伴う 集落 木簡	
文書番号	発掘届出(17埋セ第126号・2006.3.22) 通知(18教生第43号・2006.4.12) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第24号・2006.7.3)							
要約	今回の調査では戦国時代から江戸時代の遺構や遺物が確認された。これらは7段階に細別され、各段階で屋敷などの区画が設けられていたことが判明した。溝で囲まれた屋敷内には掘立柱建物跡・井戸・水溜状遺構などが配置されており、17世紀から18世紀後半で最盛期を迎えている。特に、掘立柱建物跡には細長い長方形プランのものが多く存在しており、倉庫群を形成していたと考えられる。このような遺構構成からみて、今町遺跡は蔵屋敷のような性格が想定される。遺跡は加茂郡の南端に所在し、矢作川岸に近接する場所にあつて、付近に川湊が存在した可能性も考えられる。水運を中心とした流通の拠点を形成する屋敷の一部を確認したものと評価されよう。							

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成20年度 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1 目的

埋蔵文化財に対する理解を深め、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図ることを目的に開催する。本展示会では愛知県内の発掘調査成果を基に、平易な歴史展示を実施する。

2 主催

愛知県教育委員会

稲沢市教育委員会

(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

3 埋蔵文化財展

1) 会場：稲沢市荻須記念美術館

稲沢市稲沢町前田365番地8(0587-23-3300)

2) 日時：平成20年10月18日(土)

～平成20年11月16日(日)

午前9時30分～午後5時

休館日

10月20日(月)・10月27日(月)

11月4日(火)・11月5日(水)

3) タイトル：

「A.D.775巨大台風 尾張国府・国分寺を襲う

—瓦が語る尾張の国プロジェクト

尾張国中島郡の古代災害史をひも解く—」

4 埋蔵文化財講演会(参加自由)

1) 会場：稲沢市総合文化センターホール

稲沢市国府宮三丁目1番1-101号

2) 日時：平成20年11月2日(日)午後2時～4時

3) 講師：早川万年 岐阜大学教授

4) 演題：「風水害と古代社会」

5 事業の内容について

埋蔵文化財展

1) 瓦が語る尾張国プロジェクト 尾張国中島郡の古代災害史をひも解く

稲沢市域を中心とした考古学資料に、尾張国府・国分寺成立までの歴史について、「災害」といキーワードを基にした展示解説。大きく弥生時代と奈良・平安時代の2つの時代を取り扱った。

なお展示準備および解説、ペーパークラフトの案内等に、25名の市民ボランティアの方々の協力を得た。

2) 平成19年度 新出土品展

平成19年度に稲沢市教育委員会や愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した遺跡について、出土資料と作業風景など写真やパネルなどを用いて展示・紹介。

展示遺跡：御山寺遺跡、町屋遺跡、朝日遺跡、桑下城跡、薬師ヶ根遺跡、寄島遺跡、東中田A遺跡、滝町遺跡

埋蔵文化財講演会

早川万年(岐阜大学教授)による「風水害と古代社会」と題する講演を開催した。

講演は、続日本紀などの文献資料にみられる災害の記録を読み解いてゆく内容であった。参加者は115名。

埋蔵文化財講座

会場：稲沢市荻須記念美術館 会議室

・講座1 日時：平成20年10月19日(日)午後1時30分～4時

内容：調査成果の報告

長野北浦遺跡、塔の越遺跡、一色青海遺跡(稲沢市)、御山寺遺跡(岩倉市)ほか

講師：愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員

・講座2 日時：平成20年11月16日(日)午後1時30分～4時

内容：「尾張国分寺とその時代を考える」

講師：梶原義実(名古屋大学講師)、北條献示(稲沢市教育委員会)、城ヶ谷和広(愛知県埋蔵文化財センター調査課長)

埋文ワークショップ

会場：稲沢市荻須記念美術館

日時：平成20年10月19日・11月9日(日)

午前11時から約40分

講師：愛知県埋蔵文化財センター職員

内容：稲沢市一色青海遺跡ほかの発掘調査の 슬라이ドをまじえた展示解説。およびオリジナル土器ペーパークラフトの作成。

参加者：計40名



埋蔵文化財講演会



ポスター



埋蔵文化財講座 1



埋蔵文化財講座 2



桑下城跡 「菊花双鶴鏡」



展示準備風景



展示解説パンフレット



埋文展展示パネル



埋文展展示パネル

尾張国の災害と飢饉

- 713 11. 1 尾張・三河国などで風雪。
- 726 12.24 尾張国で飢饉。
- 762 3.29 三河・尾張など9か国に日照りの被害。
4.14 尾張国で飢饉。
6. 3 尾張国で飢饉。
- 763 6. 7 尾張国で飢饉。
9.21 尾張国など6か国に凶作。
- 765 3.16 尾張・三河などの諸国で飢饉。
- 767 1.28 尾張国で飢饉。
- 769 8. 9 尾張国海部・中島二郡に洪水。
9. 8 洪水により鵜沼川(木曾川)の河道が変化し、尾張の桑葉・中島・海部の三郡が被害を受けた。尾張国の申し出により、土木工事を指導する技術者(解工使)が都から派遣され、河道復旧工事をすることが許された。
- 772 9.20 尾張国で飢饉。
773 2. 7 尾張・志摩二か国で飢饉。
774 2.30 尾張国で飢饉。
7.21 尾張国で飢饉。
- 775 8.22 伊勢・尾張・美濃国の三か国が異常な風雨により、300人あまりの人々と、牛馬1000頭あまりが流された。国分寺や寺などの塔が19施設で倒壊した。官人や個人宅は数えきれない被害を受けた。国から使者を派遣し、使者は斎宮の修理と諸国の被害状況の調査をする。
- 789 4.19 尾張・三河・美濃国が凶作。
- 796 7.19 尾張国で飢饉。
- 802 9. 3 尾張・三河など31か国が凶作。
805 12. 7 天災のため、尾張国などが凶作。
- 836 3.20 尾張国で飢饉。
837 3. 7 尾張国に水害。
- 843 6.25 尾張・三河など十八か国で飢饉。
- 854 2.15 尾張国、河川氾濫による水害。
- 865 12.27 尾張国の申し出により、広野河(木曾川)の河口を掘り、もとの流れに戻した。
- 866 4. 7 尾張国で飢饉。
7. 9 尾張国が進めていた広野河河口の工事を美濃国各郡・厚見二郡の郡司らが妨害し、死傷者がでた。太政官は、郡司らを捕え死傷者数を報告するよう命じた。「広野河事件」
7.20 広野河の工事をしばらく停止するよう、太政官が尾張国司に命じた。
7.26 広野河の工事を妨害し人夫を殺害した郡司らを取り調べよう、太政官が美濃国司に命じた。
- 872 4.19 尾張国の昨年日照りの被害報告がある。
- 884 8.26 尾張国分寺が焼損したので、愛智郡の願興寺を国分寺にした。



埋文展キャラクター「鬼板さま」



埋蔵文化財 展示風景



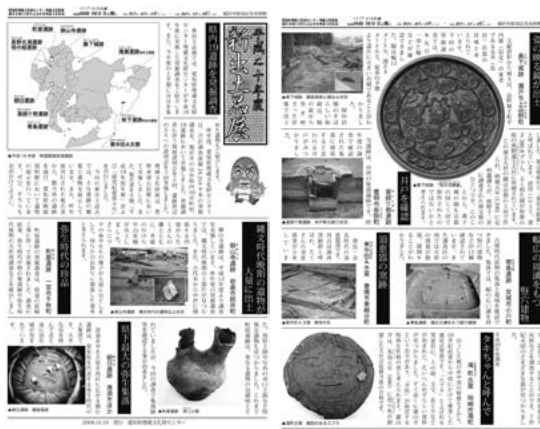
埋蔵文化財 展示風景



埋文ワークショップ



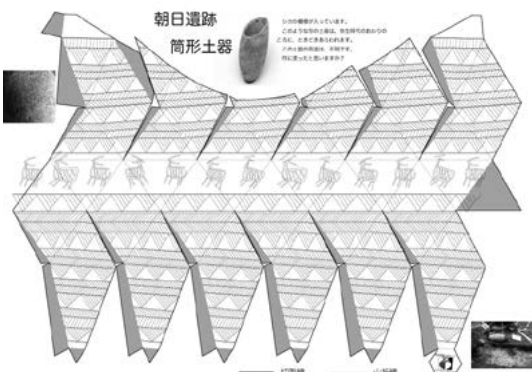
埋文ワークショップ



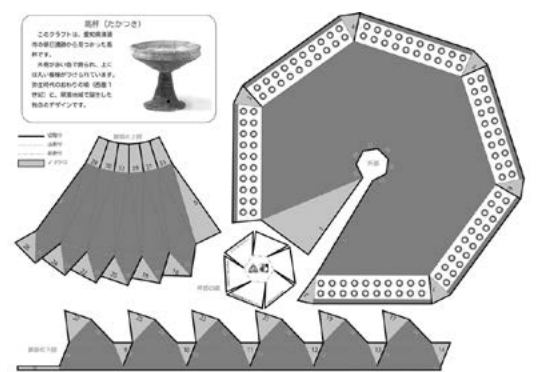
新出土品展 リーフレット



小学生の見学



ペーパクラフト



ペーパクラフト

V．発掘調査技術等研修会の記録

平成20年度 発掘調査技術等研修会 開催報告

1. 目的

具体的な遺跡発掘調査を検討する中で、埋蔵文化財保護体制の多様なあり方を確認し、埋蔵文化財行政が今後行うべき基本的な異様等について研修する。

2. タイトル 「民間調査組織と埋蔵文化財発掘調査について」

3. 主催 愛知県教育委員会・(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 主管 愛知県埋蔵文化財センター

4. 日時 平成21年2月13日(金)

5. 会場 愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室 (弥富市前ヶ須町野方802-24)

6. 内容

1 「埋蔵文化財保護体制のあり方について」

講師 愛知県埋蔵文化財調査センター
所長 都築暢也

2 「調査標準と発掘調査のてびきの内容等について」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
統括専門員 赤塚次郎

3 「東海市松崎遺跡での現地検討会」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
調査研究専門員 池本正明

4 「民間調査組織を活用した発掘調査とその問題点」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
主任専門員 石黒立人





研修会の最初は、弥富市の愛知県埋蔵文化財センター2階の研修室にて開催された。最初に、愛知県内の1970年代からはじまる埋蔵文化財の保護体制の歴史を顧みたうえで、現在の体制や問題点がまとめられた。その中で「資格制度」や「民間調査組織の導入」、「埋蔵文化財センター」の問題が提示された。次に、文化庁が取りむ「発掘調査のてびき」に示される「調査標準」について、グリッドの設定や遺構記号の例を挙げながら、その重要性和必要性を説いた。



午後からは、愛知県埋蔵文化財センターの東海市松崎遺跡の現場詰所に場所を移して研修会が続けられた。本センターが実施している「民間支援」体制について、調査現場の担当者から説明が行われた。ここでは、調査の全体指示を財団の研究者が行い、民間の調査員は労務管理や測量などを取りおこなっている。その中で、安全管理や測量技術、作業員の人員確保など、民間調査機関の介入により改善された事例が紹介された。また調査現場に移動する際に、道路横断の際の指差確認看板の設置等を確認したり、作業の効率化を図るために導入された機械の紹介が行われた。現場視察の後、詰所内にて本センターが取り組んでいる「民間支援」の体制について、他の遺跡の調査事例の報告が行われた。



質疑応答では、既に民間調査機関を導入した市町村担当者や、次年度以降に導入を検討している組織の参加者から、経費の増減や報告書の作成についての意見交換がなされた。また、専門の調査員と民間調査組織の調査員との立場のあり方などについて活発な意見交換がなされた。



VI. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料	日付
美濃加茂市民ミュージアム	「土に残る記憶Ⅳー中世びとの世界ー」展の展示に利用のため。	郷上遺跡	遺構写真 (098-026,098-027, 098-063,098-068,098-079, 098-092,098-107)	デジタルデータ 11点 平成20.4.7
		室遺跡	遺構写真 (049-006)	
		水入遺跡	遺構写真 (108-145)	
		大毛沖遺跡	遺構写真 (066-030,066-038)	
東武計画株式会社 空間情報	「中部地方の古地理に関する調査報告書」に利用のため。	朝日遺跡	遺構写真 (遠景)	転載許可 平成20.4.14
信濃毎日新聞社	「北信濃・柳沢遺跡の銅戈・銅鐸」(仮題)(長野県埋蔵文化財センター編著)に利用のため。	八王子遺跡(一宮市)	銅鐸写真(A面および側面)	デジタルデータ2点 平成20.5.8
名古屋博物館	特別展「尾張名古屋は地下で待つー城下町大発掘」に利用のため。	名古屋城三の丸遺跡(第15集)	巻頭カラー航空写真写真 巻頭カラー遺跡全景写真(図版13-1)	デジタルデータ9点 平成20.5.28
		名古屋城三の丸遺跡III(第37集)	調査区全景写真(図版6-2)	
		名古屋城三の丸遺跡VII(第127集)	池状遺構復元図(図版213) 池状遺構復元CG 調査区全景写真(図版1・下) 調査区写真(図版6-左・右)	
		名古屋城三の丸遺跡VIII(第161集)	調査区地点(図2)	
株式会社雄山閣	「季刊考古学」(第104号)(特集 弥生・古墳時代の木製農具)に利用のため。	勝川遺跡	竖杵写真	デジタルデータ2点 平成20.5.28
		朝日遺跡	曲柄跡	
清須市教育委員会	「新川町史 通史編」「原始編」に掲載利用のため。	朝日遺跡	63A 区縄文時代貯蔵穴 63A 区SK01 出土深鉢 遠賀川系土器壺 縄文土器深鉢 61AB 区乱杭 61AB 区逆茂木 89BC 区環濠と銅鐸埋納土坑 89BC 区銅鐸埋納土坑 円窓付土器 バレススタイル土器 S 字状口縁甕 63G 区検見塚周溝 朝日銅鐸	デジタルデータ18点 平成20.6.4
		廻間遺跡	60AB 区SZ01	
		西上免遺跡	95 区SZ01	
		清洲城下町遺跡	62E 区堅穴住居 志野茶碗	
鈴鹿市長	特別展「弥生人のスローライフ〜おコメ生活はじめました〜」に利用のため。	朝日遺跡(第83集) 朝日遺跡(第32集)	図版8-2 15号人骨(083-128) 紡錘車(032-061)	デジタルデータ2点 平成20.6.23
三好町教育委員会	夏季企画展「みよし原始ロマン探検」に利用のため。	伝法寺野田遺跡	水田遺構(141-010,141-016)	デジタルデータ2点 平成20.7.8
鳥取県埋蔵文化財センター	青谷上地寺遺跡フォーラムに利用のため。	朝日遺跡	木製高杯	デジタルデータ1点 平成20.7.14
株式会社新人物往来社	『開発と災害ー中世都市研究14』に利用のため。	桑下城跡	調査区全景 出土和鏡	デジタルデータ2点 平成20.7.16
青谷上寺地遺跡展示館	展示館ロビーに利用のため。	朝日遺跡	装身具類(034-0143)	デジタルデータ1点 平成20.7.24
愛知県総務部長	「愛知県史 資料編10 中世3」に利用のため。	大毛池田遺跡	卒塔婆(072-154,072-155)	デジタルデータ2点 平成20.8.7
下関市立考古博物館	企画展「動物とのかかわりー先史時代の動物利用ー」に利用のため。	朝日遺跡	装身具(032-032) 人形・鳥形木製品(032-035) 鳥形木製品(032-036) ユハズ(032-037) ブタ下顎骨(032-057) シカ椎骨(032-058) 紡錘車(032-061) 漁労具(032-062) 骨角器54-1(083-548) 骨角器58,56,59(083-551) 骨角器69,70(083-554) 骨角器71(083-555) 骨角器77-80,86,85(083-557) 骨角器94(083-559) 骨角器103-106(083-565) 骨角器107-111,119(083-566) 骨角器113-1,112-1(083-567) 骨角器B-041	デジタルデータ22点 平成20.8.18
		八王子遺跡	木製品W-5160(092-234) 木製品W-5161(092-235) 鳥形木製品W-5022(092-295)	
		本川遺跡	木製品(100-006)	

愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成 20 年度 2009.3

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		日付
鈴鹿市長	特別展「弥生人のスローライフ～おコメ生活はじめました～」に利用のため。	愛知県埋蔵文化財センター創立20周年記念企画展パンフレット 「発掘されたムラと宝にいにしえの暮らしと技を探る」	P24 機織りイラスト	デジタルデータ 1点	平成20.8.23
春日井市教育委員会	特別展「春日井の古代史事始」に利用のため。	松河戸遺跡	遺構写真 (048-004,048-010,048-019) 遺構写真 遺構写真 (PL.77)	デジタルデータ 3点 密着写真 1点 転載許可 1点	平成20.9.9
		勝川遺跡	遺構写真 (000-045,000-047,000-048,029-021 2-208,2-209,029-003,029-036, 029-037, 人形, 墨書)	デジタルデータ 11点	
		朝日遺跡	人骨出土状況 (083-128)	デジタルデータ 1点	
		廻間遺跡	SZ01(010-006)	デジタルデータ 1点	
		牛牧遺跡	SZ41(095-009)	デジタルデータ 1点	
財団法人公園緑地管理財団 吉野ヶ里公園管理センター	「吉野ヶ里ノート」に利用のため。	朝日遺跡	逆茂木 杭列	デジタルデータ 2点	平成20.10.9
西尾市教育委員会 「西尾」編集委員会	中学校社会科副読本「西尾」に利用のため。	岡島遺跡	方形周溝墓 (043a-015)	デジタルデータ 1点	平成20.10.20
二宮町史編さん委員会	「二宮町史普及版」に利用のため。	朝日遺跡	逆茂木	デジタルデータ 1点	平成20.10.20
株式会社ジャパン通信情報セン ター「文化財発掘出土情報」	「文化財発掘出土情報」2008年12月号又は 2009年1月号「各地の動向」に利用のため。	桑下城跡	現地説明会資料	PDF データ 1点	平成20.10.23
株式会社雄山閣	「季刊考古学」第106号(2009年1月20日発行 予定)に利用のため。	八王子遺跡	大溝内の井泉 井泉周辺から出土した小型精製土器 群	デジタルデータ 2点	平成20.12.5
株式会社ベネッセコーポレー ション	進研模試 2009年度 総合学力マーク模試・6月 (日本史B)に利用のため。 (許可後、利用しない旨の報告有り)	朝日遺跡	巴型銅器	デジタルデータ 1点	平成20.12.11
愛知県総務部長	「愛知県史 資料編7 古代2」に利用のため。	下懸遺跡	出土木簡	デジタルデータ 1点	平成21.1.4
		志賀公園遺跡	出土木簡	デジタルデータ 5点	
ひまわりネットワーク株式会社 コンテンツ部第2編成グループ	長久手町政番組「Weekly ながくて」に利用のため。	朝日遺跡	調査風景写真 (030-001,030-005, 030-013,030-014,030-038,030-042)	デジタルデータ 6点	平成21.2.4

<<平成20年4月1日～平成21年2月6日>>

今年度はデジタルデータでの貸出がほとんどであった。データの貸出の際は、メディアを郵送する以外に、利用目的に合わせた大きさのデータをメールに添付する場合もあった。

ホームページ

CMSのリニューアル

平成20年4月以降、当センターのホームページのCMSにXoopsを採用した。その結果、データの所在がより明確になるとともに、PDFデータのダウンロード件数や記事の閲覧数が把握しやすくなった。このことは、記事を投稿する職員の意識向上に繋がっている。

また、昨年度より公開している「遺跡アルバム」について、今年度は26遺跡、2,129コマの写真を追加した。合わせて写真に付随するデータについて、図版番号や遺物番号だけではなく、報告書に添付される遺物一覧表から器種や大きさなどの観察記録をWebデータベースにコピーした。その結果、より器種分類など詳細なデータを表示できるようになるとともに、検索にヒットする確率が高くなった。

また国立国会図書館データベース・ナビゲーション・サービス (Dnavi) に、「遺跡の位置を探す」と「ダウンロード」、「遺跡アルバム」の3タイトルが登録された。



▲トップページ



▲ダウンロードページ



▲遺跡アルバム—遺構—



▲遺跡アルバム—遺物—

サイトマップ

- 考古学を学ぶ
 - こども講座
 - ようこそばれ〜す遺跡へ
 - 弥生神との出会い
 - 信長が夢見た城下町
 - 考古学入門講座
 - 1.発掘調査編
 - 2.遺物整理編
 - 3.保存処理編
 - 4.科学分析編
- 考古学アーカイブ
 - 遺跡の位置を探す
 - 簡易検索
 - 詳細検索
 - 遺跡アルバム
 - 簡易検索
 - こだわりの一品
 - 展示会案内
- News
 - その他
 - 講座・講演会
 - 埋文
 - ニュース投稿
 - アーカイブ
- Links
 - その他
 - 考古学関係
 - 埋蔵文化財センター
 - 登録する
 - 人気リンク
 - 高評価リンク
- FAQ
 - 愛知県埋蔵文化財センター
 - お問い合わせ
 - ご利用案内
 - 刊行物等のダウンロード・入手法について
- Downlords
 - 研究紀要
 - 第1号
 - 第2号
 - 第3号
 - 第4号
 - 第5号
 - 第6号
 - 第7号
 - 第8号
 - 第9号
 - 現地説明会資料
 - 1999年度
 - 2000年度
 - 2001年度
 - 2002年度
 - 2005年度
 - 2006年度
 - 2007年度
 - 2008年度
 - 広報誌
 - まいぶん愛知
 - 埋蔵文化財愛知
 - 年報
 - 平成11年度
 - 平成12年度
 - 平成13年度
 - 平成14年度
 - 平成15年度
 - 平成16年度
 - 平成17年度
 - 平成18年度
 - 平成19年度
 - 報告書
 - 人気ダウンロード
 - 高評価ダウンロード
- あいち埋文Blog
 - その他
 - 説明会
 - 調査速報
 - 展示・講演会等



▲子ども向けコンテンツ

Web 更新データ

●ブログエントリー数

発掘調査	9件
説明会	11件

●ニュースエントリー数

講座・講演会	3件
説明会	9件
その他	6件

●公開ファイル数

報告書PDF	93本
現地説明会PDF	25本
年報PDF	147本
紀要PDF	64本
チラシ類	2本
まいぶん愛知PDF	32本
遺跡アルバム	193遺跡 14,785件

CDコピーサービス (H20.4.1～H21.2.6)

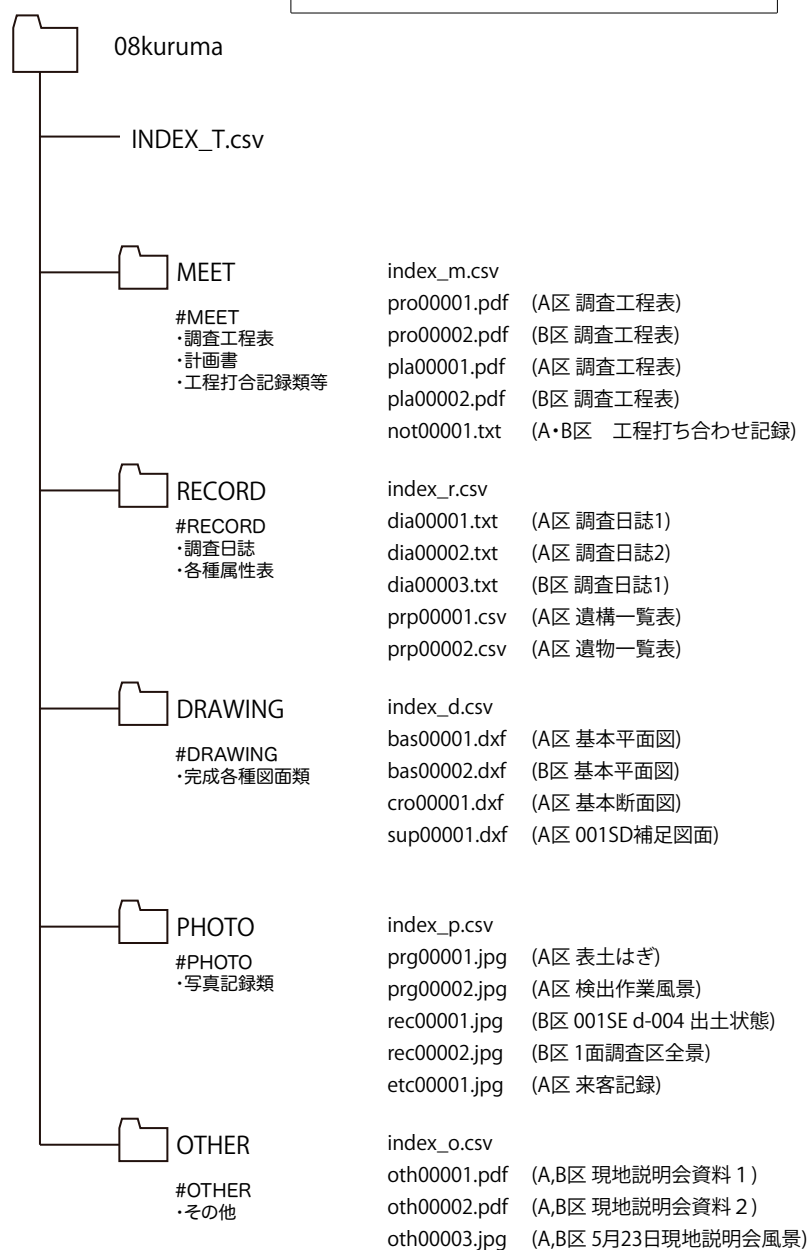
●PDFコピーサービス一覧

1	島根県	038岩倉城	072大毛池田	082毛受	086大脇城	089岩作
2	岐阜県	000勝川	010廻間	048松河戸	072大毛池田	073西上免
3	福岡県	069鳥羽城	075円通寺	083朝日		
4	福井県	035朝日5	040山中			
5	愛知県	032朝日3	033朝日4	034朝日5		
6	愛知県	048松河戸	027勝川4	019勝川3	03勝川	0勝川
7	大阪府	032朝日3	083朝日6			
8	愛知県	010廻間	030朝日1	032朝日3	073西上免	
9	愛知県	042東光寺	046伊保	047三斗目	048松川戸	056黒笹
10	東京都	065清洲6	070清洲7			
11	東京都	017清洲	027清洲2	050清洲3	053清洲4	054清洲5
12	愛知県	010廻間	014岡島	034朝日5	043岡島2	045山中
13	愛知県	011阿弥陀寺	022森岡	025清水	042東光寺	073西上免
14	愛知県	069鳥羽城				
15	京都府	049室				

情報センター

調査成果の電子納品

今年度より発掘支援業者より納品される数々のデジタルデータについて、統一した整理方法を提案・実施した。全てのデジタルデータファイル名を、整理用の記号と通番からなるものとし、5つのフォルダーに格納するものである。ファイルの内容等は、索引用のCSVファイルを作成し記入するようにした。この規格により、ローカルサーバ内にデータを整理して格納することが可能になった。

愛知県埋蔵文化財センター
電子納品ガイドライン2008 version_1.0

▲電子納品 データ格納イメージ

《あいち埋文ワークショップ no.2》

日時 平成 20 年 8 月 23 日（土）、24 日（日）午前 10 時～12 時・午後 1 時～3 時

場所 愛知県芸術文化センター地下 2 階「アートプラザ・ビデオルーム」

内容 パネル展示およびワークショップを実施。参加人数 156 名。

朝日遺跡や現在調査中の遺跡の概要のパネル展示とプレゼンテーション。遺跡から出土した昆虫遺体の顕微鏡による観察。ペーパークラフトは「高杯」。



▲会場入り口



▲昆虫の観察



▲土器の展示風景



▲ペーパークラフト作成風景

《愛知県陶磁資料館 第六展示室 まいぶん愛知特集陳列 no.06》

平成 19 年度に刊行された報告書より、三ヶ所遺跡（日進市）、西田面遺跡（日進市）、上品野蟹川遺跡（瀬戸市）、惣作鐘場遺跡（瀬戸市）、高坂遺跡（豊川市）、名古屋城三の丸遺跡（名古屋市）の 6 遺跡の遺物展示とパネル解説。



《愛知県埋蔵文化財センター・中日文化センター共同企画
新しい愛知の古代文化に触れる、考古学講座 no.2
「尾張国誕生物語」》

講師：愛知県埋蔵文化財センター調査課研究員
開講日：7月第三水曜日 午前10時から12時
受講者：66名

<内容>

遺跡の発掘調査の説明と解説。最新の研究情報の紹介。



▲中日文化センター

- 第1回(7/16)「尾治国誕生 新しい古墳文化物語」 赤塚次郎
第2回(8/20)「伊勢湾の恵み 海部集団の大活躍」 早野浩二
第3回(9/17)「考古学の調査現場に残る自然災害の跡」 鬼頭 剛
第4回(10/15)「瓦が語る古代寺院の風景 大陸建築の衝撃」 永井邦仁
第5回(11/19)「中央集権と地方 律令という尾張の国」 城ヶ谷和広

《JR さわやかウォーキング》

日時：平成 20 年 4 月 29 日（火：昭和の日）

<内容>

JR 東海エージェンシーが企画実施する JR さわやかウォーキングの中核となる施設としてセンター施設を提供し、財団と埋蔵文化財センターの事業について広く周知を図る。

センター施設の1階および2階の一部を公開、展示物の解説。2階研修室にて、発掘調査のガイダンスを実施。1階に冷水機を設置。子供の参加者にペーパークラフトを配布。参加者：2,500名

日時：平成 20 年 11 月 2 日（日）

<内容>

JR 東海エージェンシーが企画実施する JR さわやかウォーキングの中核の一つとして埋蔵文化財展示を案内し、財団と埋蔵文化財センターの事業について広く周知を図る。

埋蔵文化財展示の案内、解説。参加者へのペーパークラフトの配布。参加者：2,899名



▲ JR さわやかウォーキング



▲ JR さわやかウォーキング

現地説明会など

現地説明会

遺跡名	開催地	所在地	参加者
桑下城跡	平成 21 年 1 月 24 日 (土)	瀬戸市上品野町	300 名

地元説明会

遺跡名	開催日	所在地	参加者
吉竹遺跡	平成 20 年 6 月 15 日 (日)	新城市牛倉	55 名
滝町古窯	平成 20 年 6 月 29 日 (日)	岡崎市滝町	60 名
羽根遺跡	平成 20 年 8 月 9 日 (土)	豊川市萩長	90 名
車塚遺跡	平成 20 年 8 月 23 日 (土)	岡崎市岩津町	70 名
石岸遺跡	平成 20 年 9 月 13 日 (土)	新城市須長	70 名
加原遺跡	平成 20 年 11 月 15 日 (土)	新城市大宮	85 名
惣作遺跡	平成 20 年 12 月 14 日 (土)	安城市木戸町	110 名
松崎遺跡	平成 20 年 12 月 23 日 (火)	東海市大田町	200 名
柿下遺跡	平成 21 年 2 月 7 日 (土)	新城市柿下	60 名
モリ下遺跡	平成 21 年 2 月 28 日 (土)	新城市八束穂	75 名
石座神社遺跡	平成 21 年 2 月 28 日 (土)	新城市大宮	70 名

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
滝町古窯	平成 20 年 6 月 15 日 (日)	藤澤良祐	愛知学院大学
滝町古窯	平成 20 年 9 月 3 日 (水)	仲野泰裕	愛知県陶磁資料館
滝町古窯	平成 20 年 9 月 5 日 (金)	井上喜久男	愛知県陶磁資料館
塔の越遺跡	平成 20 年 11 月 18 日 (火)	柴垣勇夫	愛知淑徳大学
松崎遺跡	平成 20 年 12 月 2 日 (火)	森 勇一	愛知県立津島東高等学校
モリ下遺跡	平成 20 年 12 月 10 日 (水)	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授
松崎遺跡	平成 20 年 12 月 12 日 (金)	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授
桑下城跡	平成 20 年 12 月 22 日 (月)	千田嘉博	奈良大学
松崎遺跡	平成 20 年 12 月 22 日 (月)	福岡猛志	日本福祉大学
桑下城跡	平成 21 年 1 月 16 日 (金)	丸山 広	名城大学
桑下城跡	平成 21 年 2 月 17 日 (火)	仲 隆裕	京都造形芸術大学
石座神社遺跡	平成 21 年 2 月 23 日 (火)	森 勇一	愛知県立津島東高等学校

報告書作成のための指導

朝日遺跡	平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月	森 勇一	愛知県立津島東高等学校
K-G-93 号窯跡	平成 21 年 3 月 9 日 (月)	井上喜久男	愛知県陶磁資料館
桑下東窯跡	平成 21 年 3 月 27 日 (金)	藤澤良祐	愛知学院大学

平成20年度 愛知県埋蔵文化財センター 組織一覧

運営協議会委員

足立 守	名古屋大学教授
伊藤秋男	南山大学名誉教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
大澤義洋	愛知県都市教育長協議会会長 瀬戸市教育委員会教育長
柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
多田 譲	愛知県教育委員会生涯学習監
藤澤良祐	愛知学院大学教授
肥塚隆保	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長

専門委員

考古学	植崎彰一	名古屋大学名誉教授
考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学副学長 日本福祉大学附属高等学校長
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	窪寺 茂	独立行政法人国立文化財研究所 奈良文化財研究所 建造物研究室長
考古学 動物学 植物学	渡辺 誠	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷 昭	長野県看護大学教授
保存科学	肥塚隆保	独立行政法人国立文化財研究所 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

所 長

清水泰明

管理課

課長補佐	伊藤義幸
主任主査	寺西孝生
主 任	松澤 実 山本謙一郎
主 事	垂澤由美子

調査課

課 長	城ヶ谷和広
統括専門員	赤塚次郎
主任専門員	石黒立人
調査研究専門員	小澤一弘 松田 訓 宮腰健司 酒井俊彦 池本正明 鈴木正貴 樋上 昇
調査研究主事	宇佐見 守 鵜飼雅弘 成瀬友弘 岡久雅浩
調査研究主任	堀木 真美子 永井宏幸 鬼頭 剛 武部真木 岡久雅治 蔭山誠一 川添和暁 永井邦仁 早野浩二

年報 平成20年度

平成21年3月

編集・発行 (財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷 株式会社
